

平成 29 年度札幌市の温暖化対策推進に関する市民アンケート調査

1 調査目的

平成 27 年 3 月に策定した「札幌市温暖化対策推進計画」の進行管理を行うとともに、本計画に基づく施策を効果的に推進していくための基礎的な資料とするため、温暖化に関する市民意識等を把握するもの。

2 調査対象

住民基本台帳より無作為抽出された 18 歳～79 歳の市民 3,000 人

3 回答者数

1,297 名（回収率 43.2%）

4 調査期間

平成 30 年 1 月 22 日（月）～2 月 19 日（月）

5 結果

次ページ以降のとおり

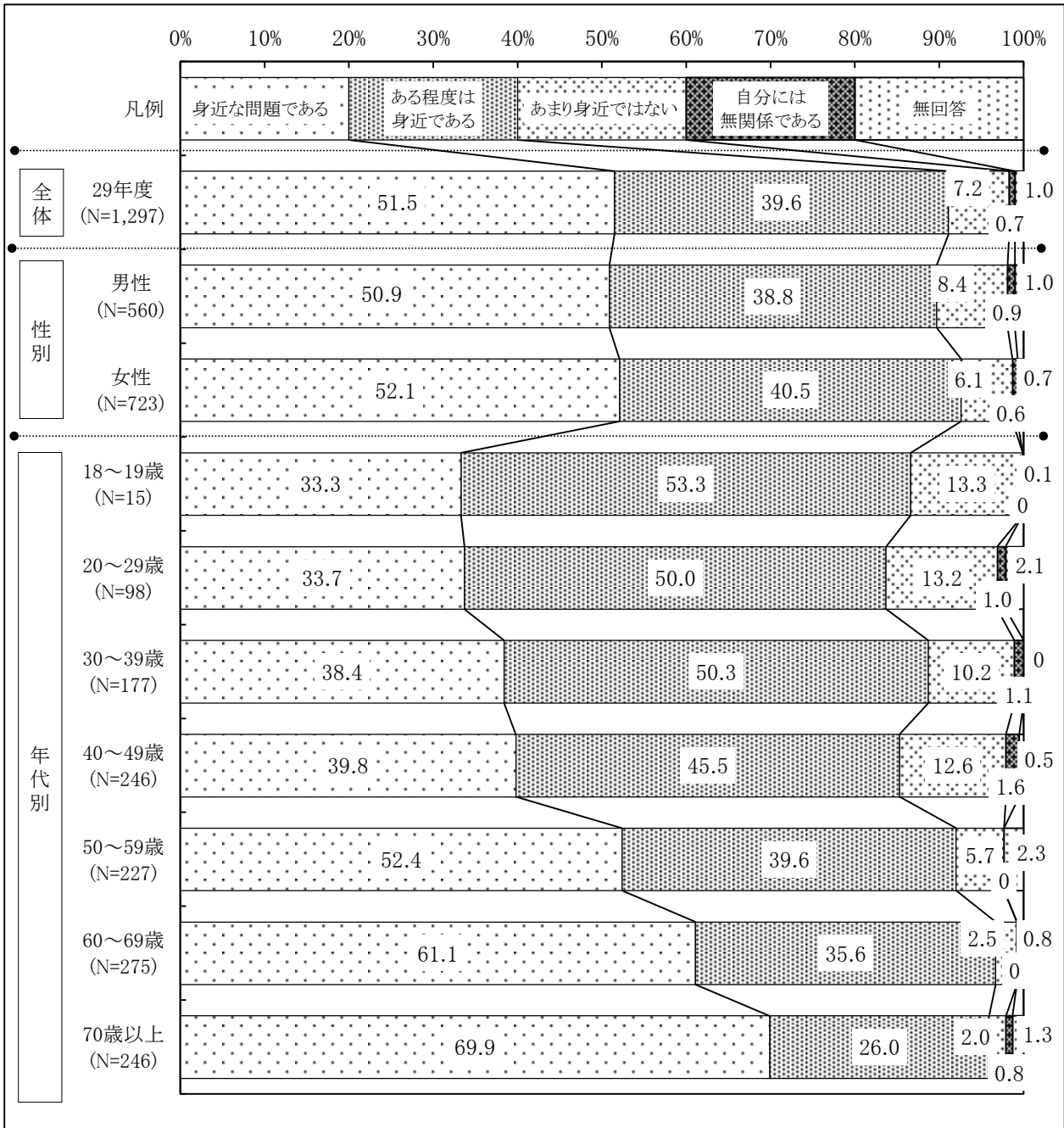
■温暖化への関心度

【問1】 あなたは、地球温暖化を身近な問題だと思っ
ていますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

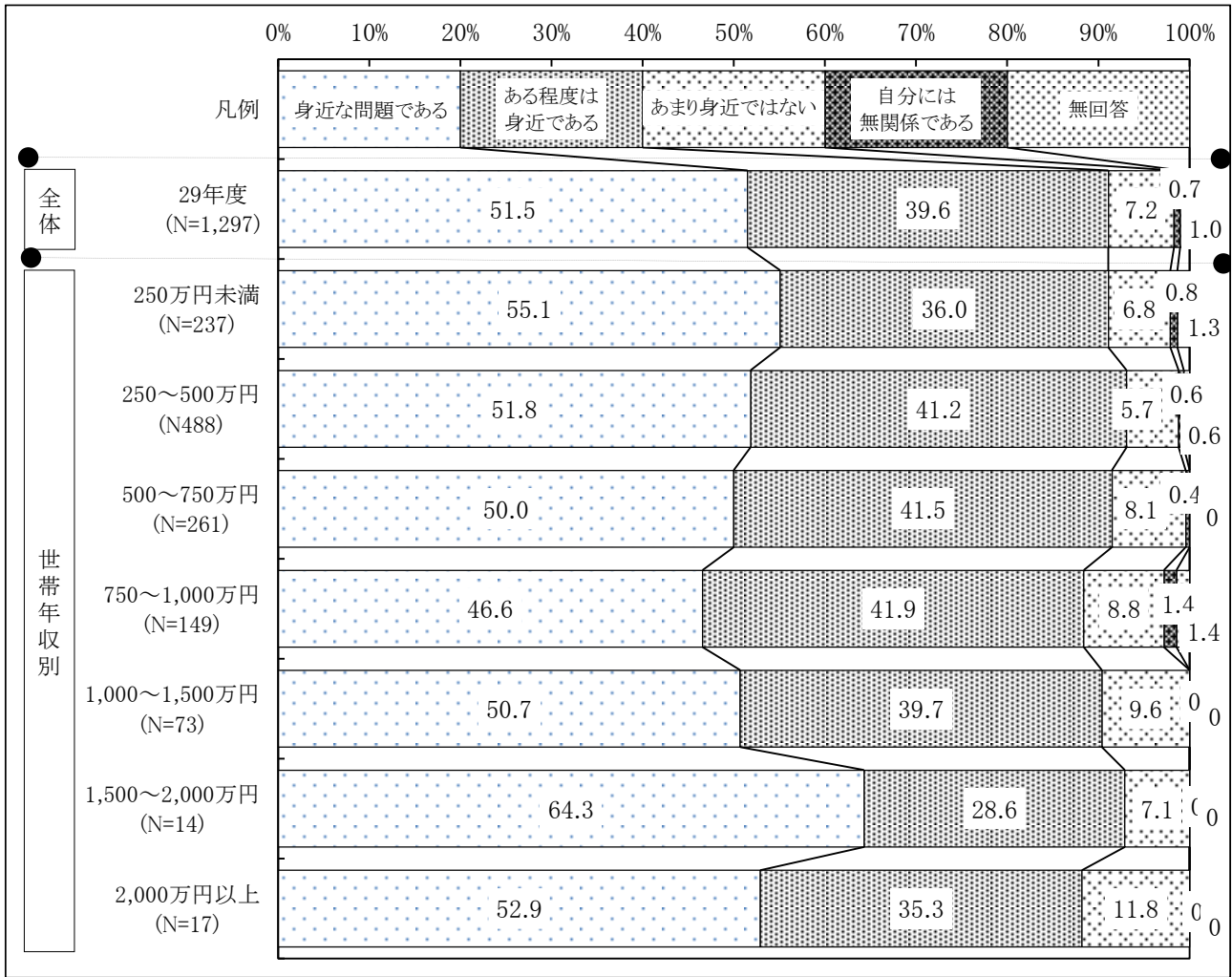
【全体】 51.5%の人が地球温暖化を「身近な問題である」と思っている。

【性別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「身近な問題である」は、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。



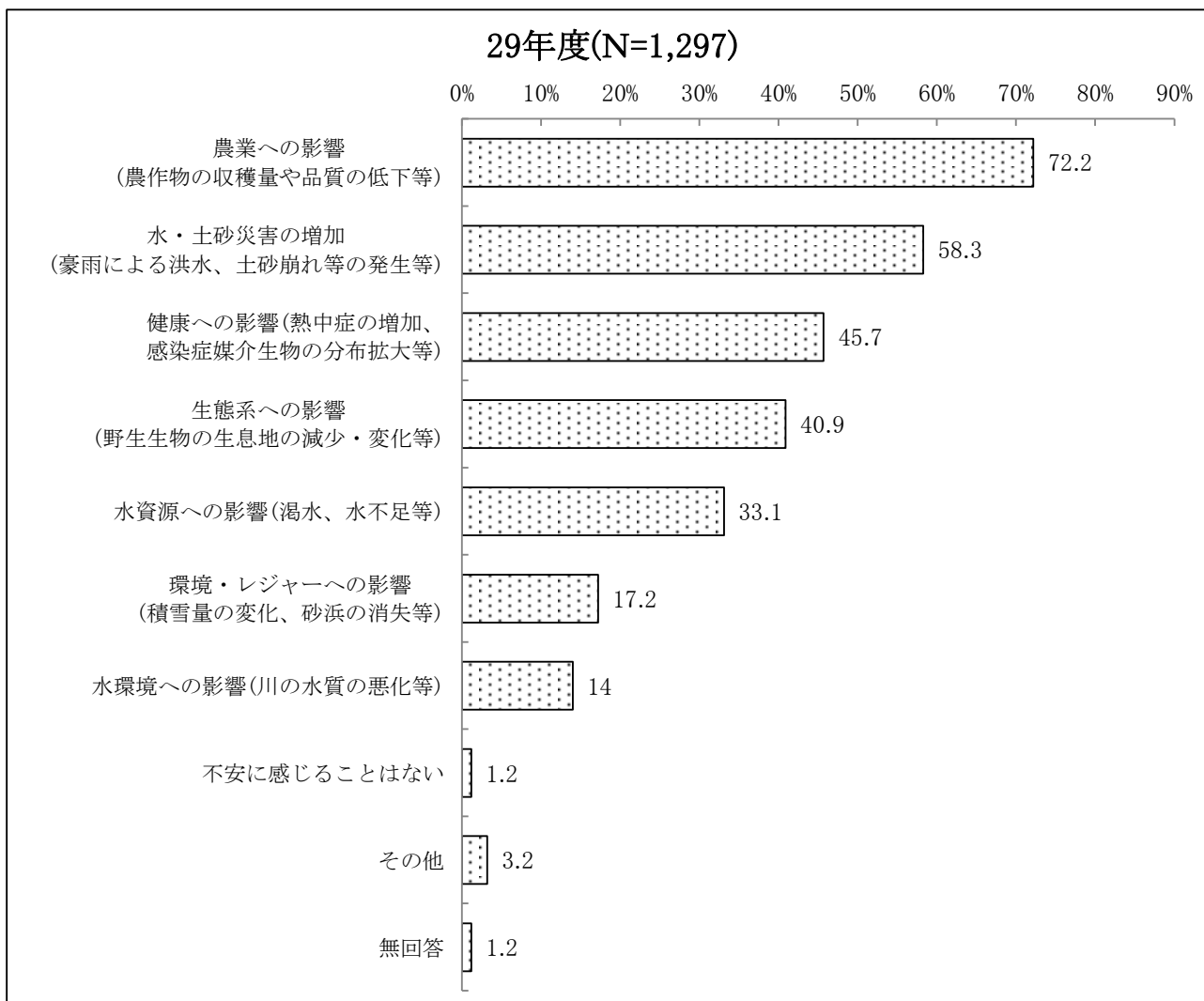
【世帯年収】地球温暖化を「身近な問題である」と思っている人は、1,500～2,000万円が64.3%と最も高くなっている。



■温暖化による生活への影響で不安に感じること

【問2】 地球温暖化が私たちの生活に及ぼす影響で、あなたが不安に感じるものは何ですか。
あてはまるものに3つまで○をつけてください。

【全体】温暖化による生活への影響で不安に感じることは、「農業への影響」が72.2%、「水・土砂災害の増加」が58.3%、「健康への影響」が45.7%。



【性別】「健康への影響」は女性が50.1%であり、男性の40.4%より9.7ポイント高い。「生態系への影響」は男性が43.9%であり、女性の38.7%より5.2ポイント高い。

【年代別】18歳～19歳では「生態系への影響」、その他の年代では「農業への影響」が最も高い。「健康への影響」は20歳～29歳(56.1%)で最も高い。

【世帯年収別】1,500～2,000万円では他の年収より「農業への影響」、「生態系への影響」が高く、「水環境への影響」、「水資源への影響」が低い。2,000万円以上では他の年収より「農業への影響」、「健康への影響」が低い。

	サンプル数	農業への影響 (農作物の収穫量や品質の低下等)	水・土砂災害の増加(豪雨による洪水、土砂崩れ等の発生等)	健康への影響(熱中症の増加、感染症媒介生物の分布拡大等)	生態系への影響 (野生生物の生息地の減少・変化等)	水資源への影響(渇水、水不足等)	環境・レジャーへの影響 (積雪量の変化、砂浜の消失等)	水環境への影響 (川の水質の悪化等)	その他	不安に感じることはない	無回答
全体	1,297	72.2	58.3	45.7	40.9	33.1	17.2	14.0	3.2	1.2	1.2
《性別》											
男性	560	71.6	58.0	40.4	43.9	32.0	17.3	15.0	3.4	1.8	0.4
女性	723	72.9	58.5	50.1	38.7	33.7	17.3	13.1	2.9	0.8	0.1
《年代別》											
18～19歳	15	46.7	46.7	40.0	73.3	13.3	26.7	0	6.7	0	0
20～29歳	98	69.4	31.6	56.1	48.0	34.7	27.6	13.3	1.0	2.0	0
30～39歳	177	67.8	51.4	46.3	42.9	26.0	26.6	13.0	2.3	3.4	0
40～49歳	246	71.5	54.9	45.1	47.6	30.1	16.3	11.4	3.7	1.2	0
50～59歳	227	71.8	60.8	45.8	41.0	31.3	17.6	16.3	2.2	0.9	0
60～69歳	275	75.3	66.2	42.2	41.8	34.5	10.2	15.6	4.4	0.4	0.7
70歳以上	246	76.0	66.7	46.7	27.2	41.1	14.6	14.2	3.3	0.8	0.4
《世帯年収別》											
250万円未満	236	67.8	55.5	42.8	36.4	34.7	15.7	17.8	3.4	2.1	0.4
250～500万円	488	74.2	61.1	45.5	38.7	34.6	17.6	12.5	3.1	1.2	0.4
500～750万円	260	76.2	55.4	46.2	43.5	30.8	21.2	12.7	2.7	0.4	0
750～1,000万円	148	67.6	58.1	46.6	49.3	30.4	14.9	16.2	3.4	0.7	0
1,000～1,500万円	73	71.2	64.4	54.8	35.6	35.6	13.7	12.3	1.4	1.4	0
1,500～2,000万円	14	100.0	57.1	35.7	64.3	21.4	14.3	0	7.1	0	0
2,000万円以上	17	58.8	64.7	29.4	52.9	29.4	17.6	11.8	0	5.9	0

対象者全体と比較し10%以上高い

対象者全体と比較し10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

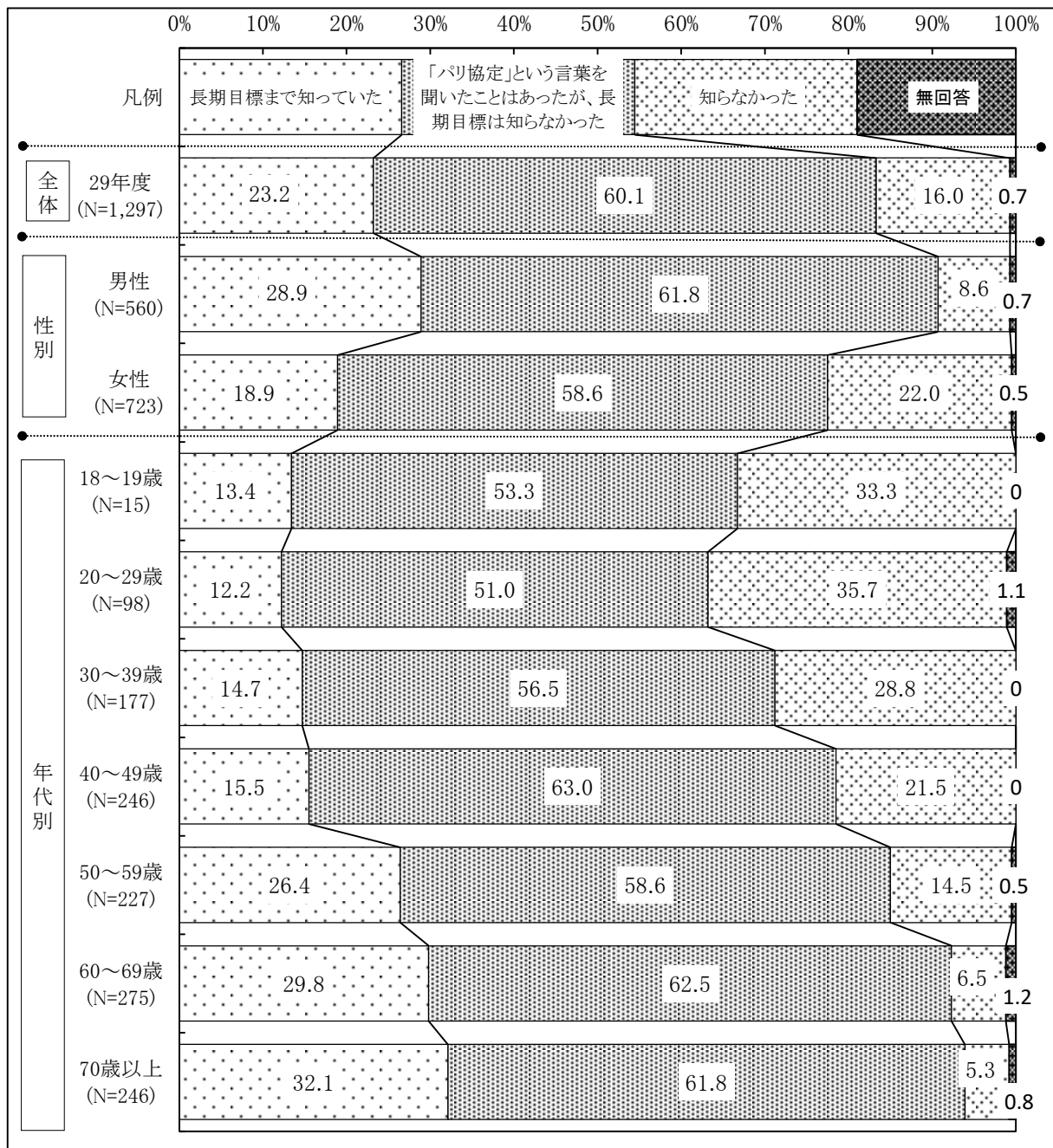
■「パリ協定」の認知度

【問3】 日本も批准した地球温暖化対策に関する新たな国際的枠組みである「パリ協定」では、『今世紀後半に世界全体の温室効果ガス（二酸化炭素など）排出量を生態系が吸収できる範囲に収める（温室効果ガス排出量実質ゼロ）』という長期目標が掲げられています。あなたはこのことを知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

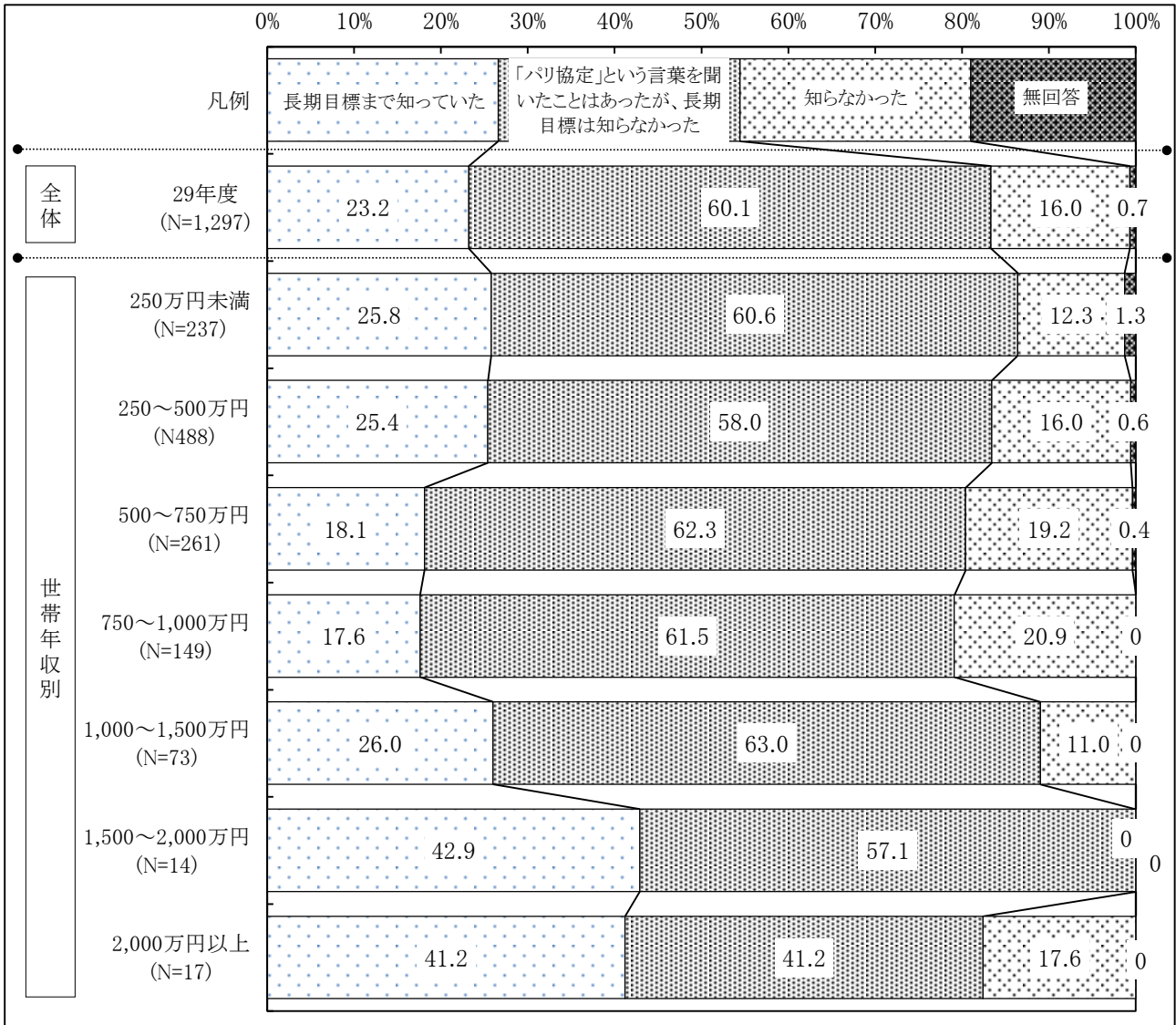
【全体】 パリ協定の「長期目標まで知っていた」人は23.2%。

【性別】 「長期目標まで知っていた」は男性が28.9%であり、女性の18.9%より10ポイント高い。

【年代別】 「長期目標まで知っていた」は、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。



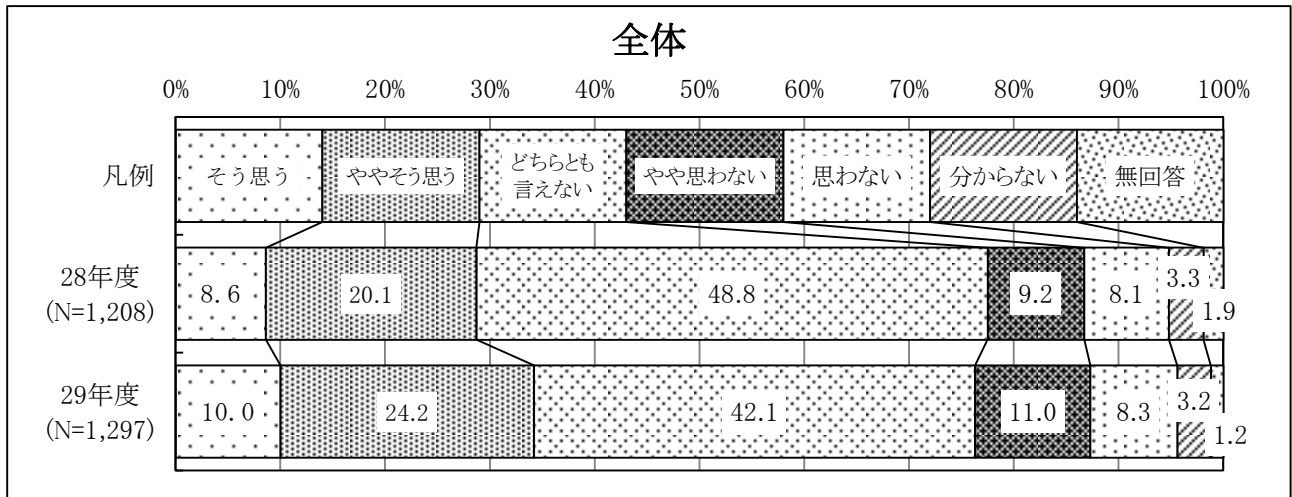
【世帯年収】パリ協定の「長期目標まで知っていた」は、世帯年収が上がるにつれて割合が高くなる傾向。



■自身のライフスタイル

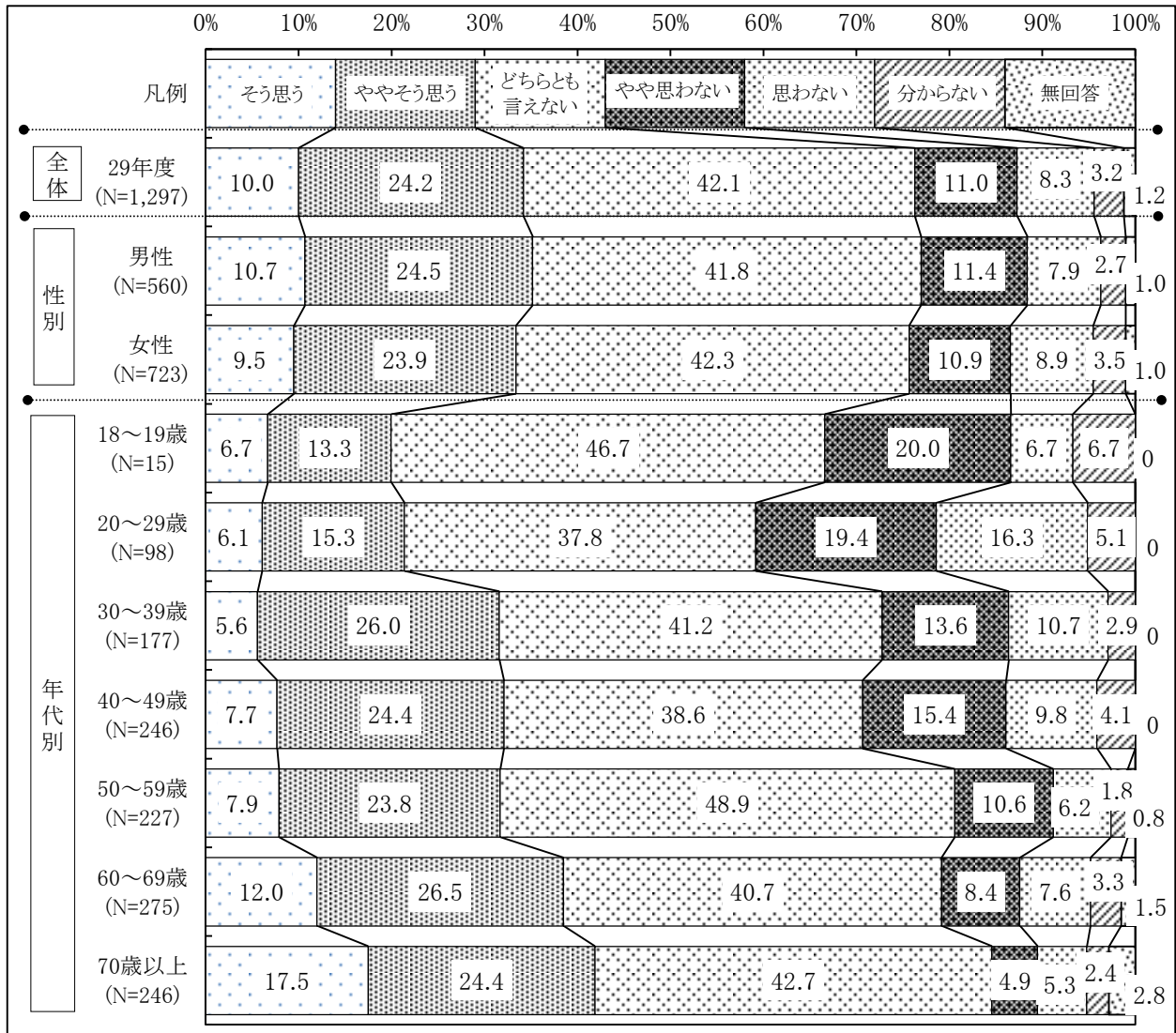
【問4】 あなたのご家庭での生活はエコライフ（環境に優しい生活）だと思いますか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 家庭での生活がエコライフだと思うかについて、「そう思う」人は10.0%、「やや思う」人は24.2%。

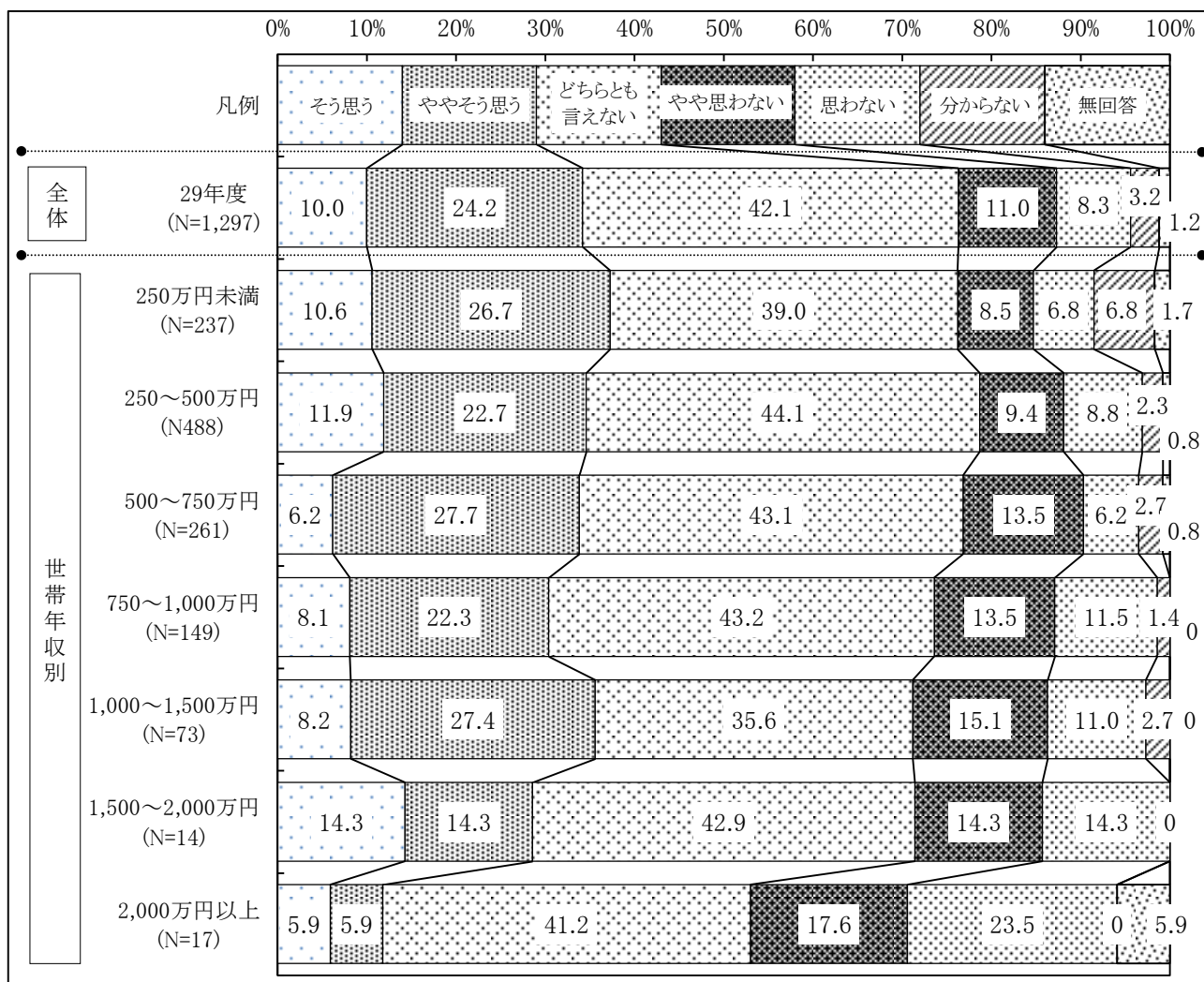


【性別】家庭での生活がエコライフだと思うかについて、男女で大きな差は見られない。

【年代別】「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合は、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。



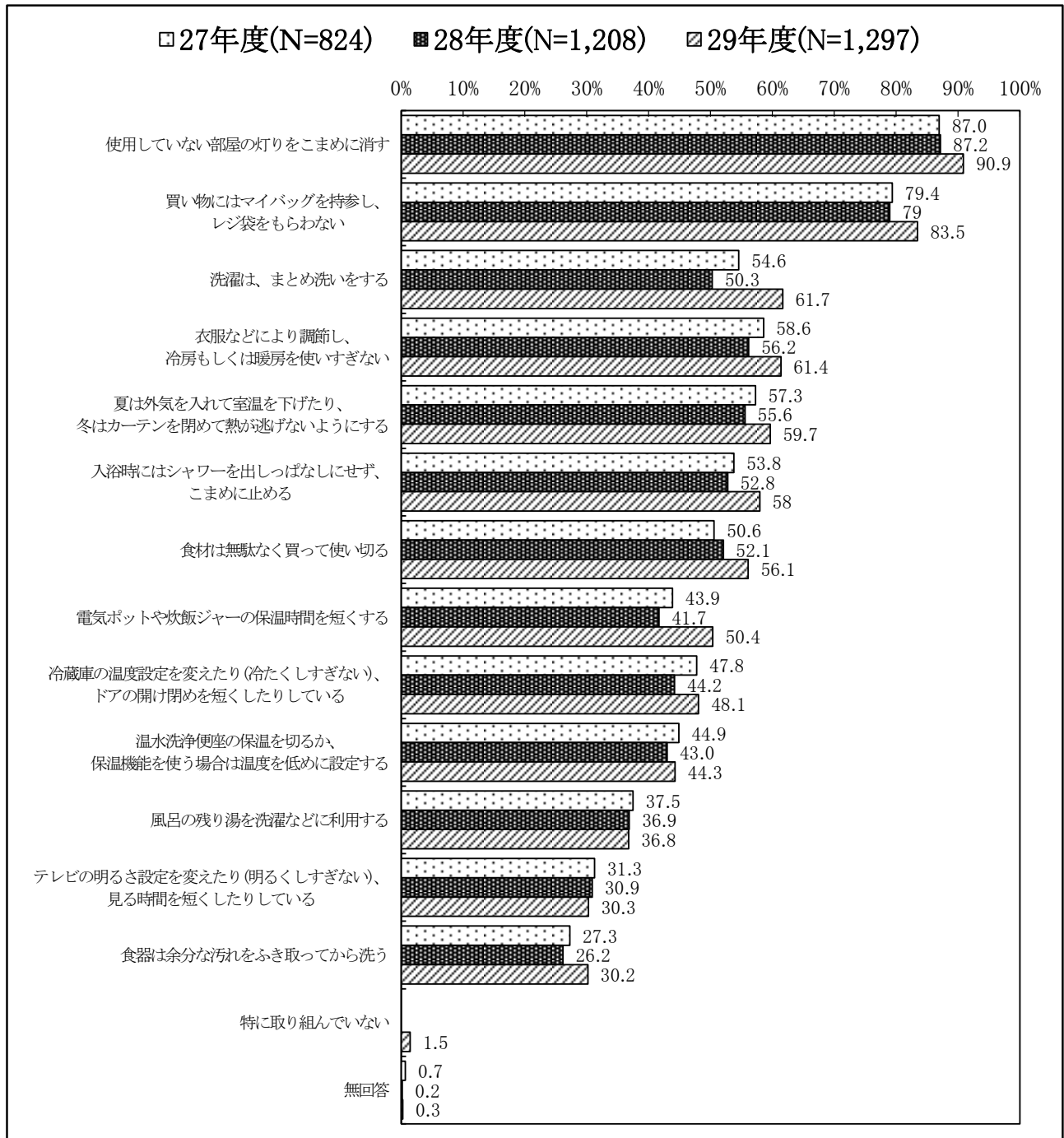
【世帯年収別】家庭での生活がエコライフだと思うかについて、「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合は、年収が高くなるにつれて低くなる傾向。



実践しているエコライフの取組

【問5】 あなたが、ご家庭で常に実践しているエコライフ（環境に優しい生活）の取組はありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】 家庭で常に実践しているエコライフの取組は、「使用していない部屋の灯りをこまめに消す」が90.9%、「買い物にはマイバックを持参し、レジ袋をもらわない」が83.5%。



※「特に取り組んでいない」は29年度のみ設問のため比較なし

【性別】「風呂の残り湯を洗濯などに利用する」を除き、女性のほうが男性よりエコライフの取組を常実践している。

【年代別】年代が上がるにつれてエコライフの取組を常実践している傾向。

【出身地別】「夏は外気を入れて室温を下げたり、冬はカーテンを閉めて熱が逃げないようにする」は北海道以外が 69.8%であり、札幌の 56.2%より 13.6 ポイント高くなっている。

【世帯年収別】世帯年収が下がるにつれてエコライフの取組を常実践している傾向。

	サンプル数	使用していない部屋の灯りをこまめに消す	買物にはマイバッグを持参し、レジ袋をもらわない	洗濯は、まとめて洗いをする	冷房もしくは暖房を使いすぎない	衣服などにより調節し、夏は外気を入れて室温を下げたり、冬はカーテンを閉めて熱が逃げないようにする	入浴時にはシャワーを出しっぱなしにせず、こまめに止める	食材は無駄なく買って使い切る	電気ポットや炊飯ジャーの保温時間を短くする	冷蔵庫の温度設定を変えたり(冷たくしすぎない)、ドアの開け閉めを短くしたりしている	保温機能を使う場合は温度を低めに設定する	温水洗浄便座の保温を切るか、保温機能を使う場合は温度を低めに設定する	風呂の残り湯を洗濯などに利用する	テレビの明るさ設定を変えたり(明るくしすぎない)、見る時間を短くしたりしている	食器は余分な汚れをふき取ってから洗う	特に取り組んでいない	無回答
全体	1,297	90.9	83.5	61.7	61.4	59.7	58.0	56.1	50.4	48.1	44.3	36.8	30.3	30.2	1.5	0.3	
《性別》																	
男性	560	88.6	77.9	57.1	55.0	55.2	53.6	49.6	38.6	42.9	38.4	37.3	27.5	22.7	2.3	0.5	
女性	723	92.7	88.1	65.6	66.3	63.1	61.0	60.7	59.6	52.0	49.0	36.4	32.5	36.1	0.8	0	
《年代別》																	
18～19歳	15	73.3	73.3	40.0	40.0	20.0	40.0	26.7	33.3	33.3	13.3	53.3	20.0	13.3	0.0	0	
20～29歳	98	86.7	72.4	65.3	46.9	54.1	46.9	41.8	36.7	28.6	27.6	29.6	25.5	19.4	5.1	0	
30～39歳	177	88.7	76.3	52.5	52.0	52.0	38.4	54.8	49.7	44.6	37.3	33.9	27.7	19.8	0.0	0.6	
40～49歳	246	91.5	81.3	53.7	51.6	53.7	56.1	51.6	55.7	43.9	44.3	30.9	27.2	25.6	2.0	0	
50～59歳	227	93.0	83.7	59.0	67.8	62.6	61.7	59.5	55.5	54.2	49.8	37.9	36.6	37.0	1.3	0	
60～69歳	275	91.3	88.7	65.1	67.6	58.2	62.9	54.2	51.3	51.6	42.9	35.3	28.0	28.7	0.7	0.4	
70歳以上	246	92.3	90.2	75.6	71.5	74.4	69.5	67.1	46.3	53.7	54.5	47.6	34.6	43.5	1.6	0	
《出身地別》																	
札幌	491	90.4	82.7	60.3	62.7	56.2	59.1	53.2	51.3	49.1	41.5	36.3	33.6	30.1	2.0	0	
北海道(札幌を除く)	647	91.2	84.9	62.0	60.4	60.1	56.4	57.5	50.9	47.4	46.1	37.9	28.9	27.5	1.2	0.2	
北海道以外	139	91.4	81.3	66.9	60.4	69.8	59.0	56.1	46.0	48.2	47.5	33.8	25.2	44.6	0.7	0	
《世帯年収別》																	
250万円未満	236	92.8	83.9	69.5	67.4	66.1	62.3	62.3	52.1	47.9	43.6	33.1	34.3	30.5	1.7	0.4	
250～500万円	488	91.2	85.0	64.3	63.3	60.2	58.0	56.1	50.2	51.2	46.9	38.3	32.2	31.6	1.2	0.4	
500～750万円	260	90.4	84.6	58.1	57.3	59.2	56.2	56.5	50.8	48.1	44.2	38.1	28.8	30.4	1.2	0.4	
750～1,000万円	148	89.2	83.1	53.4	58.1	54.1	56.1	47.3	52.0	45.3	41.9	41.2	28.4	28.4	1.4	0	
1,000～1,500万円	73	91.8	80.8	56.2	63.0	52.1	58.9	43.8	49.3	39.7	38.4	32.9	20.5	30.1	2.7	0	
1,500～2,000万円	14	92.9	78.6	50.0	50.0	64.3	21.4	78.6	50.0	42.9	42.9	21.4	21.4	21.4	0.0	0	
2,000万円以上	17	76.5	58.8	35.3	35.3	35.3	58.8	41.2	41.2	17.6	41.2	17.6	11.8	17.6	11.8	0	

対象者全体と比較し10%以上高い

対象者全体と比較し10%以上低い

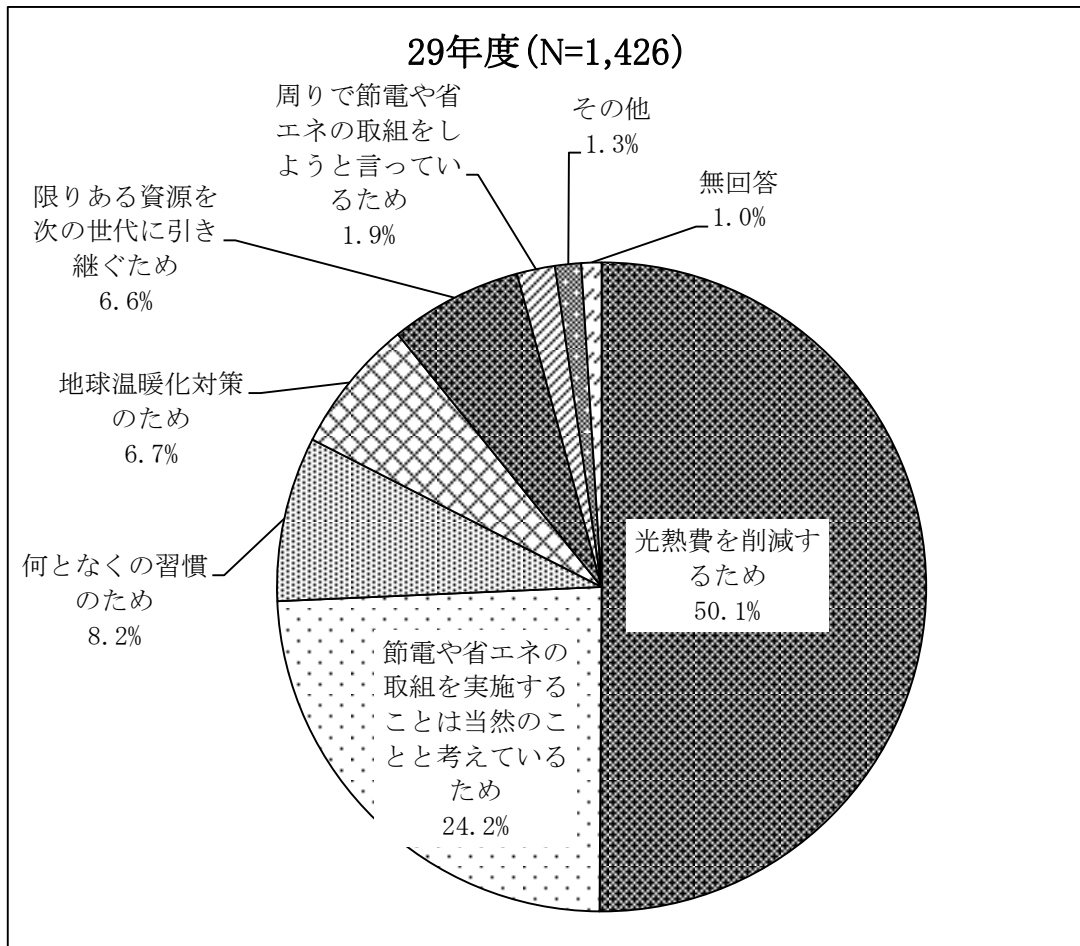
単位 % (サンプル数を除く)

■エコライフに取り組む理由

《【問5】で「使用していない部屋の灯りをこまめに消す」から「食器は余分な汚れをふきとってから洗う」の取組に1つ以上○をつけた方にお聞きします》

【問5-1】 あなたが、ご家庭でエコライフ（環境に優しい生活）に取り組む理由は何ですか。最も当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】エコライフに取り組む理由は、「光熱費を削減するため」が50.1%、「節電や省エネの取組を実施することは当然のことと考えているため」が24.2%。



【性別】エコライフに取り組む理由は、男女で大きな差は見られない。

【年代別】「光熱費を削減するため」は30歳代(60.6%)で最も高く、最も低い70歳以上(34.9%)とは25.8ポイント差となっている。また、「節電や省エネの取組を実施することは当然のことと考えているため」は70歳以上(34.5%)で最も高く、最も低い10歳代(6.2%)とは28.7ポイント差となっている。

【世帯年収別】「光熱費を削減するため」は世帯年収による大きな差は見られない。「節電や省エネの取組を実施することは当然のことと考えているため」は2,000万円以上が6.3%と最も低い。

	サンプル数	光熱費を削減するため	節電や省エネの取組を実施することは当然のことと考えているため	何となくの習慣のため	地球温暖化対策のため	引き継ぐため 限りある資源を次の世代に	周りで節電や省エネの取組をしようと言っているため	その他	無回答
全体	1,426	50.1	24.2	8.2	6.7	6.6	1.9	1.3	1.0
《性別》									
男性	612	49.5	23.2	9.6	7.7	5.4	1.8	1.2	1.6
女性	837	48.1	23.9	11.9	5.7	6.7	1.8	1.2	0.7
《年代別》									
18～19歳	16	56.3	6.2	31.3	0	0	0	6.2	0
20～29歳	110	57.3	13.6	15.5	5.5	1.8	1.8	2.7	1.8
30～39歳	198	60.6	14.6	14.1	4.5	4.0	1.5	0.7	0
40～49歳	293	55.6	16.7	12.3	5.5	5.8	1.7	1.7	0.7
50～59歳	255	48.2	24.7	8.6	5.9	7.5	2.0	2.0	1.1
60～69歳	312	42.3	28.5	11.2	6.4	7.7	2.2	0.4	1.3
70歳以上	278	34.9	34.5	7.9	10.4	8.6	1.8	0.5	1.4
《世帯年収別》									
250万円未満	232	51.7	26.7	11.2	9.5	7.8	3.0	1.5	1.3
250～500万円	485	55.9	27.0	10.3	7.4	7.8	1.6	2.5	0.4
500～750万円	257	59.1	28.0	12.5	5.4	3.1	1.6	3.5	0.4
750～1,000万円	148	58.1	24.3	12.8	5.4	8.1	2.7	4.5	0
1,000～1,500万円	73	57.5	31.5	13.7	4.1	6.8	1.4	5.5	0
1,500～2,000万円	14	50.0	28.6	28.6	14.3	42.9	0	6.5	0
2,000万円以上	16	50.0	6.3	31.3	18.8	12.5	6.3	7.5	0

対象者全体と比較し10%以上高い

対象者全体と比較し10%以上低い

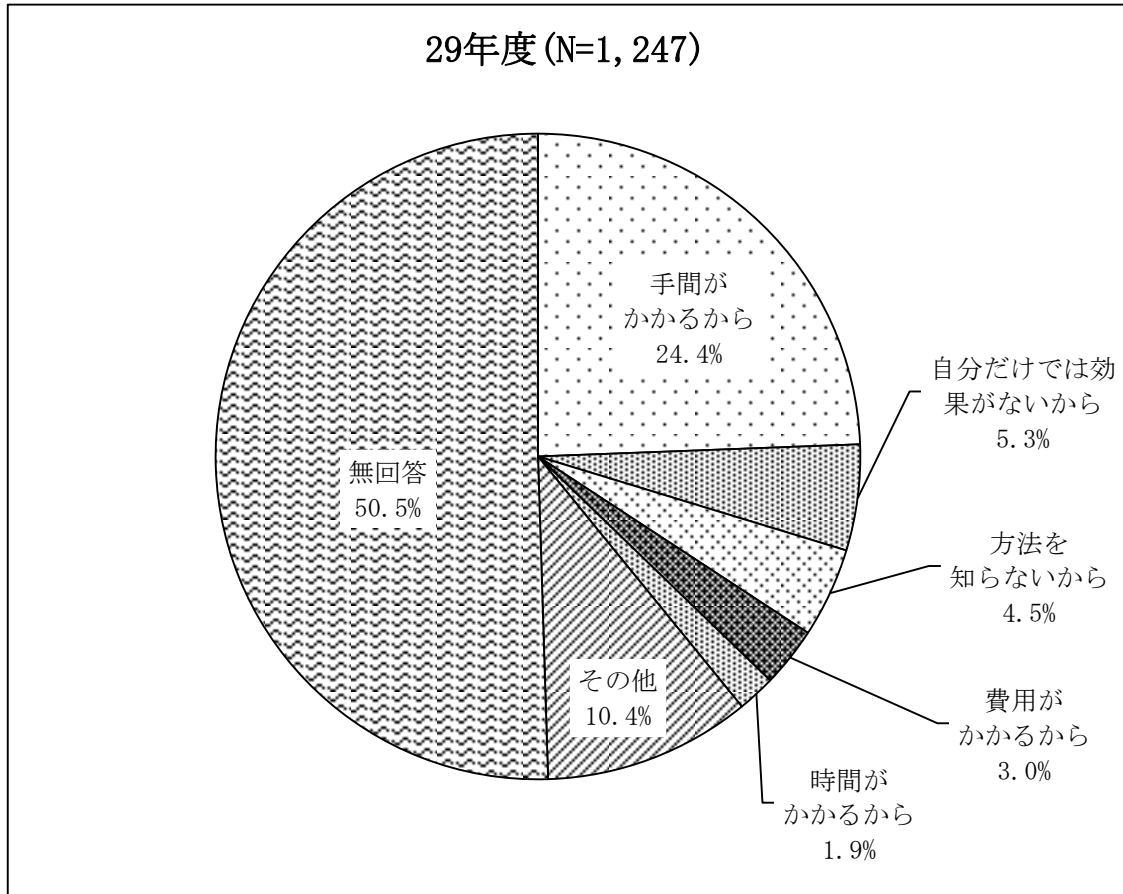
単位 % (サンプル数を除く)

■エコライフに取り組まない理由

《【問5】で「使用していない部屋の灯りをこまめに消す」から「食器は余分な汚れをふきとってから洗う」の取組について、○をつけなかった取組が1つでもある方にお聞きします》

【問5-2】 あなたが、ご家庭でエコライフ（環境に優しい生活）に取り組まない理由は何ですか。最も当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】エコライフに取り組まない理由は、「手間がかかるから」が24.4%。



【性別】エコライフに取り組まない理由の「手間がかかるから」は、男性が26.8%であり、女性の22.5%より4.3ポイント高くなっている。

【年代別】「手間がかかるから」は20歳代(36.7%)が最も高く、最も低い70歳以上(15.9%)とは20.8ポイント差となっている。また、「自分だけでは効果がないから」は10歳代(20.0%)が最も高く、最も低い20歳代(3.1%)とは16.9ポイント差となっている。

【世帯年収別】「手間がかかるから」は2,000万円以上(43.8%)が最も高く、最も低い250万円未満(16.7%)とは27.1ポイント差となっている。

	サンプル数	手間がかかるから	自分だけでは効果がないから	方法を知らないから	費用がかかるから	時間がかかるから	その他	無回答
全体	1247	24.4	5.3	4.5	3.0	1.9	10.4	50.5
《性別》								
男性	544	26.8	5.7	5.5	3.5	1.7	8.1	48.7
女性	690	22.5	5.1	3.8	2.6	2.0	12.3	51.7
《年代別》								
18～19歳	15	20.0	20.0	6.7	0	13.3	20.0	20.0
20～29歳	98	36.7	3.1	6.1	0	4.1	9.2	40.8
30～39歳	179	33.0	6.7	5.6	2.2	2.2	5.6	44.7
40～49歳	242	26.4	7.4	5.0	1.7	1.3	10.7	47.5
50～59歳	214	25.7	4.2	2.3	1.9	2.8	11.7	51.4
60～69歳	263	18.6	4.9	2.7	3.8	0.8	12.2	57.0
70歳以上	224	15.6	3.6	6.7	6.7	0.9	10.7	55.8
《世帯年収別》								
250万円未満	222	16.7	3.6	5.4	4.5	1.4	9.9	59.5
250～500万円	449	27.6	4.5	3.8	3.6	2.0	10.2	51
500～750万円	253	24.9	5.9	4.3	1.6	2.8	12.3	49.4
750～1,000万円	142	28.2	6.3	8.5	2.1	0.7	10.6	45.8
1,000～1,500万円	71	32.4	9.9	1.4	1.4	1.4	8.5	46.5
1,500～2,000万円	13	30.8	0	15.4	0	0	0	53.8
2,000万円以上	16	43.8	6.3	0	0	6.3	18.8	31.3

対象者全体と比較し10%以上高い

対象者全体と比較し10%以上低い

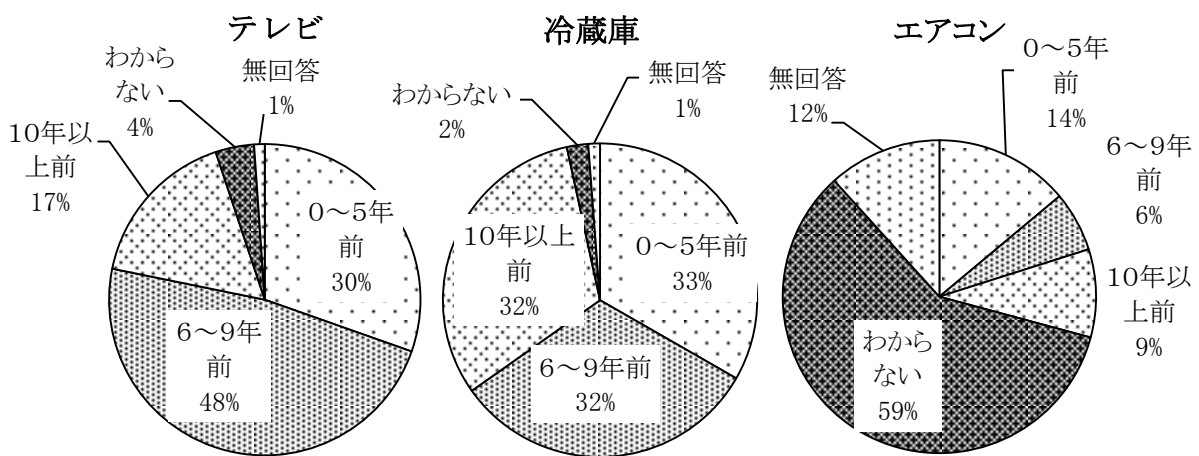
単位 % (サンプル数を除く)

■家電製品の購入時期

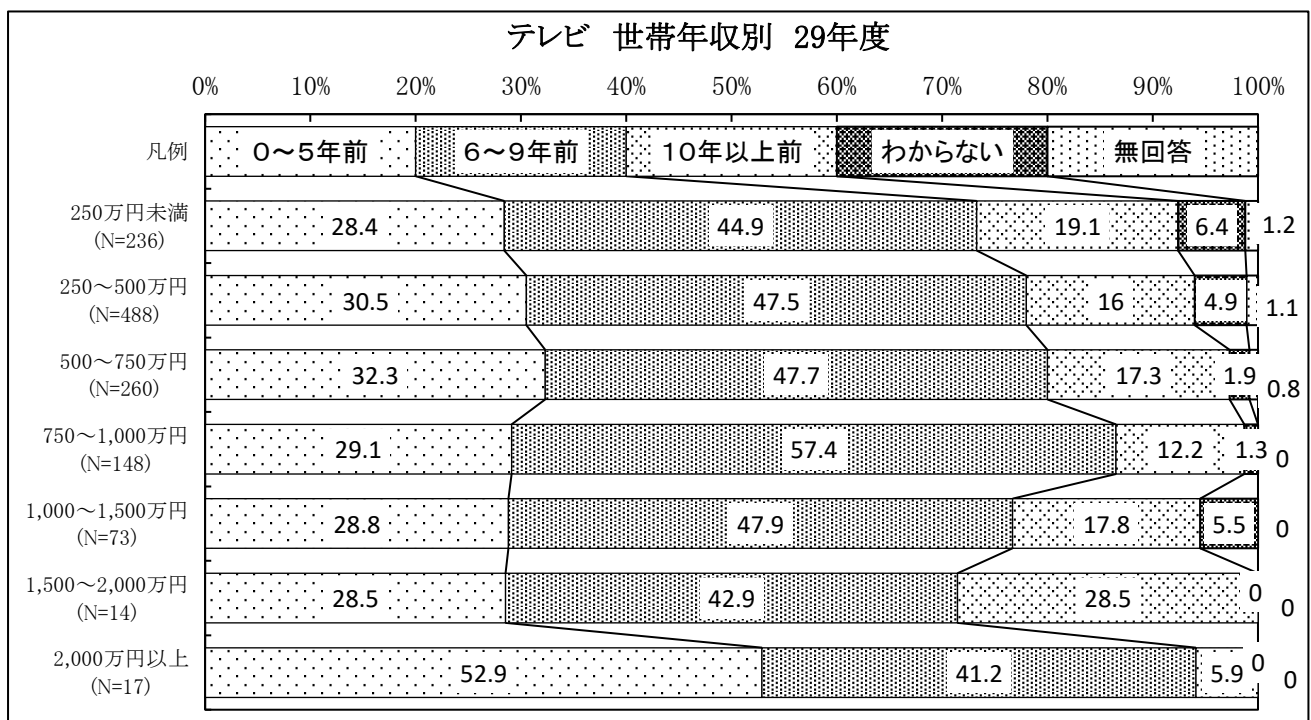
【問6】 あなたのご家庭にある家電製品はいつ頃に購入しましたか。各項目について、それぞれあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】「10年以上前」に購入した家電製品は、テレビが17%、冷蔵庫が32%、エアコンが9%。
 【世帯年収別】テレビと冷蔵庫については、世帯年収2,000万円未満では、購入時期に大きな差は見られない。エアコンについては、世帯年収が上がるにつれて、新しいエアコンを使用している傾向。

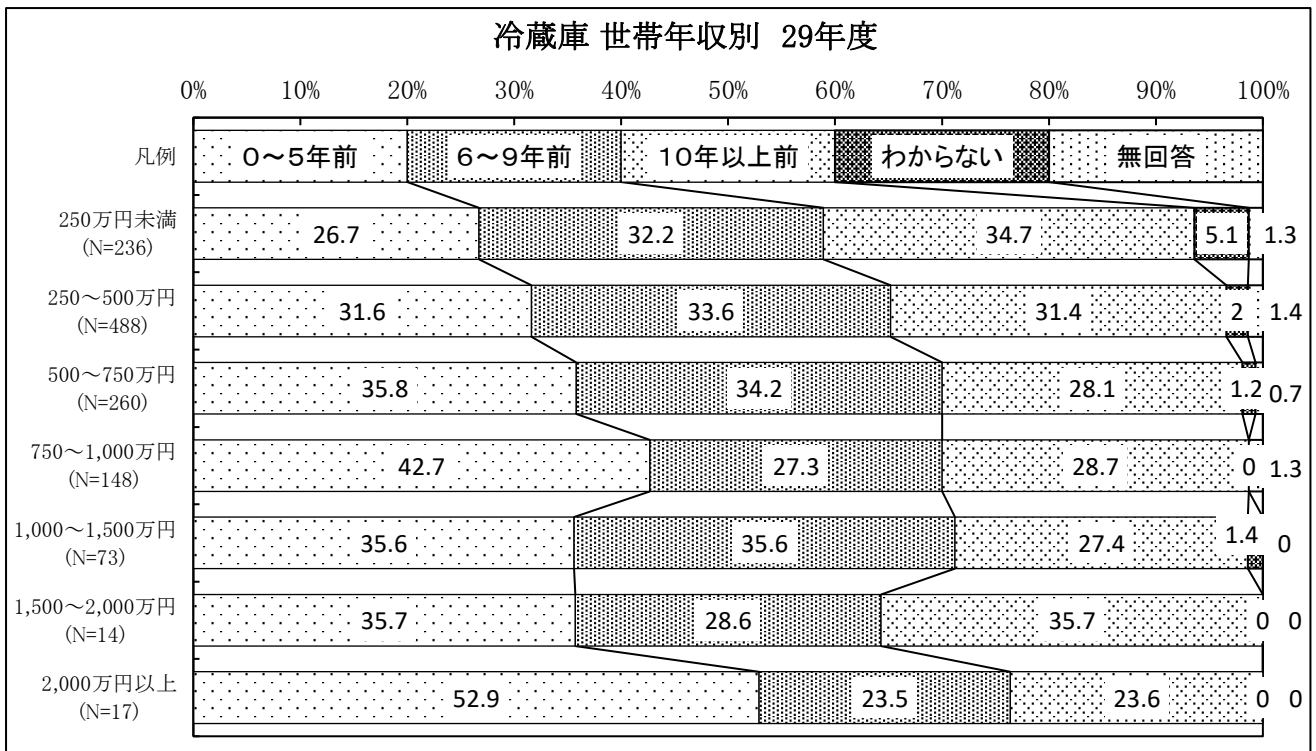
最も使用している家電製品の購入時期
29年度(N=1,297)



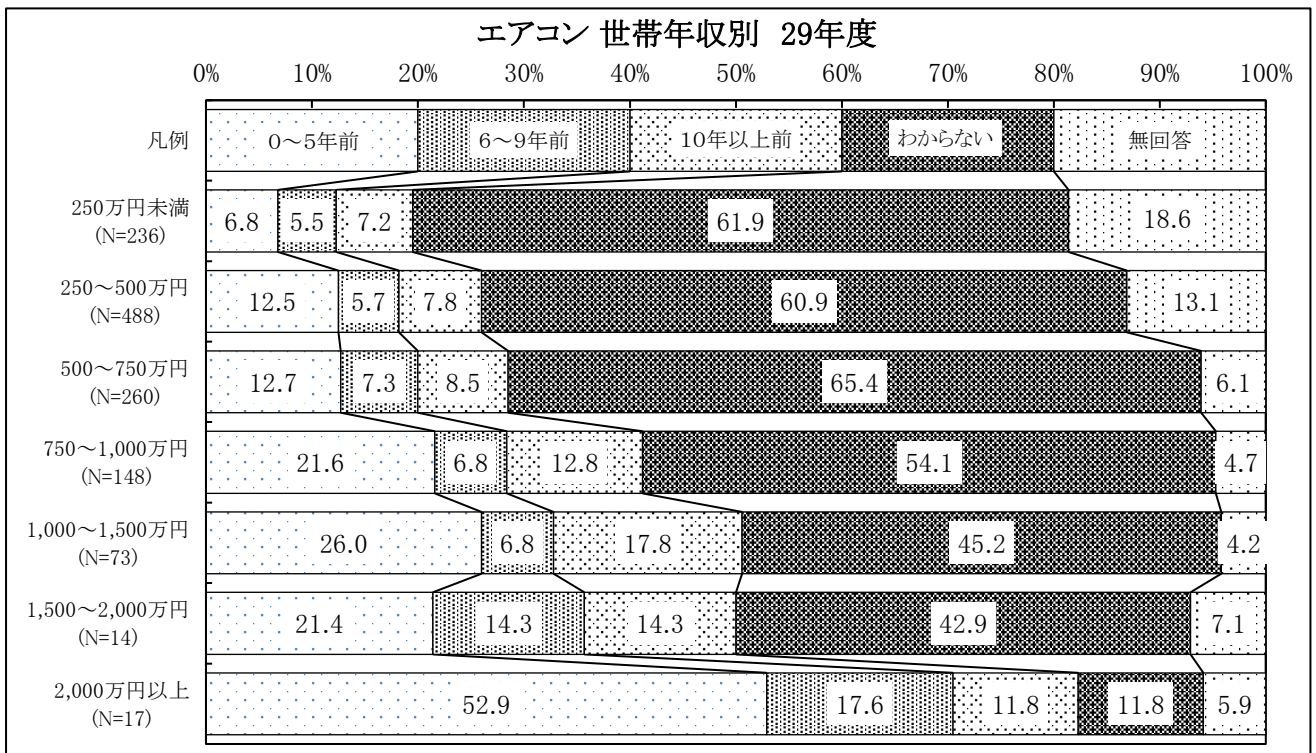
※「わからない」には、所有していない、または最初から付いていたなどの理由で購入時期がわからないを含む。



※「わからない」には、所有していない、または最初から付いていたなどの理由で購入時期がわからないを含む。



※「わからない」には、所有していない、または最初から付いていたなどの理由で購入時期がわからないを含む。

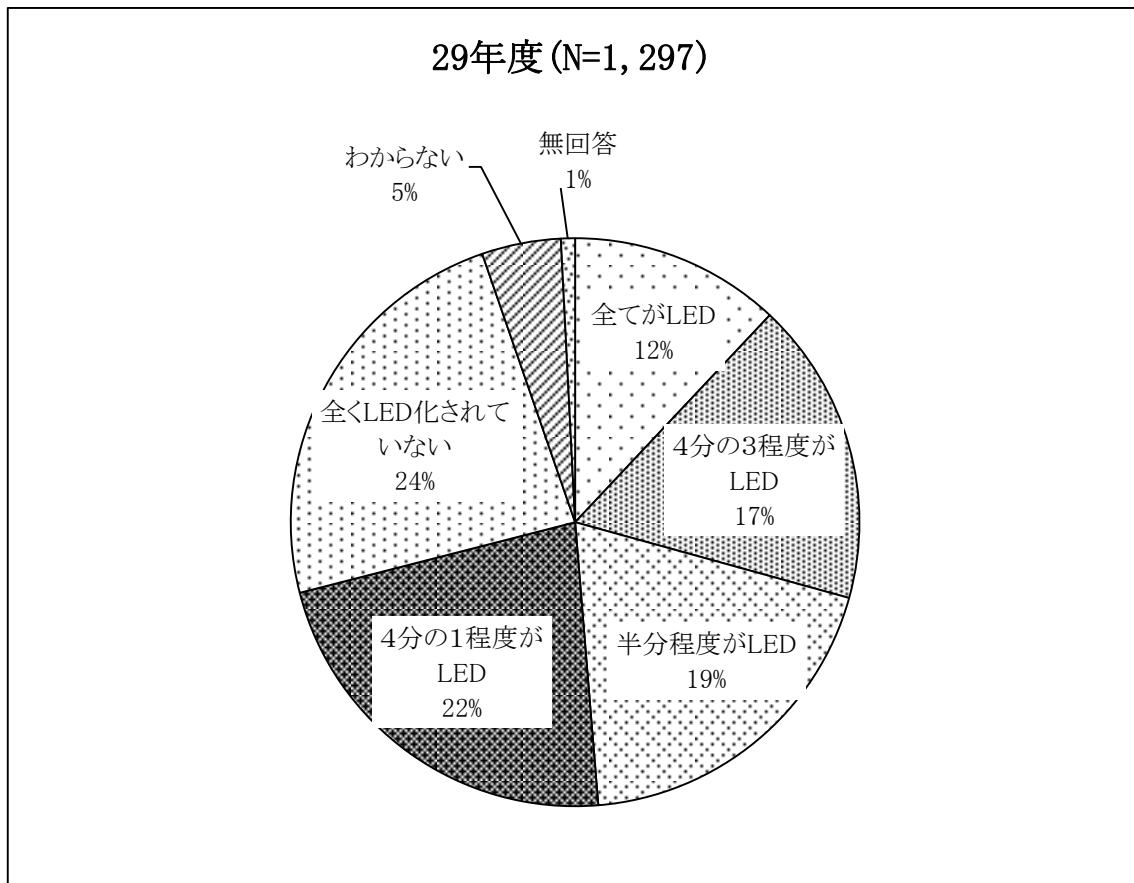


※「わからない」には、所有していない、または最初から付いていたなどの理由で購入時期がわからないを含む。

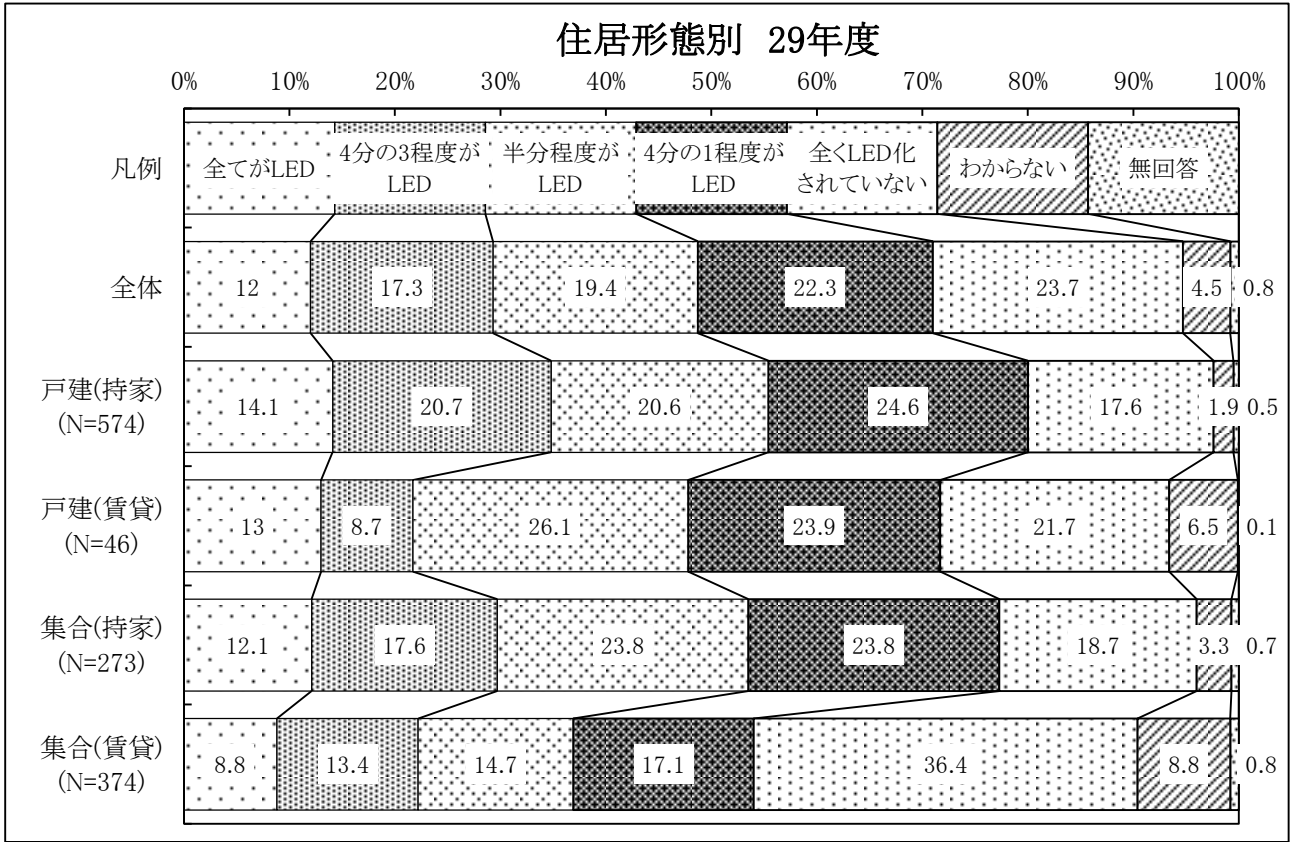
■LED 照明の普及状況

【問7】 あなたのご家庭の居室や台所、トイレ、お風呂場などの照明は、どの程度 LED 化されていますか。最も近いものに1つだけ○をつけてください。

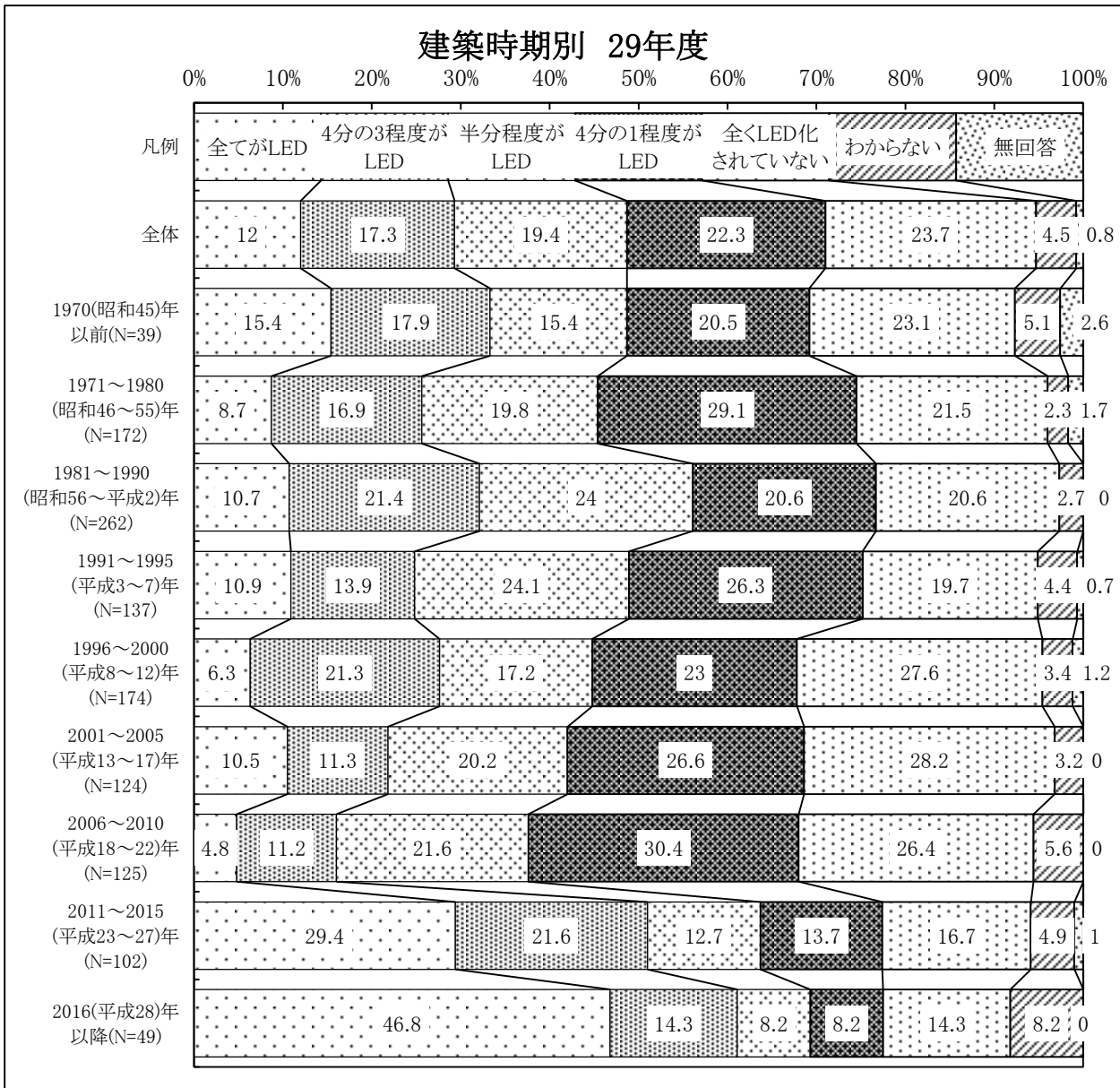
【全体】 家庭における LED 照明の普及状況は、「全てがLED」が12%。



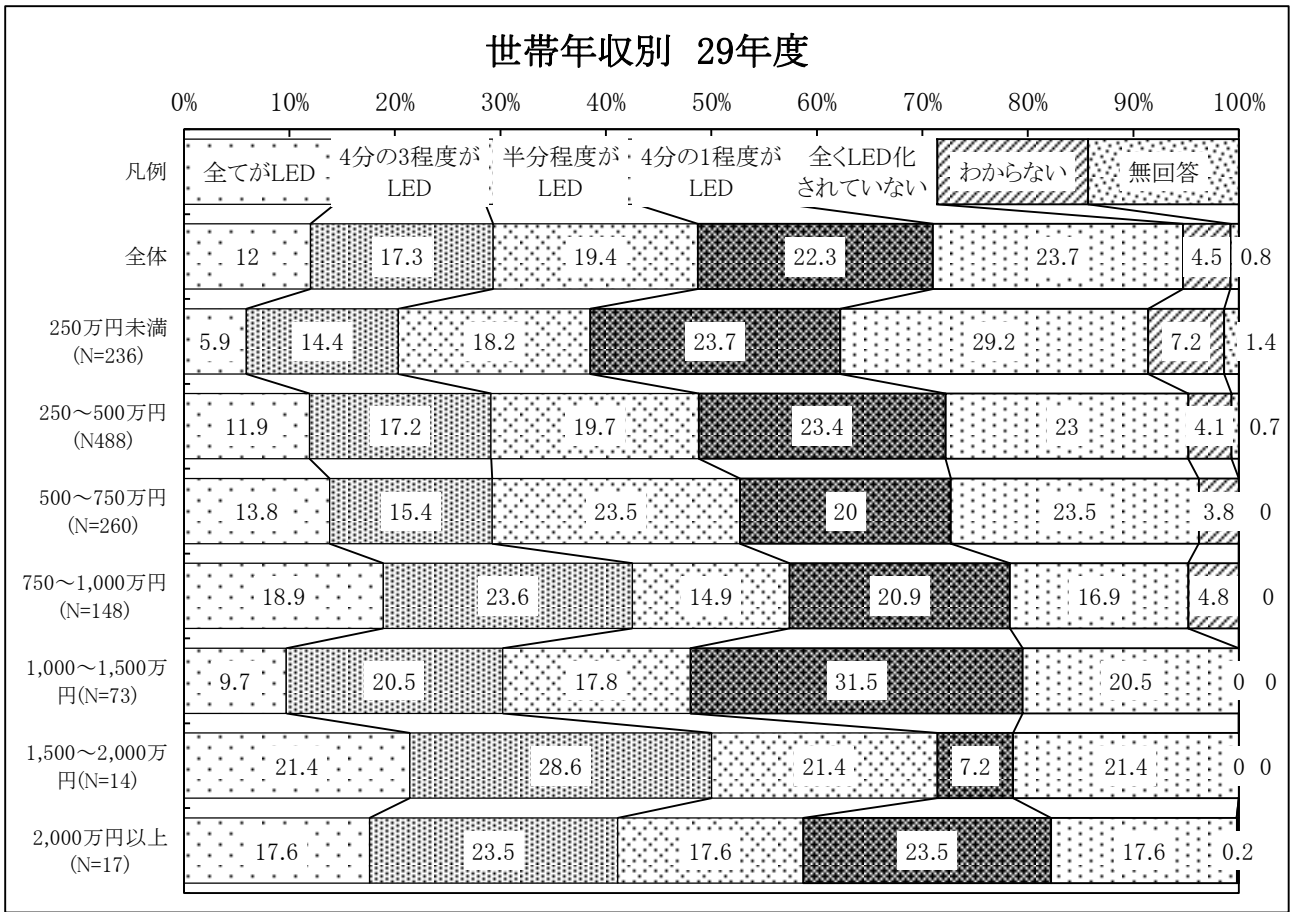
【住居形態別】「全てがLED」は戸建(持家)(14.1%)が最も高く、最も低い集合(賃貸)(8.8%)とは5.3ポイント差となっている。



【建築時期別】「全てがLED」は2016年以降が46.8%、2011～2015年度が29.4%。



【世帯年収別】「全くLED化されていない」は、世帯年収が上がるにつれて低くなる傾向。



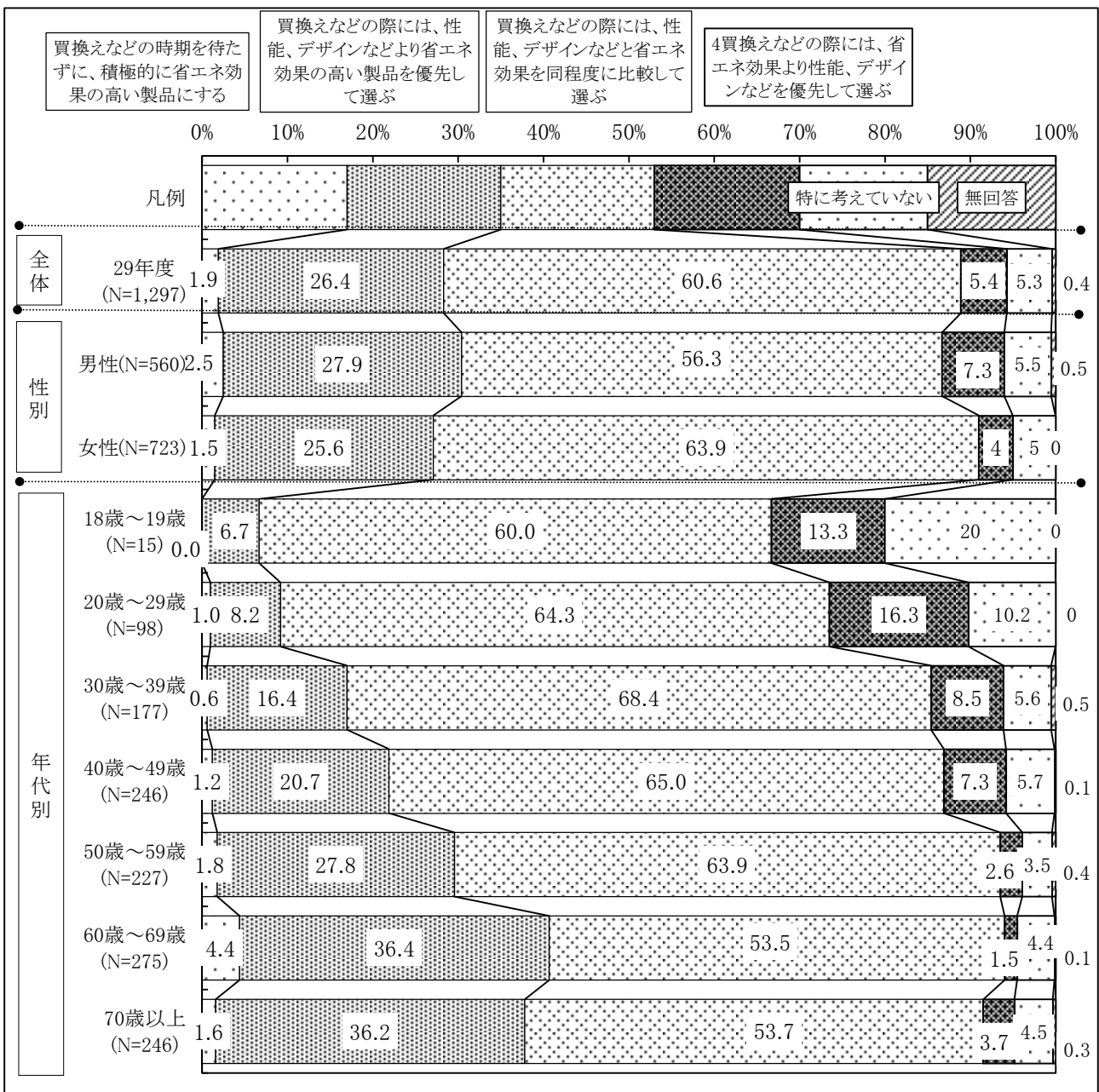
■家電製品の省エネ効果に対する認識

【問 8】 あなたは、冷蔵庫、テレビ、照明などの家電製品の買換えや新規購入に関して、省エネ効果をどのように考えていますか。
あなたの考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

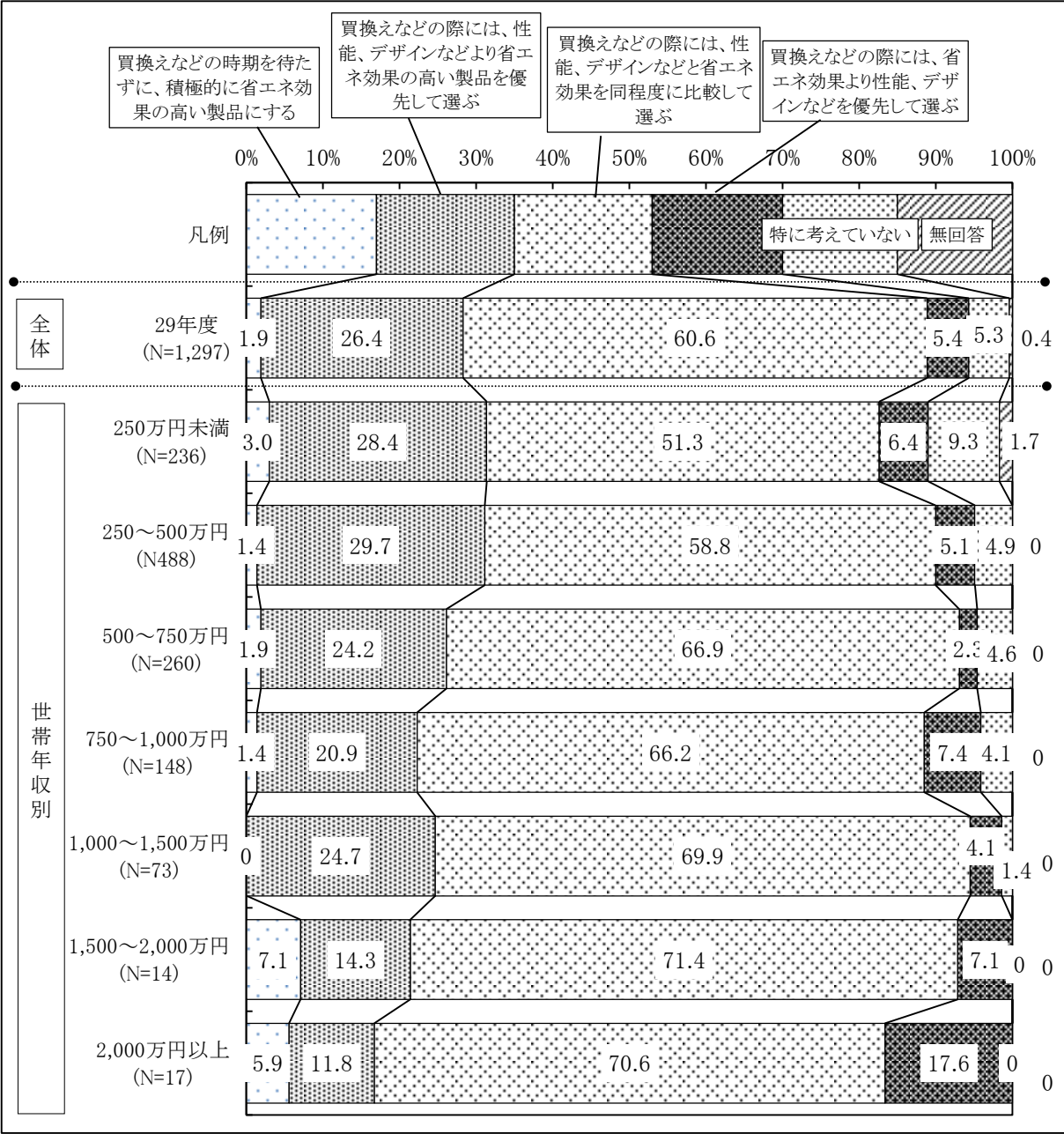
【全体】家電製品の買換えや新規購入時は、「性能・デザインと省エネ効果を同程度に比較」が60.6%と最も高く、次いで「性能・デザインより省エネ効果の高い製品を優先」(26.4%)、「省エネ効果より性能・デザインを優先」(5.4%)の順となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「性能・デザインより省エネ効果の高い製品を優先」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向。



【世帯年収別】「性能・デザインより省エネ効果の高い製品を優先」は、世帯年収が上がるにつれて低くなる傾向。

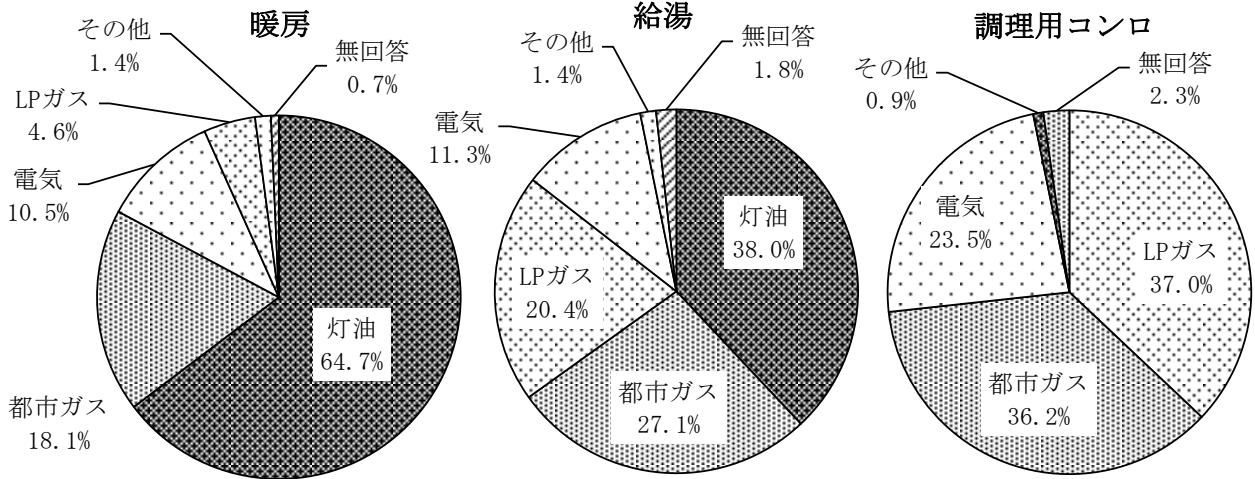


■家庭で使用しているエネルギー・燃料

【問9】 あなたのご家庭では、用途ごとにどのようなエネルギー・燃料を最も多く使っていますか。各用途について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

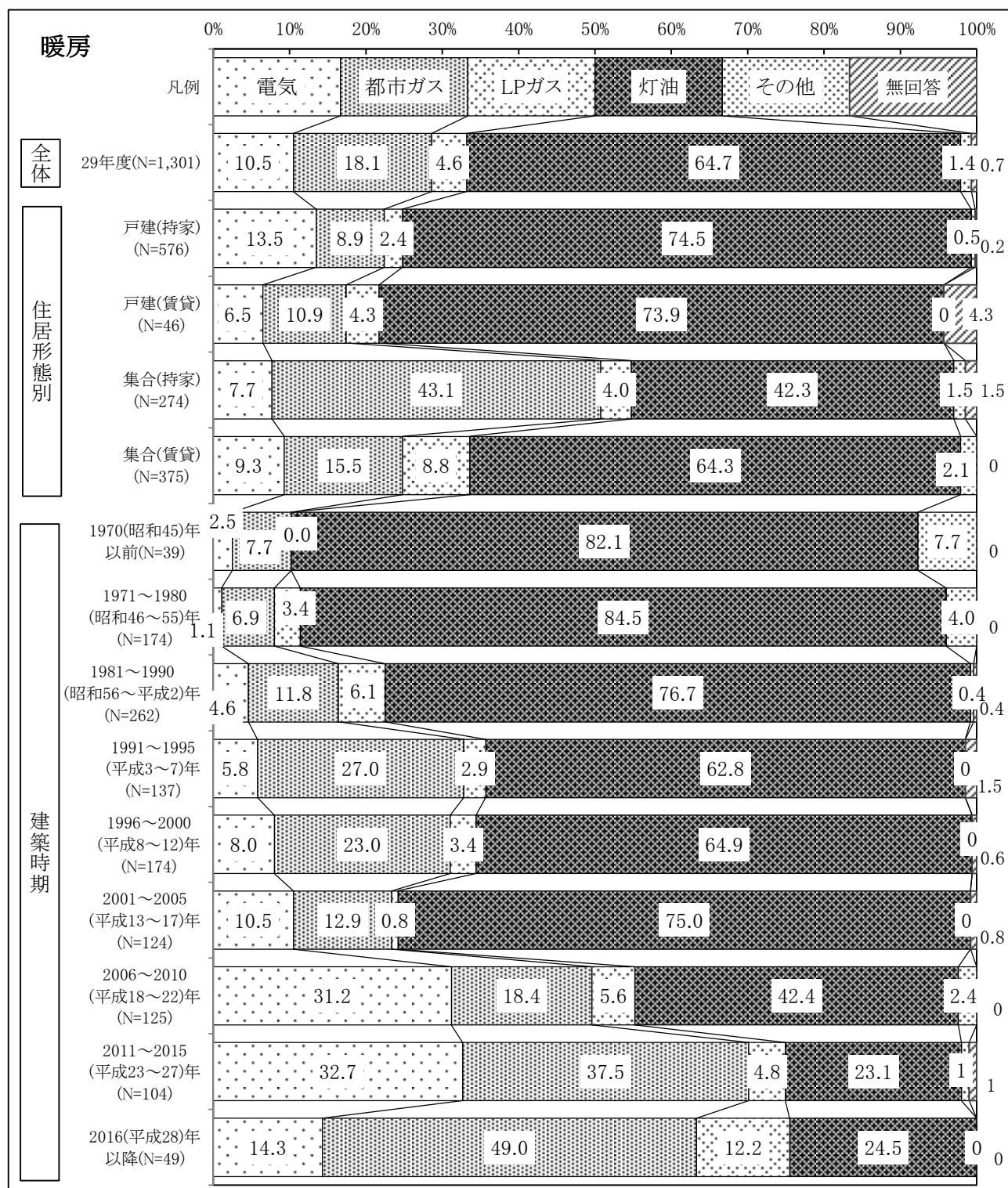
【全体】 家庭で最も多く使用しているエネルギー・燃料は、暖房が「灯油」(64.9%)、給湯が「灯油」(38.0%)、調理用コンロが「LPガス」(37.4%)。

29年度 (N=1,301)

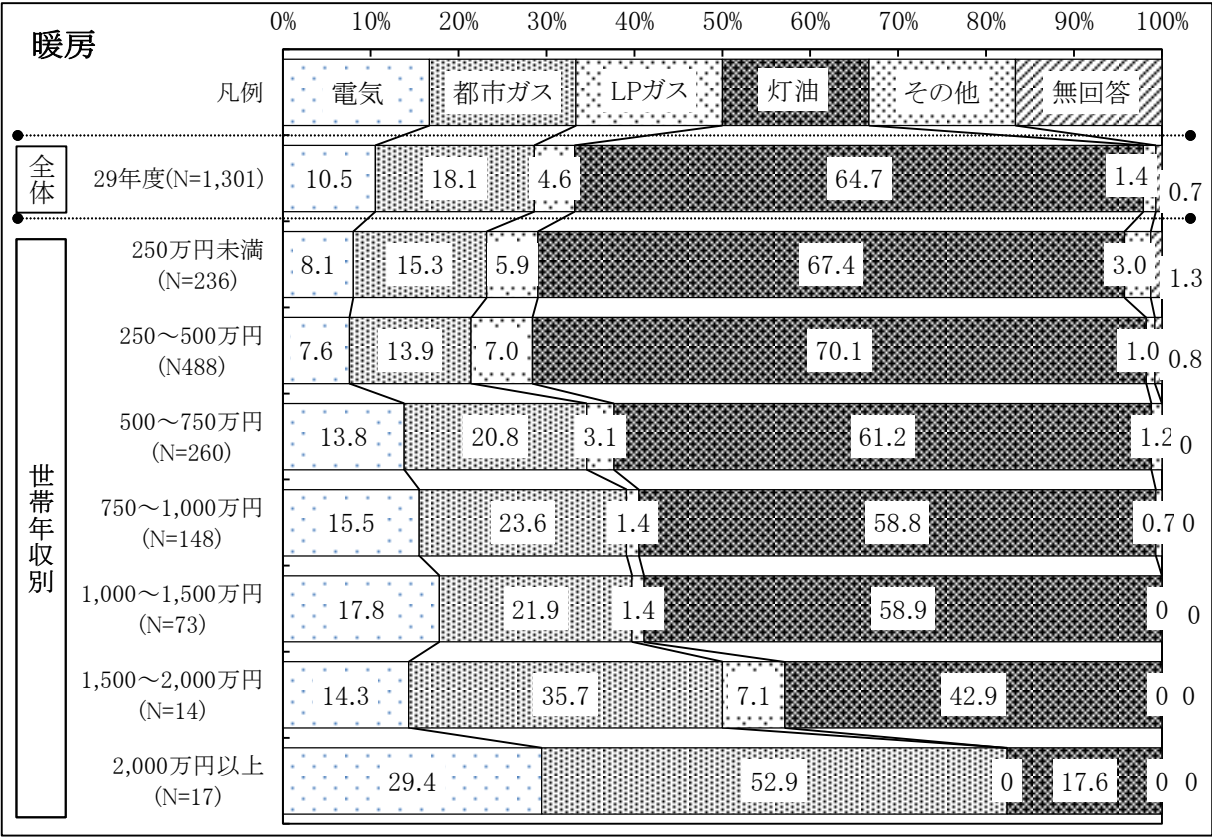


【住居形態別(暖房)】戸建(持家)、戸建(賃貸)、集合(賃貸)は「灯油」が最も高く、集合(持家)は都市ガスが最も高い。

【建築時期別(暖房)】2010年以前は「灯油」、2011年以降は「都市ガス」が最も高い。

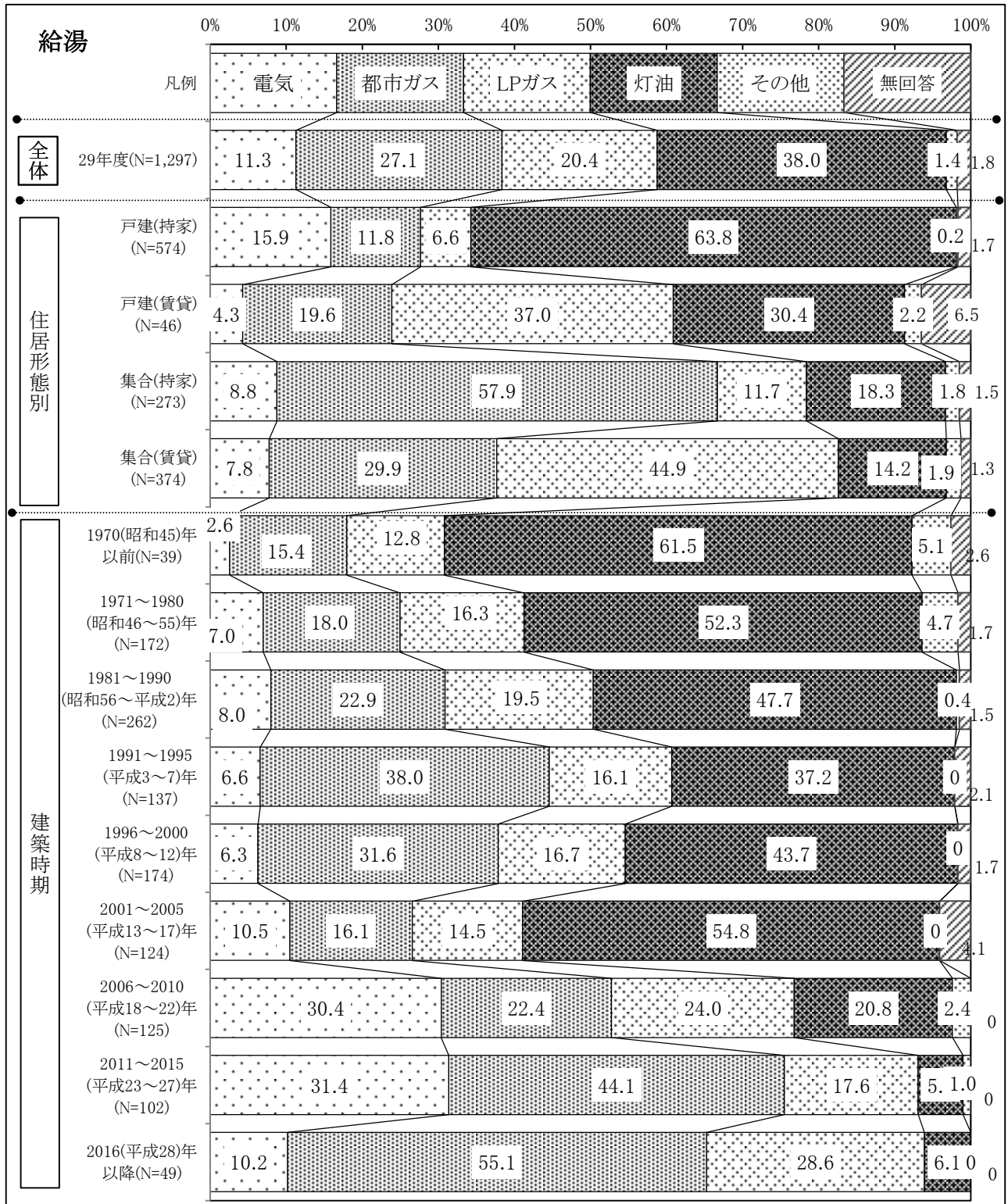


【世帯年収別(暖房)】世帯年収が高くなるにつれて「電気」と「都市ガス」を暖房エネルギーとして使用している傾向。

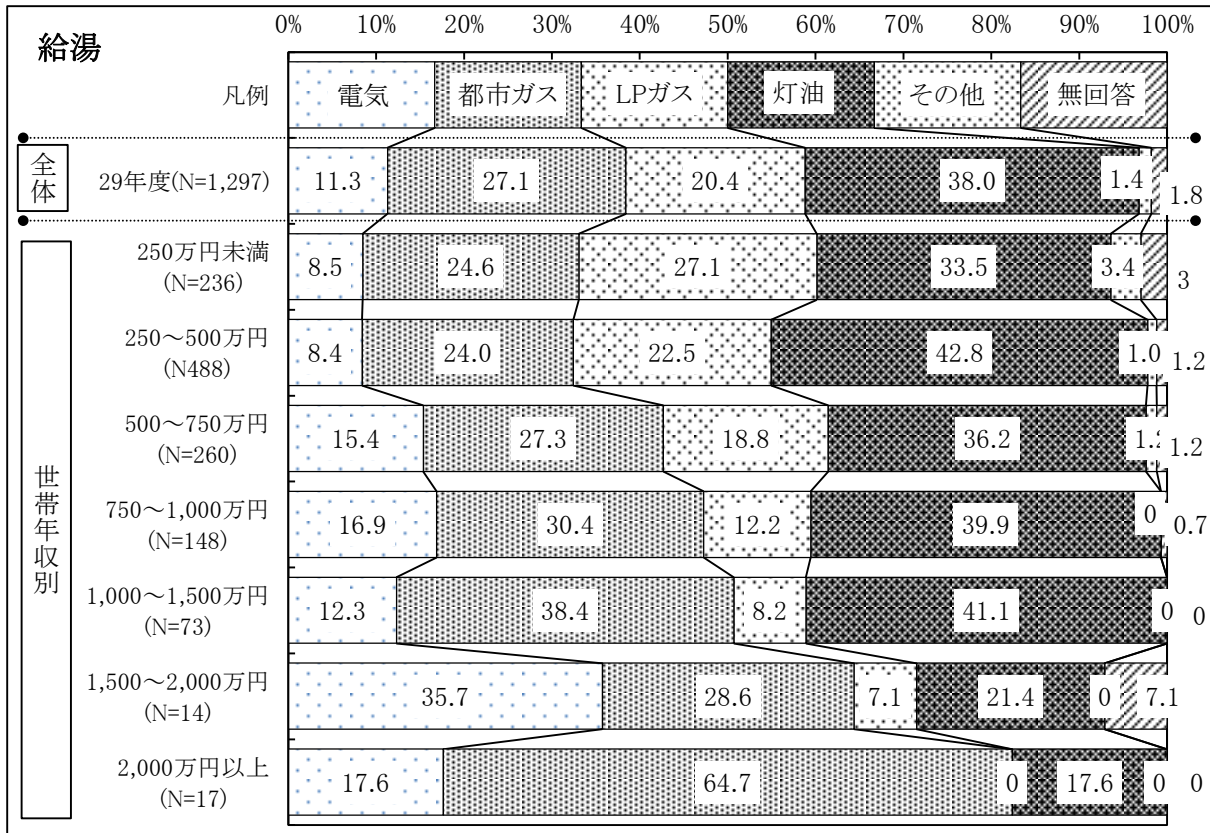


【住居形態別(給湯)】戸建(持家)は「灯油」、集合(持家)は「都市ガス」、戸建(賃貸)と集合(賃貸)は「LPガス」が最も高い。

【建築時期別(給湯)】2005年以前は「灯油」、2006～2010年は「電気」、2011年以降は「都市ガス」が最も高い。

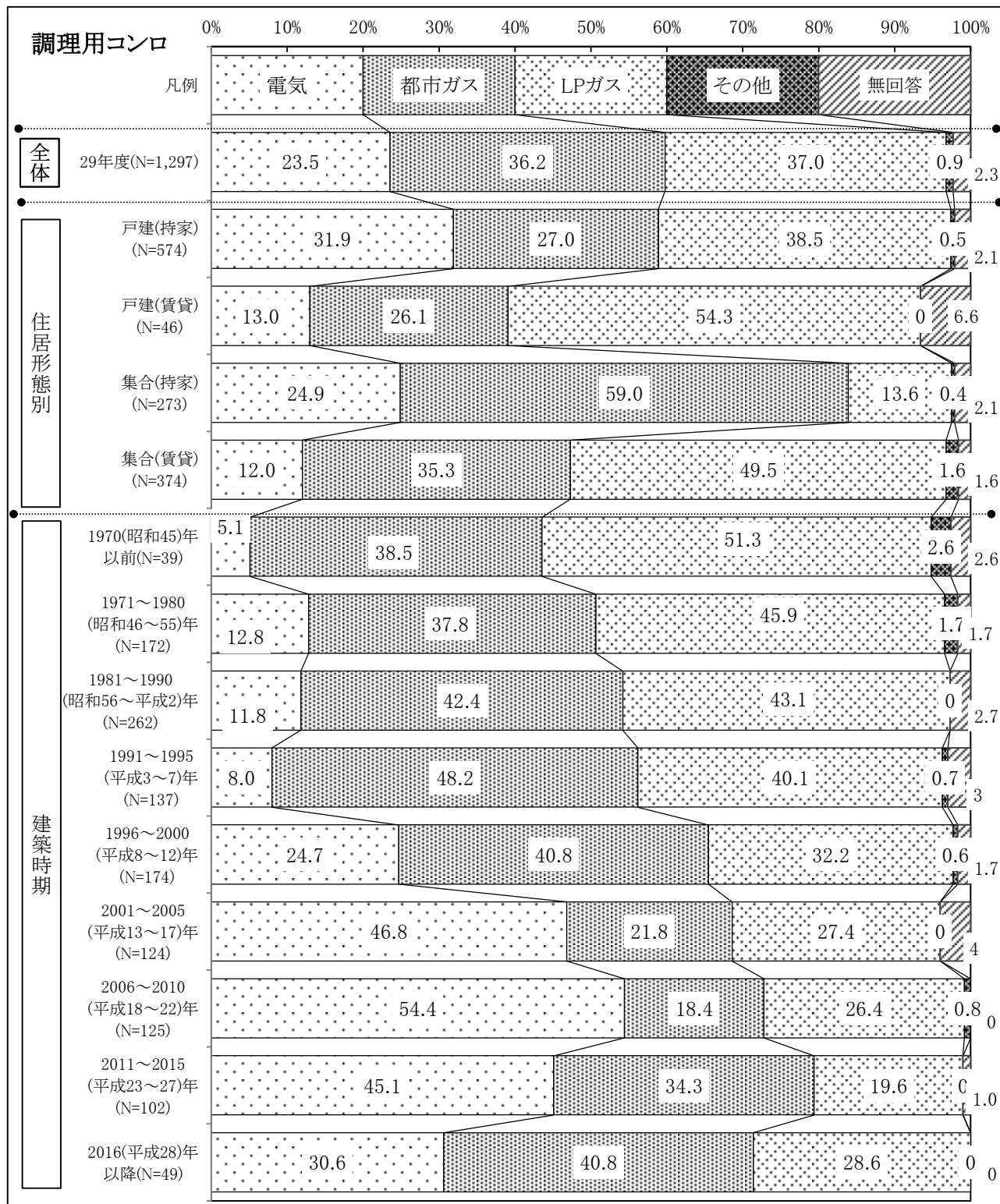


【世帯年収別（給湯）】世帯年収が高くなるにつれて「電気」と「都市ガス」を給湯エネルギーとして使用している傾向。

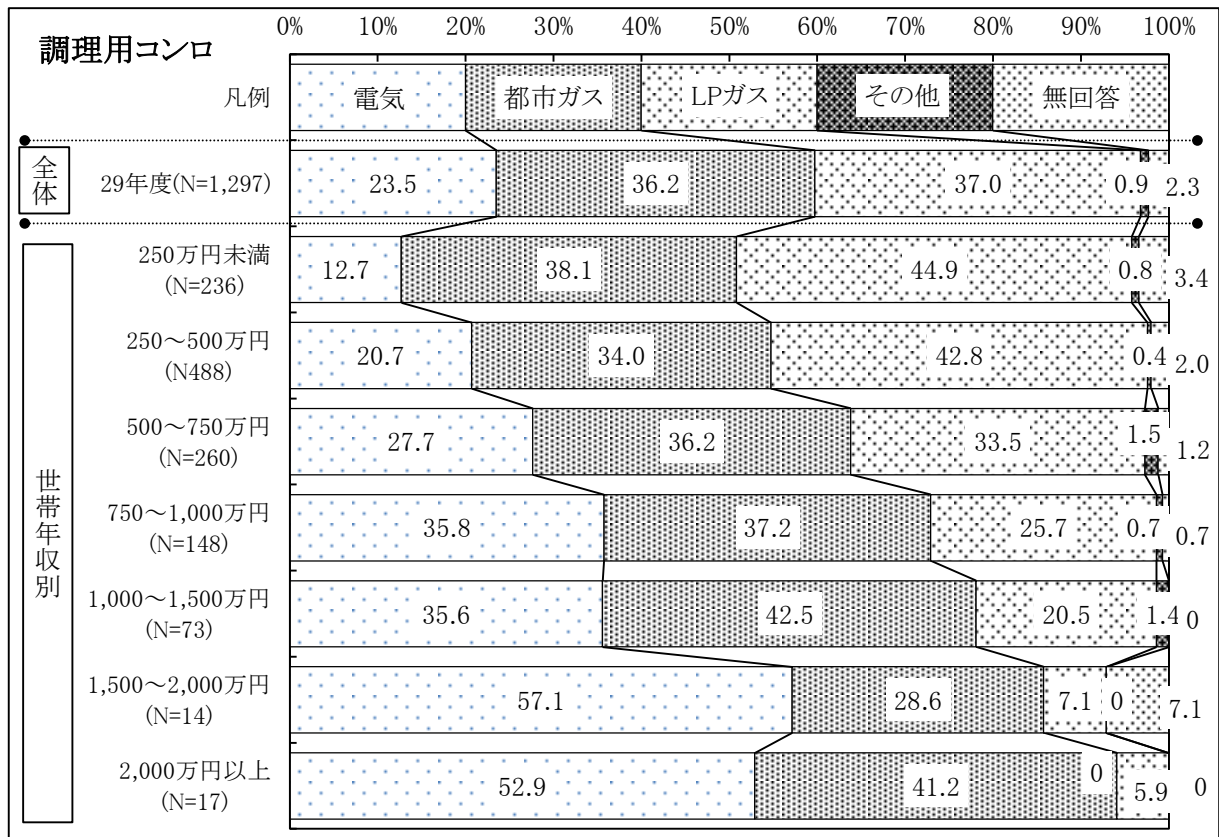


【住居形態別(調理用コンロ)】戸建(持家)、戸建(賃貸)、集合(賃貸)は「LPガス」、集合(持家)は「都市ガス」が最も高い。

【建築時期別(調理用コンロ)】1990年以前は「LPガス」、1991~2000年は「都市ガス」、2001~2015年は「電気」、2016年以降は「都市ガス」が最も高い。



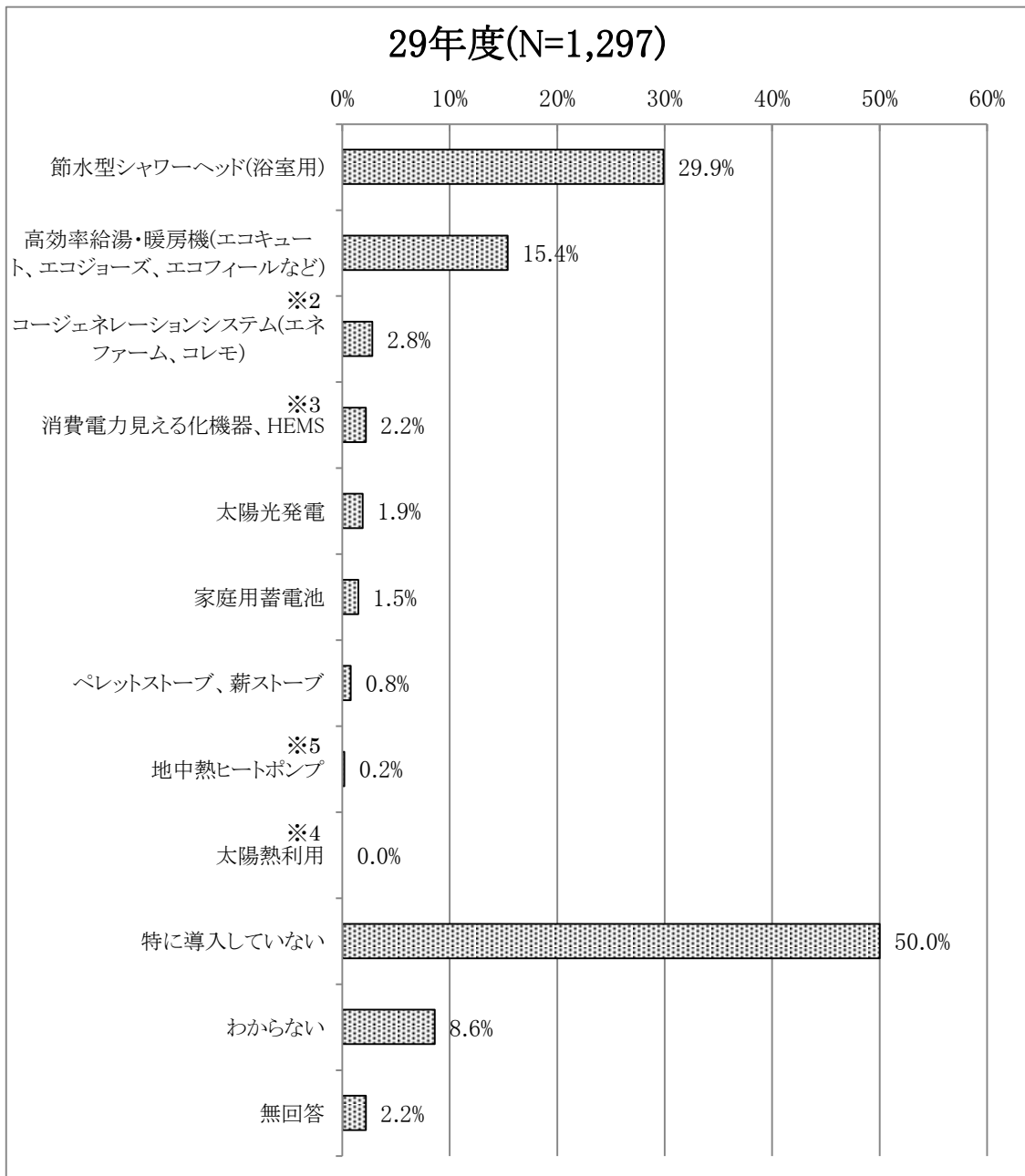
【世帯年収別(調理用コンロ)】世帯年収が高くなるにつれて「電気」と「都市ガス」を調理用コンロのエネルギーとして使用している傾向。



■省エネ・再エネ機器の普及状況

【問 10】 あなたの住まいでは、どのような省エネルギー機器や再生可能エネルギー機器※1を導入していますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】省エネ・再エネ機器を「特に導入していない」が50.0%で最も高く、次いで「節水型シャワーヘッド(浴室用)」(29.9%)、「高効率給湯・暖房機(エコキュート、エコジョーズ、エコフィールなど)」(15.4%)の順となっている。



※1 再生可能エネルギー機器：太陽光や風力など、永続的に利用できるエネルギーを活用した機器の総称

※2 コージェネレーション：都市ガス・LP ガスを燃料として、電気と給湯・暖房用の熱を一緒に作るシステム

※3 HEMS：Home Energy Management System の略。家庭で使うエネルギーを節約するための管理システム

※4 太陽熱利用：太陽熱集熱器で太陽の熱エネルギーを集め、水や空気を暖めて給湯・暖房に使用するシステム

※5 地中熱ヒートポンプ：地中の冷温熱を利用した給湯・暖房システム

【住居形態別】省エネ・再エネ機器の導入は、持家のほうが賃貸より高くなる傾向。

【建築時期別】建築時期が新しくなるにつれて高くなる傾向。

【世帯年収別】世帯年収が上がるにつれて高くなる傾向。

	サンプル数	節水型シャワーヘッド(浴室用)	高効率給湯・暖房機(エコキュート、エコジョーズ、エコフィールなど)	コージェネレーションシステム(エネファーム、コレモ)	消費電力見える化機器、HEMS	太陽光発電	家庭用蓄電池	ペレットストーブ、薪ストーブ	地中熱ヒートポンプ	太陽熱利用	特に導入していない	無回答	わからない
全体	1,297	29.9	15.4	2.7	2.2	1.9	1.5	0.8	0.2	0	50	2.2	8.6
《住居形態》													
戸建(持家)	574	35.7	19.2	3.1	4.2	4.2	1.4	1.9	0.5	0	47.6	1.6	5.4
戸建(賃貸)	46	23.9	8.7	0	2.2	0	4.3	0	0	0	60.9	4.3	4.3
集合(持家)	273	34.1	22.3	4.4	0.7	0.4	1.5	0	0	0	41.4	2.2	8.4
集合(賃貸)	374	20.3	5.6	1.3	0.3	0	1.3	0	0	0	57.8	1.9	14.4
《建築年代》													
1970(昭和45)年以前	39	38.5	0	0	0	0	0	5.1	0	0	53.8	2.6	10.3
1971~1980(昭和46~55)年	172	29.1	9.9	0.6	4.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0	57.6	1.2	8.7
1981~1990(昭和56~平成2)年	262	31.7	9.5	1.5	0.4	1.5	1.1	1.1	0.0	0	56.1	0.4	6.9
1991~1995(平成3~7)年	137	23.4	15.3	0	3.6	2.2	3.6	0.7	0.7	0	54.0	0.0	10.2
1996~2000(平成8~12)年	174	31.0	12.6	0.6	1.1	0	0.6	0	0	0	51.1	4.0	8.0
2001~2005(平成13~17)年	124	32.3	13.7	0	0	4.0	0	0	0	0	47.6	3.2	8.9
2006~2010(平成18~22)年	125	32.0	24.0	7.2	0.8	0.8	3.2	0.8	0	0	37.6	3.2	9.6
2011~2015(平成23~27)年	102	33.3	45.1	7.8	3.9	4.9	1.0	2.0	0	0	26.5	1.0	7.8
2016(平成28)年以降	49	42.9	36.7	24.5	14.3	12.2	6.1	2.0	2.0	0	26.5	2.0	6.1
《世帯年収》													
250万円未満	236	24.2	10.6	2.1	2.5	1.3	2.5	1.3	0.4	0	50.4	3.8	11.9
250~500万円	488	30.7	11.9	0.8	2.0	2.3	1.4	0.2	0.0	0	54.7	2.0	7.2
500~750万円	260	30.4	19.6	4.6	1.5	1.5	0.8	0.4	0.8	0	51.5	0.4	5.4
750~1,000万円	148	34.5	19.6	3.4	2.0	1.4	1.4	2.0	0	0	45.3	0.7	8.8
1,000~1,500万円	73	35.6	27.4	6.8	4.1	4.1	0	0	0	0	37	1.4	6.8
1,500~2,000万円	14	42.9	14.3	7.1	0	7.1	7.1	7.1	0	0	35.7	7.1	7.1
2,000万円以上	17	41.2	52.9	17.6	11.8	5.9	0	11.8	0	0	29.4	5.9	0

対象者全体と比較し10%以上高い

対象者全体と比較し10%以上低い

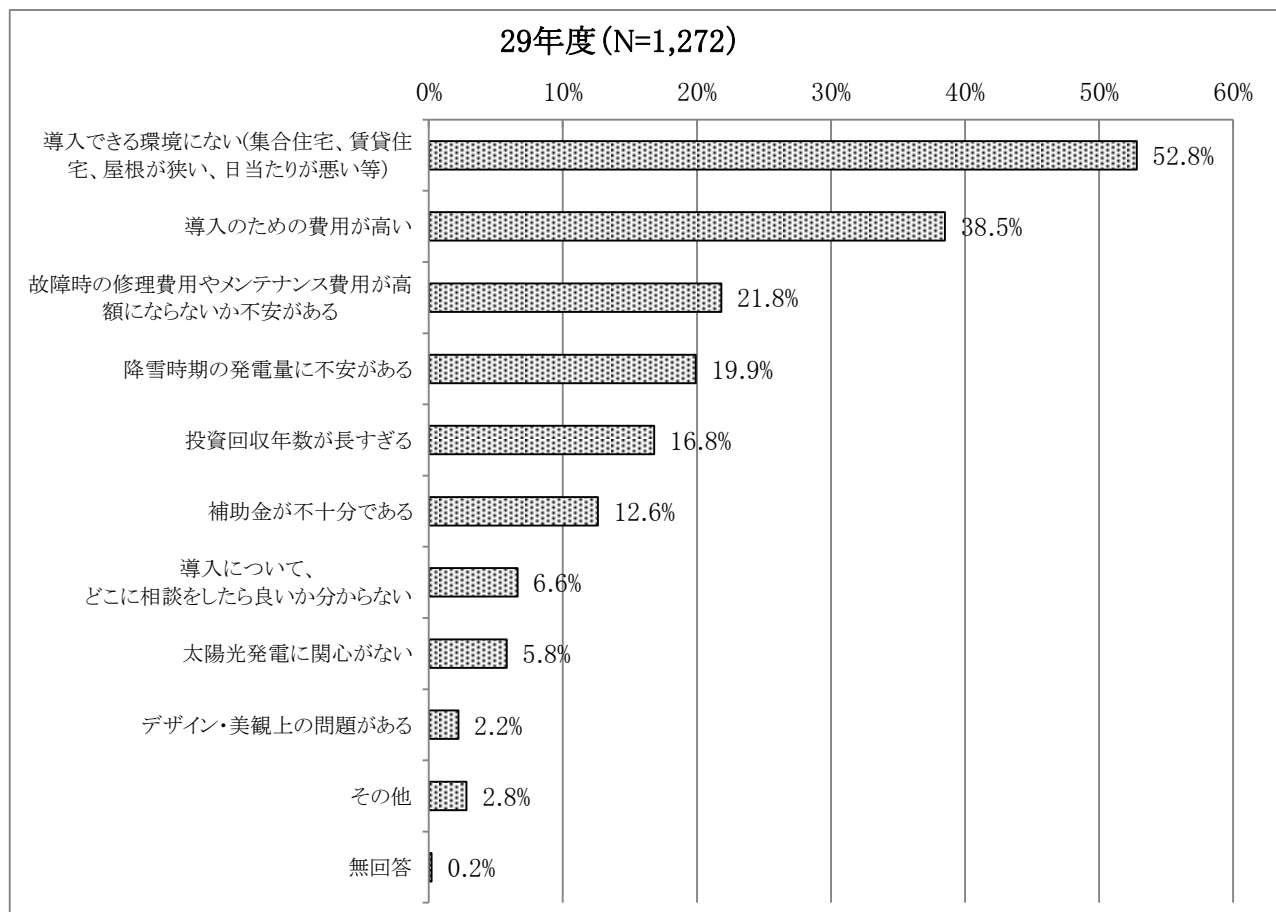
単位 % (サンプル数を除く)

■太陽光発電を導入しない理由

《「【問 10】で「太陽光発電」に○をつけなかった方にお聞きします》

【問 10-1】 あなたのお住いに太陽光発電を導入しない理由は何ですか。
 あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】「導入できる環境にない」が52.8%と最も高く、次いで「導入のための費用が高い」(38.5%)、「故障時の修理費用やメンテナンス費用が高額にならないか不安がある」(21.8%)の順となっている。



【住居形態別】戸建(持家)は、「導入のための費用が高い」が71.1%と最も高く、次いで「故障時の修理費用やメンテナンス費用が高額にならないか不安がある」(39.5%)、「降雪時期の発電量に不安がある」(36.7%)の順となっている。

【世帯年収別】「導入できる環境にない」を除き、「導入のための費用が高い」が全世帯年収で最も高い。

	サンプル数	導入できる環境にない(集合住宅、賃貸住宅、屋根が狭い、日当たりが悪い等)	導入のための費用が高い	故障時の修理費用やメンテナンス費用が高額にならないか不安がある	降雪時期の発電量に不安がある	投資回収年数が長すぎる	補助金が不十分である	導入について、どこに相談をしたら良いか分からない	太陽光発電に関心がない	デザイン・美観上の問題がある	その他	無回答
全体	1,272	52.8	38.5	21.8	19.9	16.8	12.6	6.6	5.8	2.2	2.8	0.2
《住居形態》												
戸建(持家)	550	14.0	71.1	39.5	36.7	31.5	22.5	9.1	8.4	3.8	3.8	1.6
戸建(賃貸)	46	78.3	26.1	15.2	13.0	6.5	8.7	6.5	4.3	2.2	2.2	4.3
集合(持家)	272	82.0	15.1	11.0	9.2	7.4	5.1	5.5	2.6	0.7	3.7	2.2
集合(賃貸)	374	87.2	10.4	4.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.3	1.1	1.1	1.9
その他	13	15.4	30.8	23.1	15.4	15.4	15.4	0	23.1	0	0	7.7
《世帯年収》												
250万円未満	233	54.9	30.0	15.0	13.3	9.4	7.7	6.9	3.9	2.1	1.3	3.9
250～500万円	477	55.3	38.4	22.0	21.2	17.8	13.6	6.1	5.7	1.5	3.4	2.1
500～750万円	256	55.5	44.1	26.6	20.3	17.2	13.3	8.2	5.9	3.1	1.6	0.4
750～1,000万円	146	43.2	45.2	22.6	24.0	24.7	19.2	4.8	6.8	2.1	6.2	0.7
1,000～1,500万円	70	51.4	45.7	32.9	30	21.4	11.4	5.7	11.4	1.4	1.4	1.4
1,500～2,000万円	13	61.5	23.1	15.4	7.7	23.1	0	0	7.7	7.7	0	7.7
2,000万円以上	16	25.0	50.0	25.0	31.3	43.8	18.8	6.3	6.3	18.8	6.3	6.3

対象者全体と比較し10%以上高い

対象者全体と比較し10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

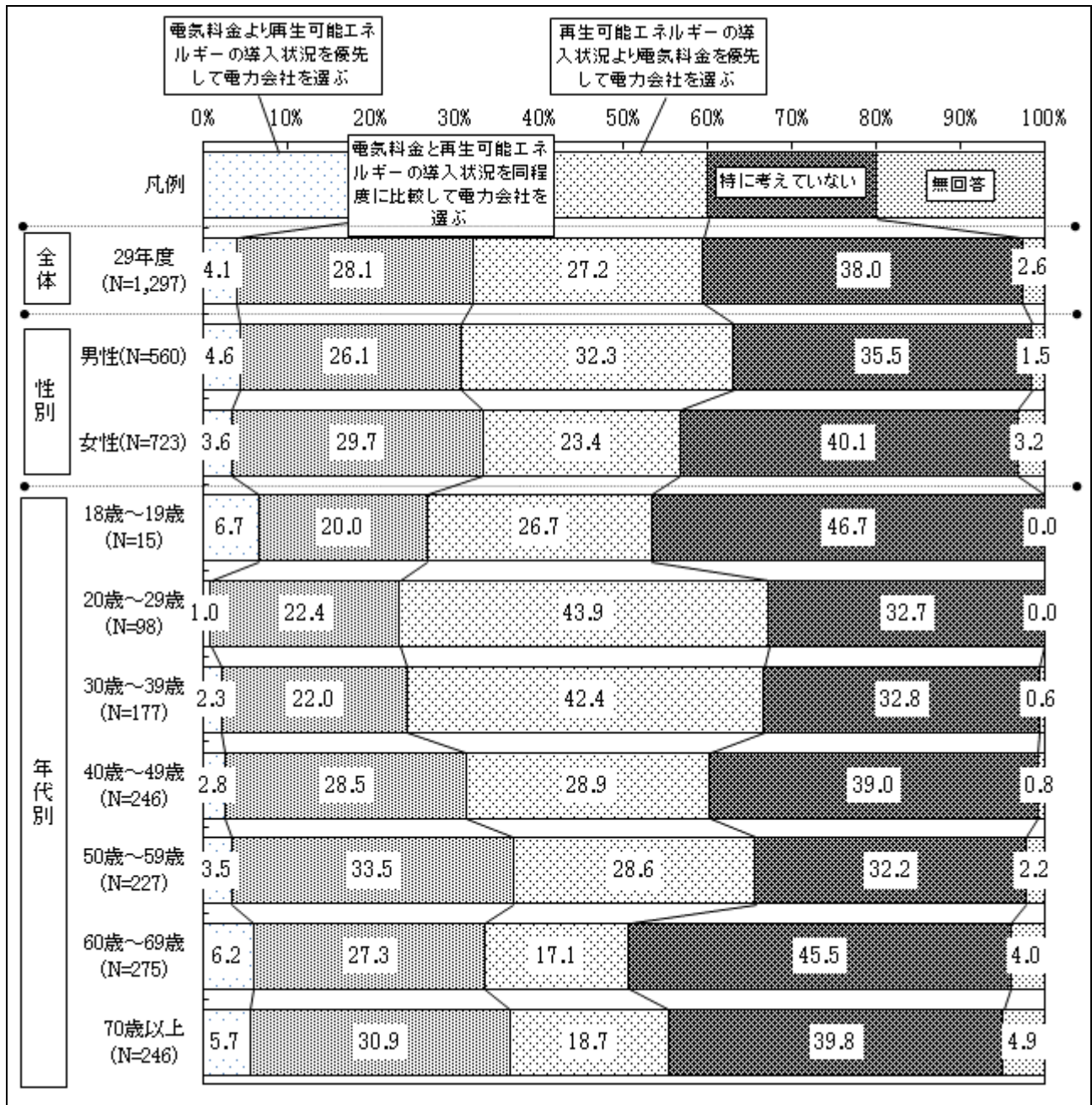
■電力会社の再エネ導入に対する認識

【問 11】 あなたが電力会社を選ぶとき、電力会社による再生可能エネルギーの導入状況をどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

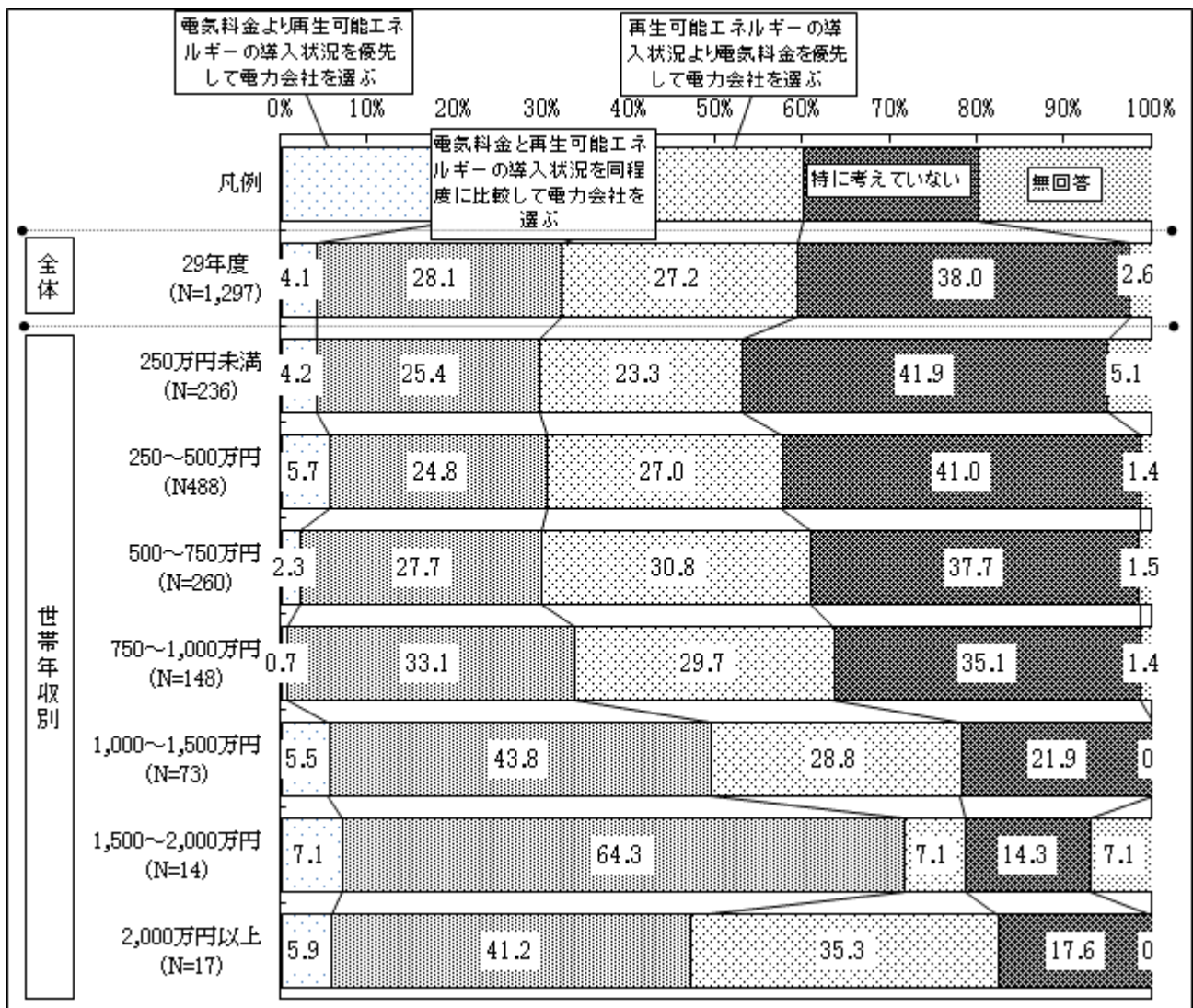
【全体】「電気料金より再生可能エネルギーの導入状況を優先」は4.1%。

【性別】男女に大きな差は見られない。

【年代別】20歳代、30歳代は「再生可能エネルギーの導入状況より電気料金を優先」の割合が約4割であり、他の年代より10%以上高い。



【世帯年収別】世帯年収が上がるにつれて、「電気料金より再生可能エネルギーの導入状況を優先」及び「電気料金と再生可能エネルギーの導入状況を同程度」の割合が高くなる傾向。



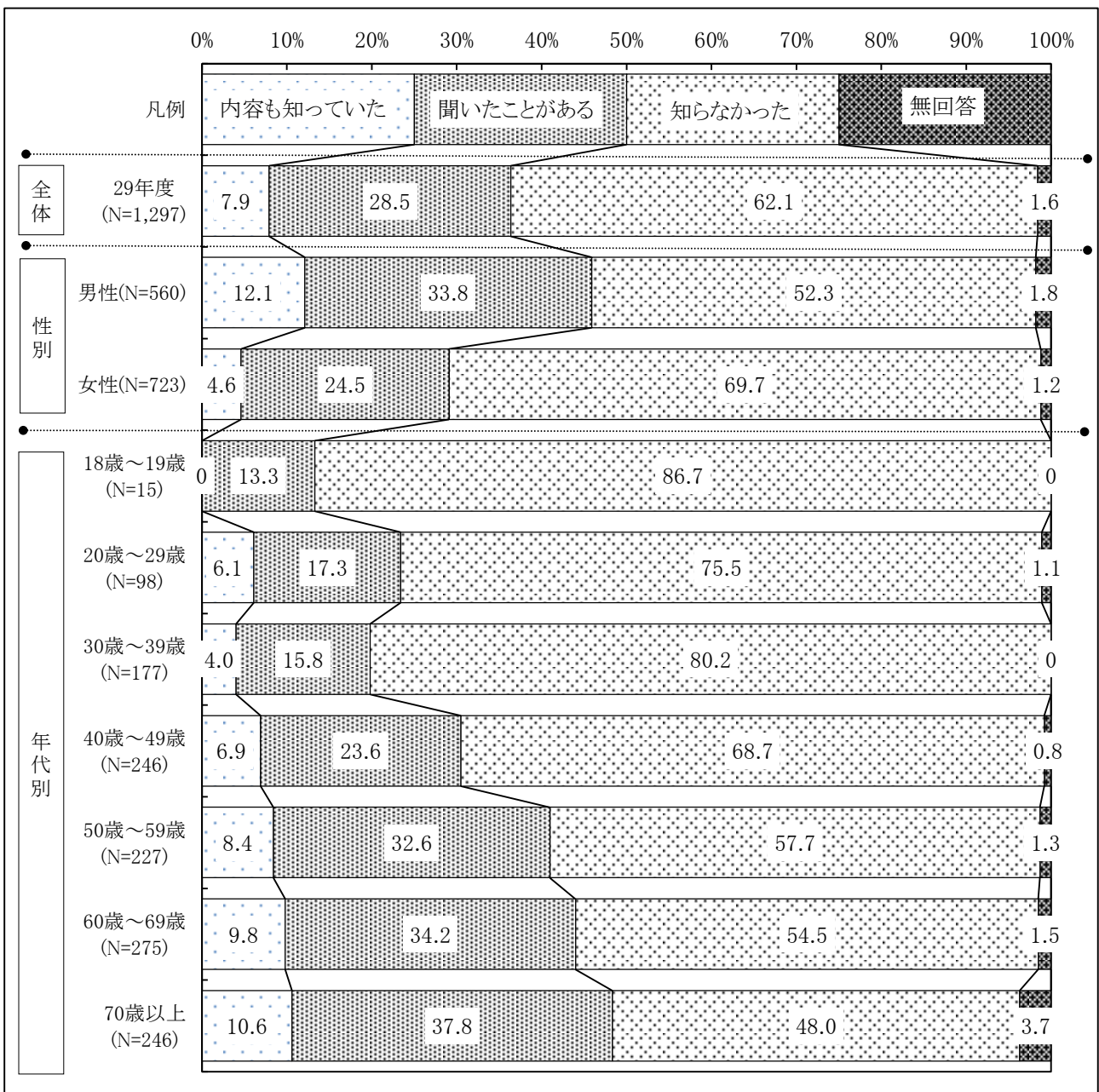
■電力排出係数に対する認識

【問 12】 契約する電力会社によって、ご家庭の電気使用量が同じでも、ご家庭の電力使用に伴い排出される温室効果ガス（二酸化炭素など）の量は異なります。
あなたは、このことを知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

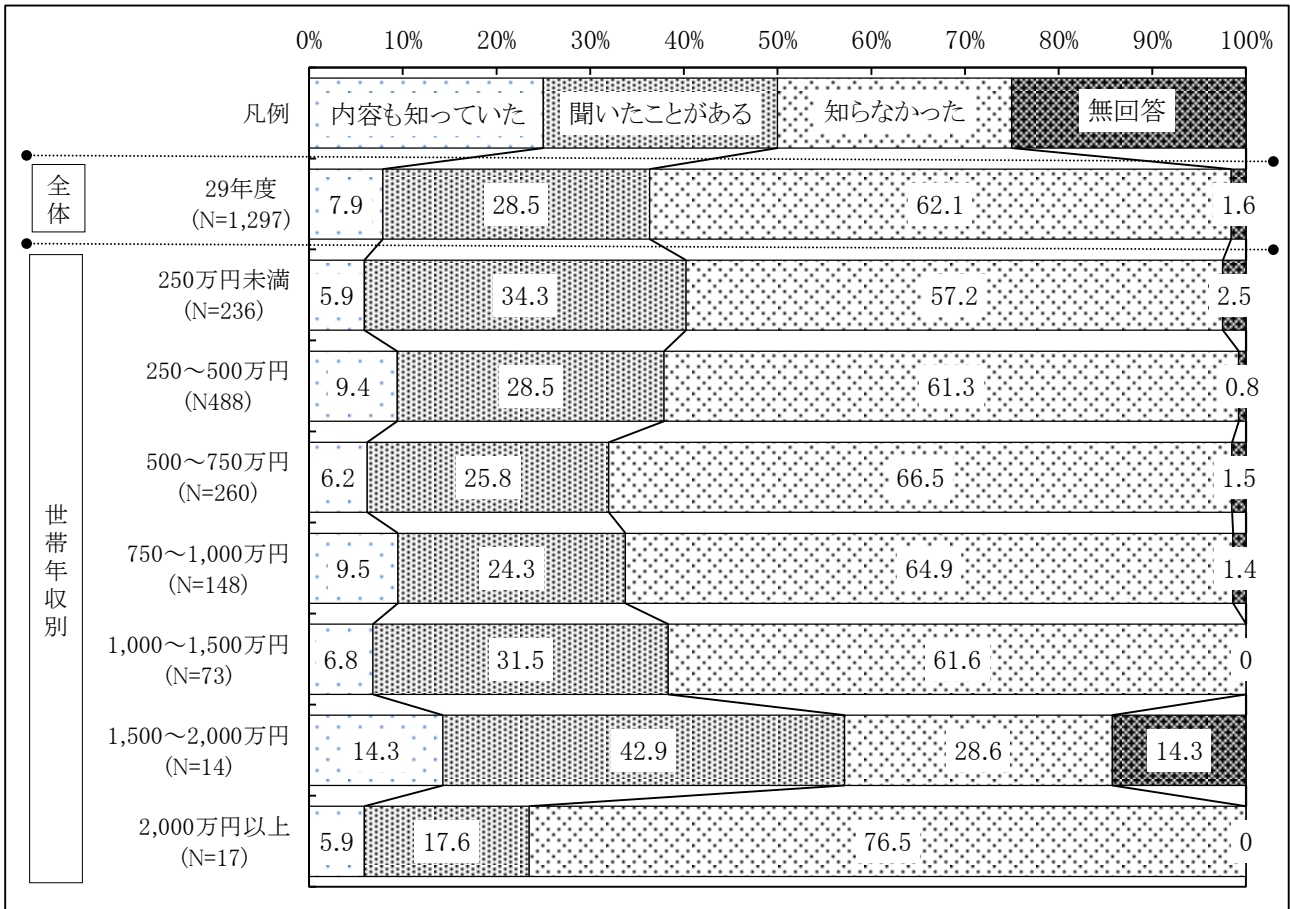
【全体】「内容も知っていた」は7.9%

【性別】「内容も知っていた」は男性が12.1%であり、女性の4.6%より7.5ポイント高くなっている。

【年代別】「内容も知っていた」は、年代が上がるにつれて高くなっている。



【世帯年収別】「聞いたことがある」は1,500～2,000万円が42.9%と平均より10%高く、2,000万円以上は17.6%と平均より10%低い。



■自動車の運転頻度

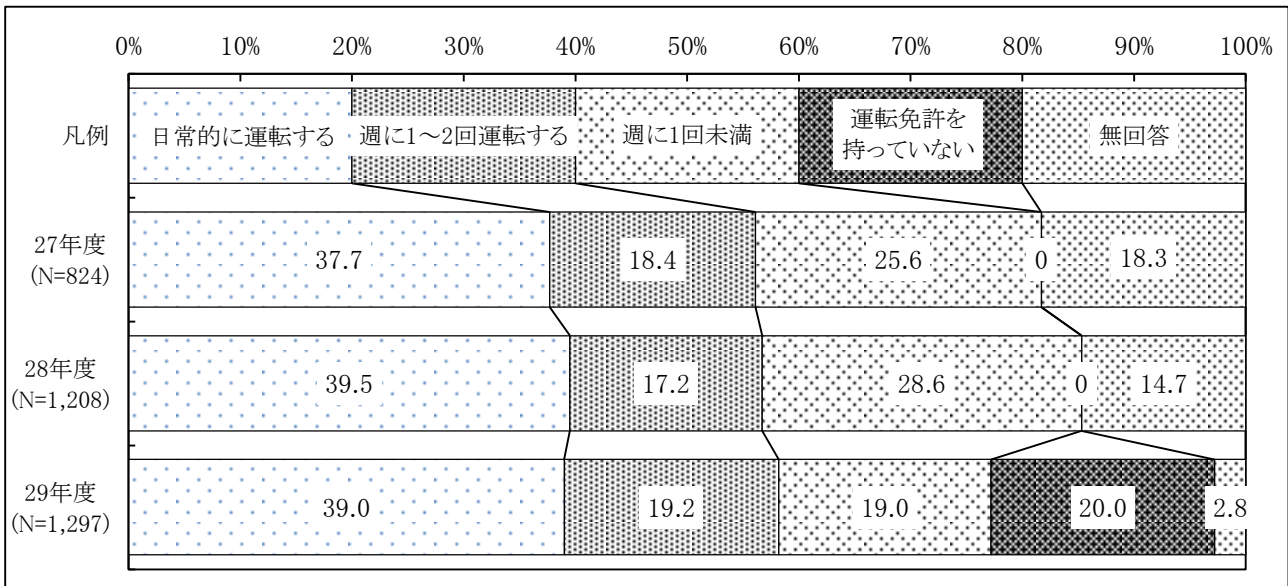
【問 13】 あなたは、どれくらい自動車を運転しますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】「日常的に運転する」が 39.0%。

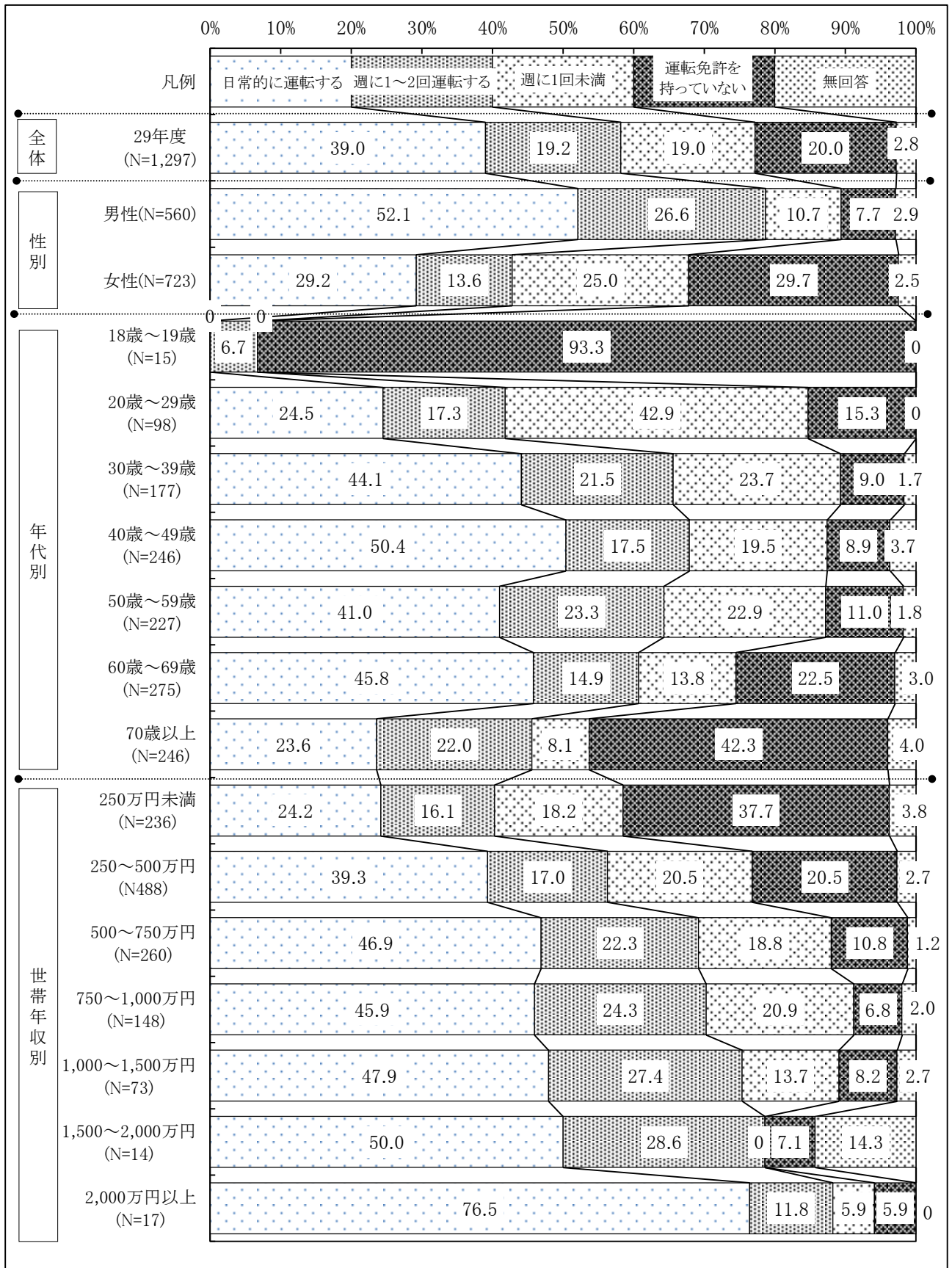
【性別】「日常的に運転する」は男性が 52.1%であり、女性の 29.2%より 22.9 ポイント高くなっている。

【年代別】「日常的に運転する」は 40 歳代 (50.4%) が最も高く、次いで 60 歳代 (45.8%)、30 歳代 (44.1%) の順となっている。

【世帯年収別】「日常的に運転する」は、世帯年収が上がるにつれて高くなる傾向。



※「運転免許を持っていない」は 27 年度・28 年度には無い項目のため比較なし



■運転する自動車の種類

《【問 13】で「日常的に運転する」または「週に1～2回」に○をつけた方にお聞きします》

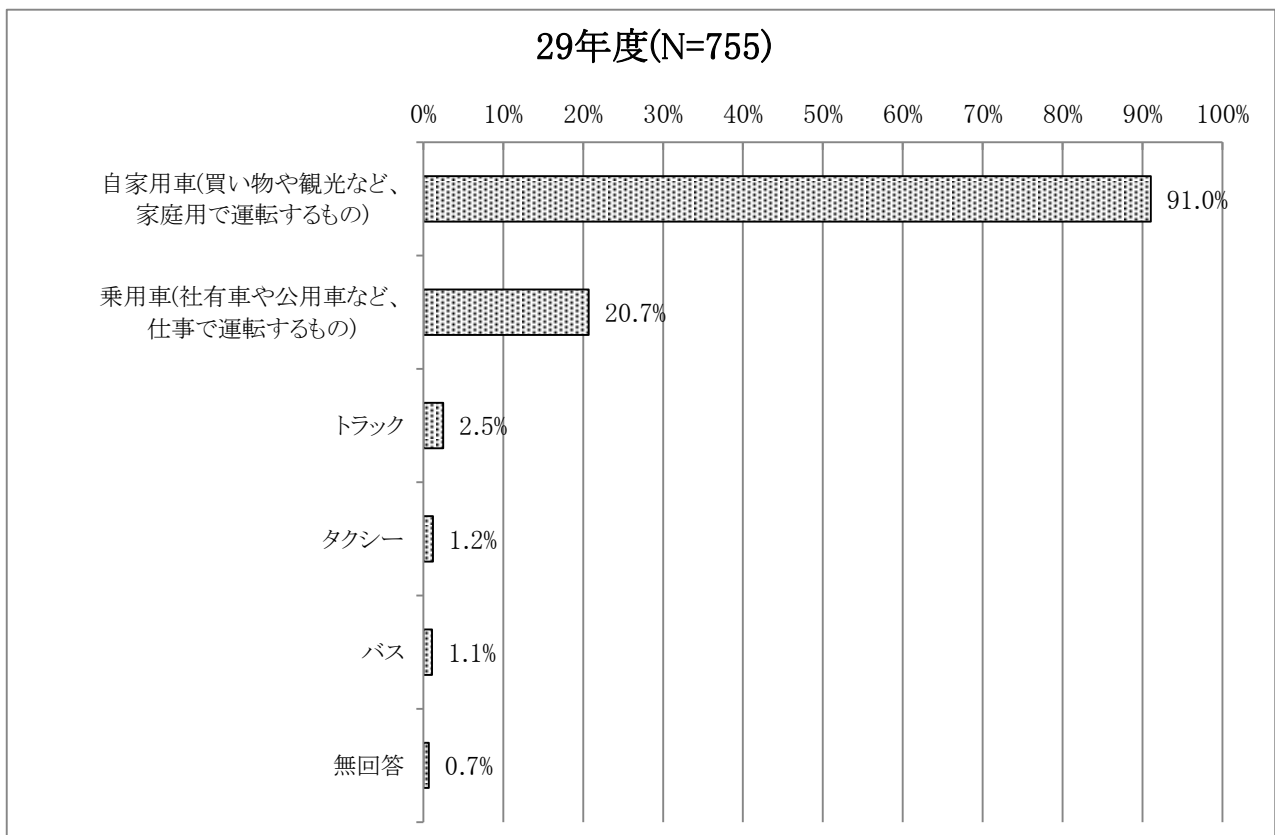
【問 13-1】 あなたは、どのような自動車を運転しますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】「自家用車(家庭用で運転)」は91.0%、「乗用車(仕事で運転)」は20.7%。

【性別】「自家用車(家庭用で運転)」は女性が96.4%であり、男性の87.1%より9.3%高くなっている。

【年代別】年代では大きな差は見られない。

【世帯年収別】世帯年収では大きな差は見られない。



	サンプル数	自家用車(買い物や観光など、 家庭用で運転するもの)	乗用車(社有車や公用車など、 仕事で運転するもの)	トラック	タクシー	バス	無回答
全体	755	91.0	20.7	2.5	1.2	1.1	0.7
《性別》							
男性	441	87.1	27.0	5.0	1.8	1.4	0.9
女性	309	96.4	12.0	0.0	0.3	0.6	0.3
《年代別》							
18～19 歳	1	100.0	0	0	0	0	0
20～29 歳	41	90.2	24.4	0	2.4	4.9	2.4
30～39 歳	116	96.6	21.6	4.3	0	0	0
40～49 歳	167	93.4	29.9	4.2	0.6	0	0
50～59 歳	146	89.7	16.4	2.1	1.4	2.1	0.7
60～69 歳	167	85.0	23.4	1.8	1.8	1.8	0.6
70 以上	112	92.0	7.1	0.9	1.8	0	1.8
《世帯年収別》							
250 万円未満	95	90.5	12.6	0	3.2	1.1	1.1
250～500 万円	275	92.4	18.9	2.9	1.1	0.7	0.7
500～750 万円	180	93.9	23.9	4.4	0.6	0	0
750～1,000 万円	104	94.2	27.9	1.9	0	1.0	1.0
1,000～1,500 万円	55	89.1	29.1	1.8	1.8	0	0
1,500～2,000 万円	11	100.0	27.3	9.1	9.1	0	0
2,000 万円以上	15	93.3	26.7	0	0	0	0

対象者全体と比較し 10%以上高い
対象者全体と比較し 10%以上低い

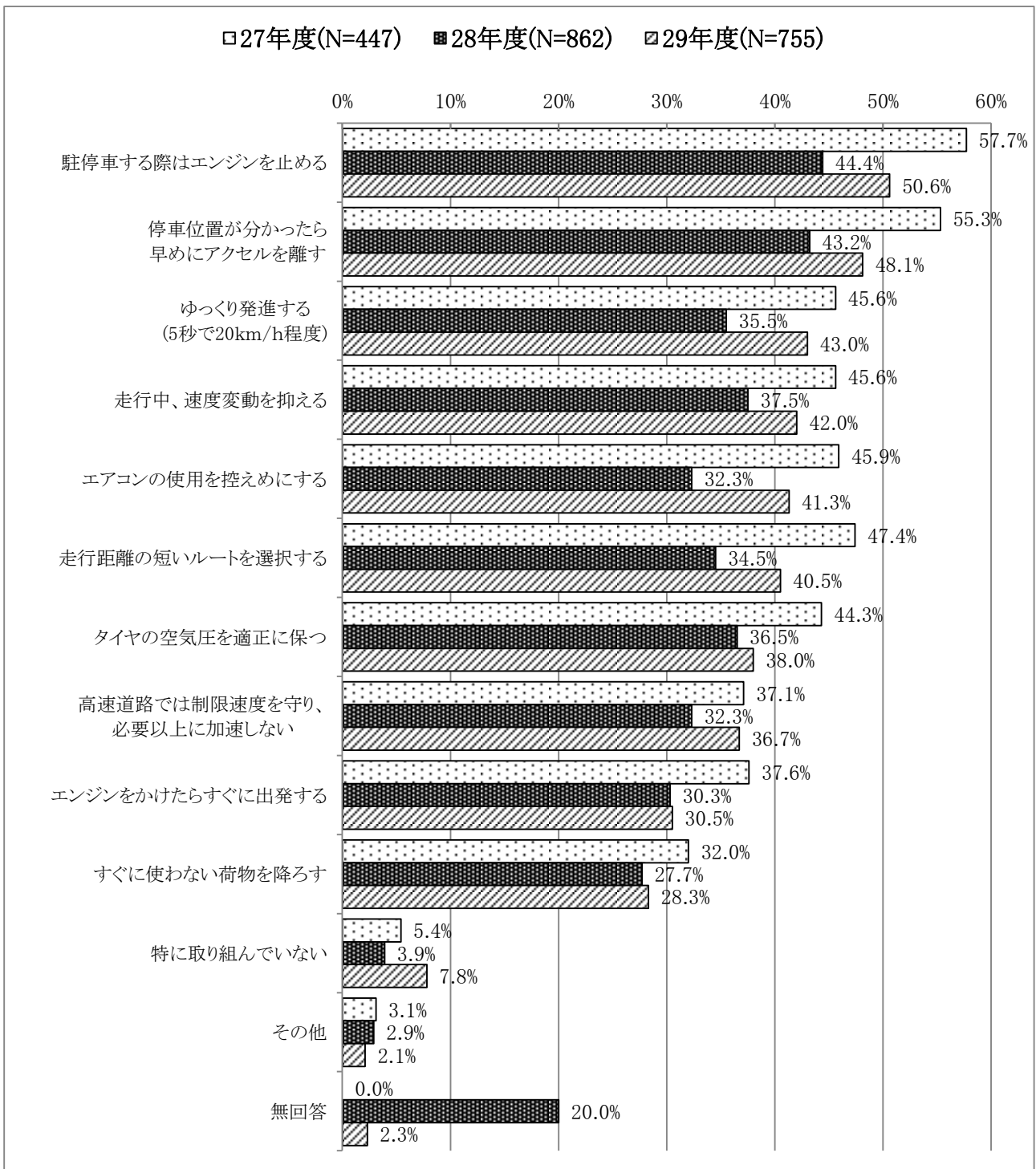
単位 % (サンプル数を除く)

■実践しているエコドライブの取組

《【問 13】で「日常的に運転する」または「週に1～2回」に○をつけた方にお聞きします》

【問 13-2】 あなたが運転する際に実施しているエコドライブの取組はありますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】 実施しているエコドライブの取組は、「駐停車する際はエンジンを止める」が50.6%で最も高く、次いで「停車位置が分かったら早めにアクセルを離す」(48.1%)、「ゆっくり発進する(5秒で20km/h程度)」(43.0%)の順に高くなっている。



【性別】「タイヤの空気圧を適正に保つ」は男性(45.1%)が女性(27.5%)より17.6ポイント、「走行中、速度変動を抑える」は男性(46.5%)が女性(35.3%)より11.2ポイント高くなっている。

【年代別】実施しているエコドライブの取組は、年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向。

【世帯年収別】世帯年収1,000万円以上では、実施している取組と実施していない取組の差が大きい。

	サンプル数	駐停車する際はエンジンを止める	停車位置が分かかったら早めにアクセルを離す	ゆっくり発進する (20秒で20km/h程度)	走行中、速度変動を抑える	エアコンの使用を控えるにする	走行距離の短いルートを選択する	タイヤの空気圧を適正に保つ	高速道路では制限速度を守り、必要以上に加速しない	エンジンをかけたらずぐに出發する	すぐに使わない荷物を降ろす	特に取り組んでいない	その他	無回答
《29年度全体》	755	50.6	48.1	43.0	42.0	41.3	40.5	38.0	36.7	30.5	28.3	7.8	2.1	2.3
《性別》														
男性	441	50.1	47.6	43.3	46.5	40.8	43.3	45.1	39.2	28.8	29.5	7.3	1.1	2.3
女性	309	50.5	49.2	43.0	35.3	42.1	36.9	27.5	33.0	32.7	26.5	8.7	3.6	2.3
《年代別》														
18～19歳	1	0	100	0	0	0	100	100	100	0	0	0	0	0
20～29歳	41	34.1	51.2	24.4	39.0	41.5	34.1	24.4	12.2	14.6	14.6	9.8	0	2.4
30～39歳	116	45.7	55.2	37.1	34.5	37.1	35.3	31.0	25.9	30.2	25.0	10.3	1.7	0.9
40～49歳	167	43.7	47.3	38.3	41.9	26.9	35.9	31.1	29.9	28.7	26.3	8.4	0.6	1.8
50～59歳	146	50.7	47.9	46.6	40.4	44.5	42.5	38.4	35.6	32.2	26.7	10.3	4.8	2.1
60～69歳	167	59.3	46.1	46.7	48.5	46.7	43.7	43.7	49.1	33.5	31.7	4.2	3.0	2.4
70歳以上	112	57.1	44.6	54.5	42.9	55.4	48.2	50.0	49.1	32.1	36.6	6.3	0.9	4.5
《世帯年収別》														
250万円未満	95	53.7	47.4	45.3	38.9	54.7	48.4	37.9	44.2	25.3	34.7	6.3	4.2	3.2
250～500万円	275	52.7	47.6	46.5	43.3	45.1	40.4	40.4	39.6	28.7	27.6	8.7	2.5	2.5
500～750万円	180	49.4	50.0	38.3	40.6	36.7	41.7	38.9	28.9	28.9	27.2	5.6	0.6	1.1
750～1,000万円	104	50.0	49.0	40.4	39.4	41.3	35.6	28.8	34.6	37.5	26.9	8.7	2.9	1.9
1,000～1,500万円	55	41.8	47.3	49.1	54.5	21.8	34.5	43.6	49.1	27.3	21.8	7.3	0	3.6
1,500～2,000万円	11	54.5	27.3	54.5	45.5	54.5	63.6	36.4	18.2	45.5	27.3	0	0	9.1
2,000万円以上	15	26.7	53.3	20.0	33.3	20.0	40.0	40.0	13.3	60.0	26.7	26.7	0	0

対象者全体と比較し10%以上高い

対象者全体と比較し10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

■実践しているエコドライブの頻度

《【問 13】で「日常的に運転する」または「週に1～2回」に○をつけた方にお聞きします》

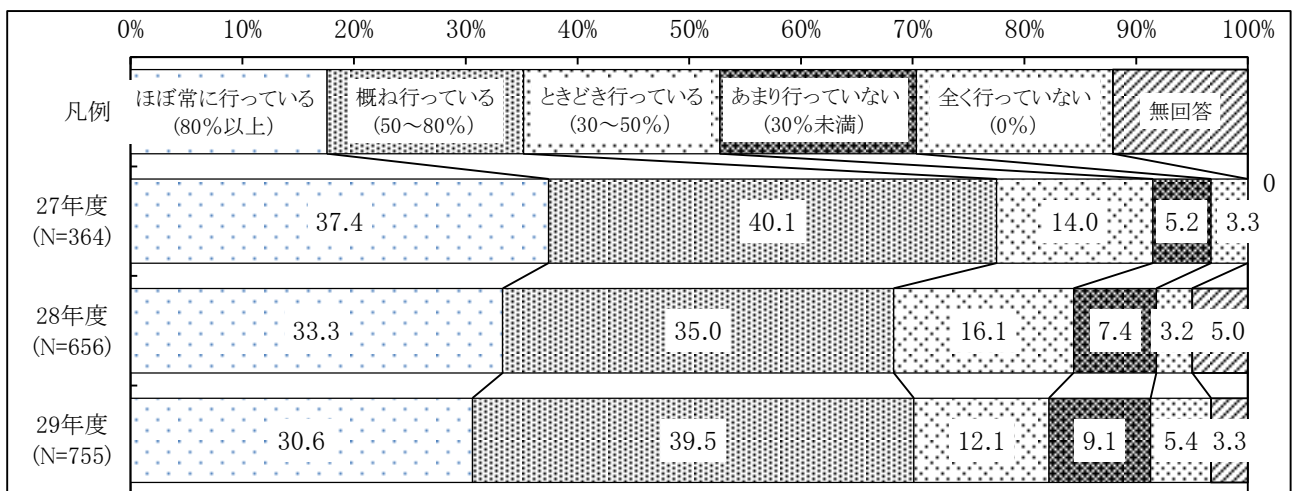
【問 13-3】 あなたが運転する際に実施しているエコドライブの頻度はどのくらいですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

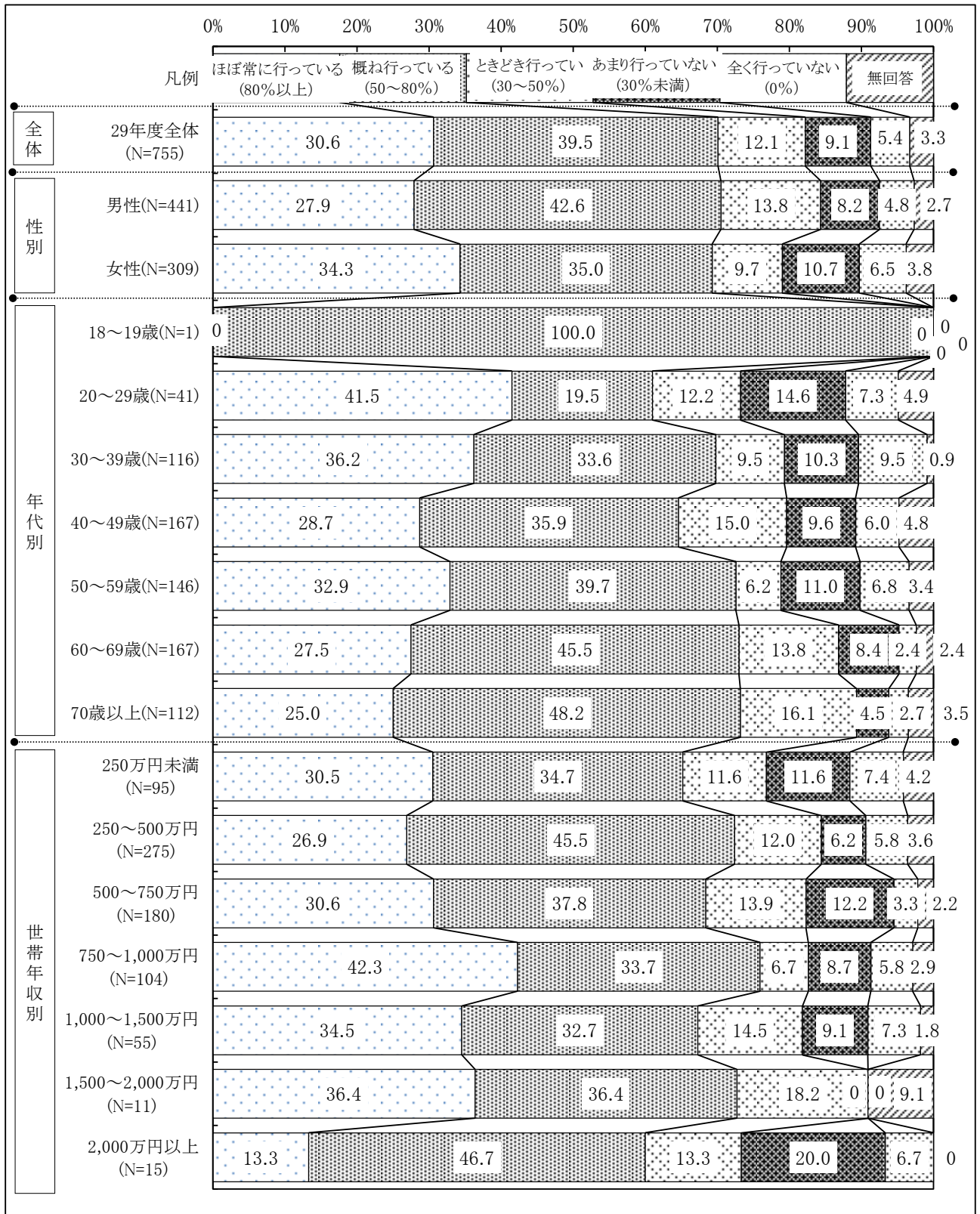
【全体】「ほぼ常に行っている(80%以上)」は30.6%、「概ね行っている」は39.5%。

【性別】男女に大きな差は見られない。

【年代別】「ほぼ常に行っている(80%以上)」は20歳代が41.5%と最も高く、次いで30歳代(36.2%)、30歳代(32.9%)の順となっている。

【世帯年収別】「ほぼ常に行っている(80%以上)」は750～1,000万円が42.3%と最も高く、次いで1,500～2,000万円(36.4%)、1,000～1,500万円(34.5%)の順となっている。

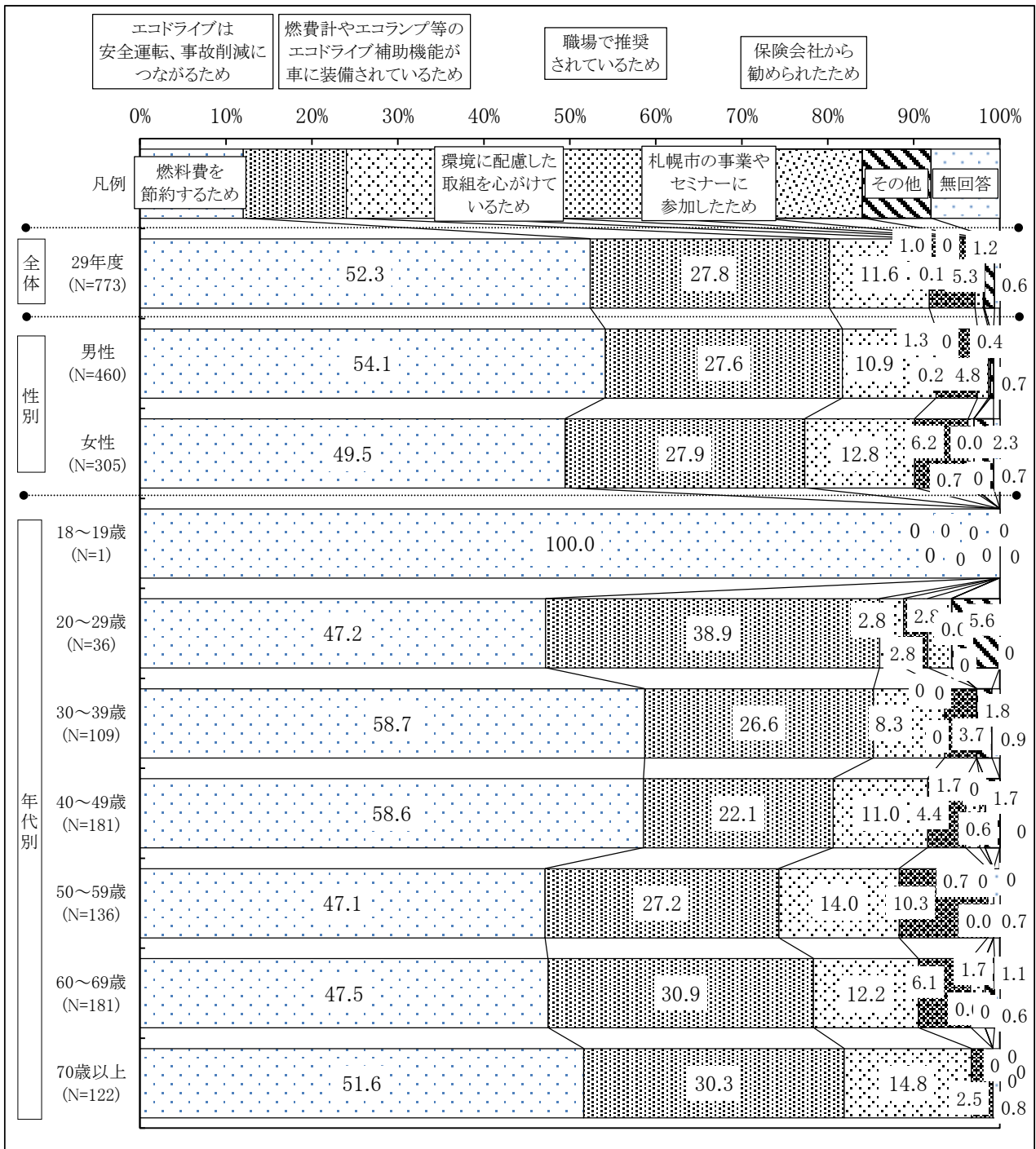




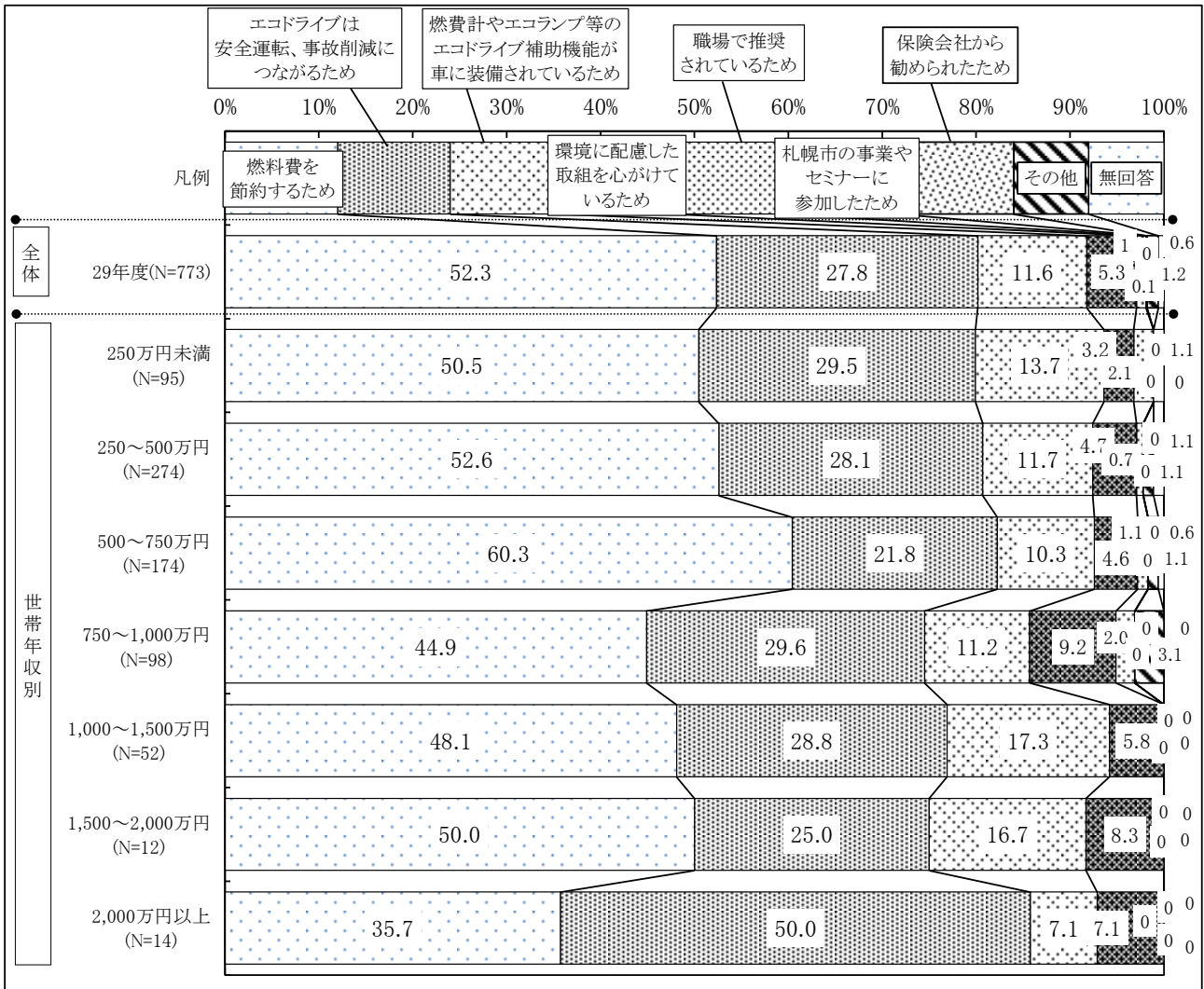
■エコドライブに取り組んでいる理由

《【問 13-3】で「ほぼ常に行っている」から「ときどき行っている」に○をつけた方にお聞きします》
 【問 13-4】 あなたがエコドライブに取り組んでいる理由・きっかけは何ですか。
 あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】「燃料費を節約するため」が52.3%、「エコドライブは安全運転、事故削減につながるため」が27.8%。
 【性別】男女に大きな差は見られない。
 【年代別】「燃料費を節約するため」は30歳代が58.7%と最も高く、次いで40歳代(58.6%)、70歳以上(51.6%)の順となっている。



【世帯年収別】「燃料費を節約するため」は世帯年収が上がるにつれて低くなる傾向。



■エコドライブにあまり取り組まない理由

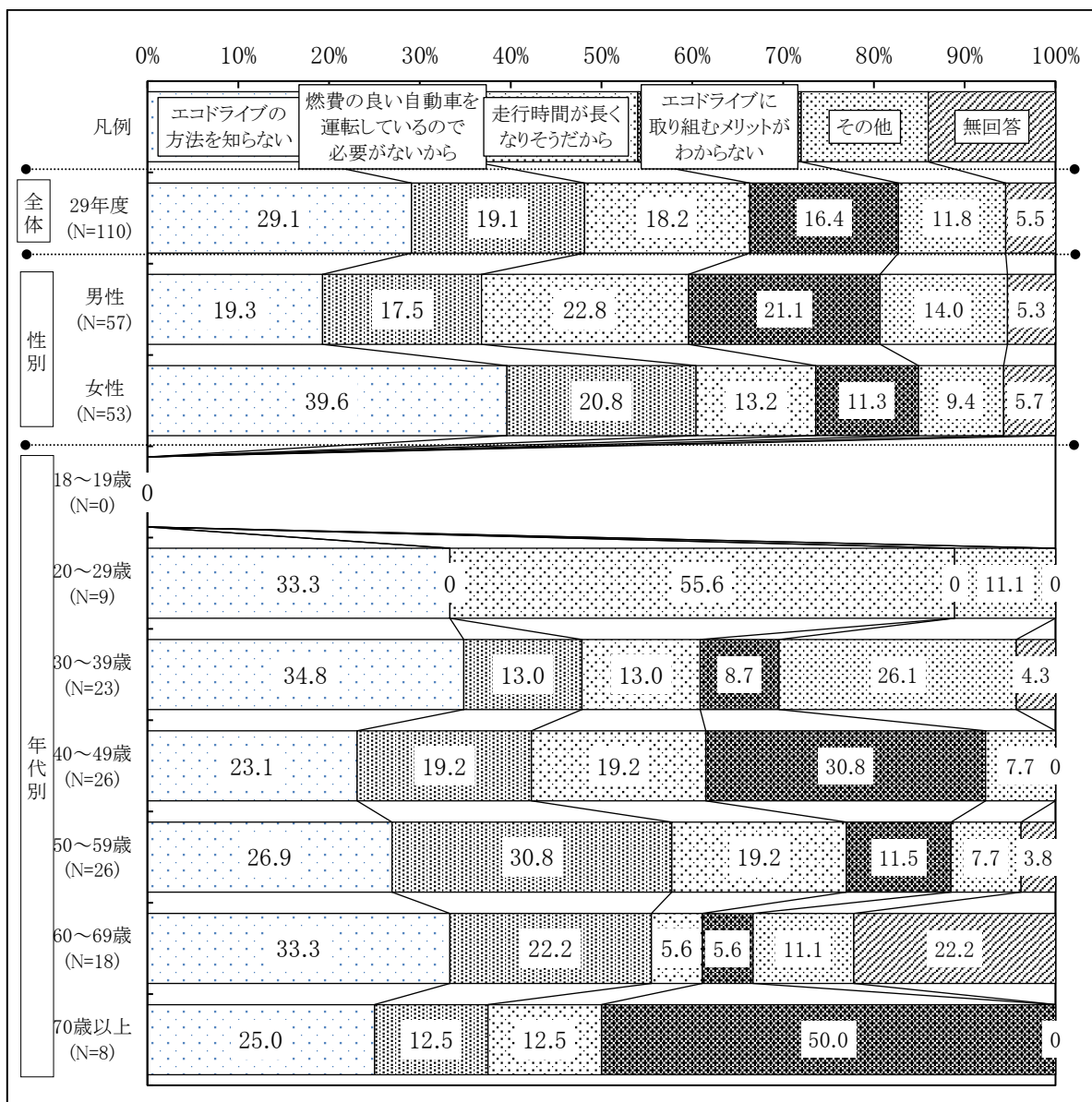
《【問 13-3】で「あまり行っていない」または「全く行っていない」に○をつけた方にお聞きします》

【問 13-5】 あなたがエコドライブにあまり、または全く取り組まない理由は何ですか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください

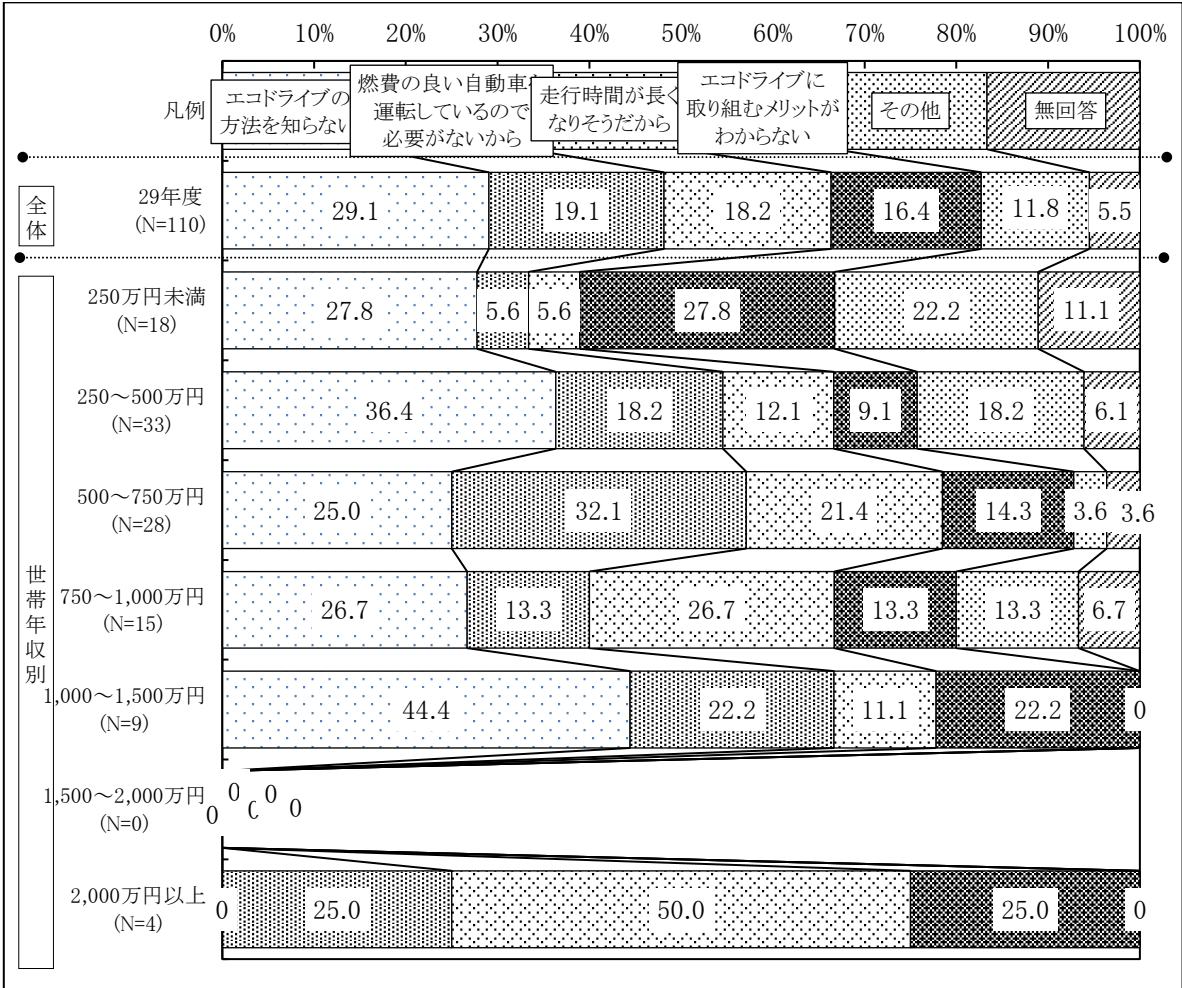
【全体】「エコドライブの方法を知らない」が 29.1%で最も高く、次いで「燃費の良い自動車を運転しているので必要がないから」(19.1%)、「走行時間が長くなりそうだから」(18.2%)の順となっている。

【性別】「エコドライブの方法を知らない」は女性が 39.6%であり、男性の 19.3%より 20.3 ポイント高くなっている。

【年代別】20 歳代は「走行時間が長くなりそうだから」、30 歳代は「エコドライブの方法を知らない」、40 歳代と 70 歳以上は「エコドライブに取り組むメリットが分からない」、50 歳代は「燃費の良い自動車を運転しているので必要がないから」が最も割合が高い。



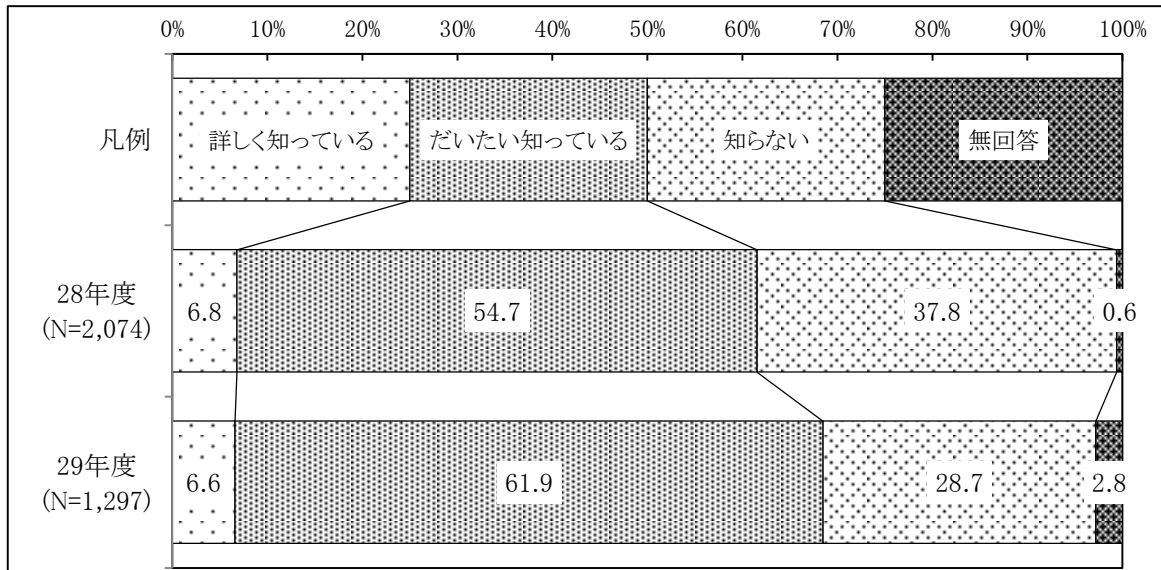
【世帯年収別】「エコドライブの方法を知らない」は1,000～1,500万円が44.4%と最も高く、次いで250～500万円(36.4%)、250万円未満(27.8%)の順となっている。



■燃料電池自動車（FCV）の認知度

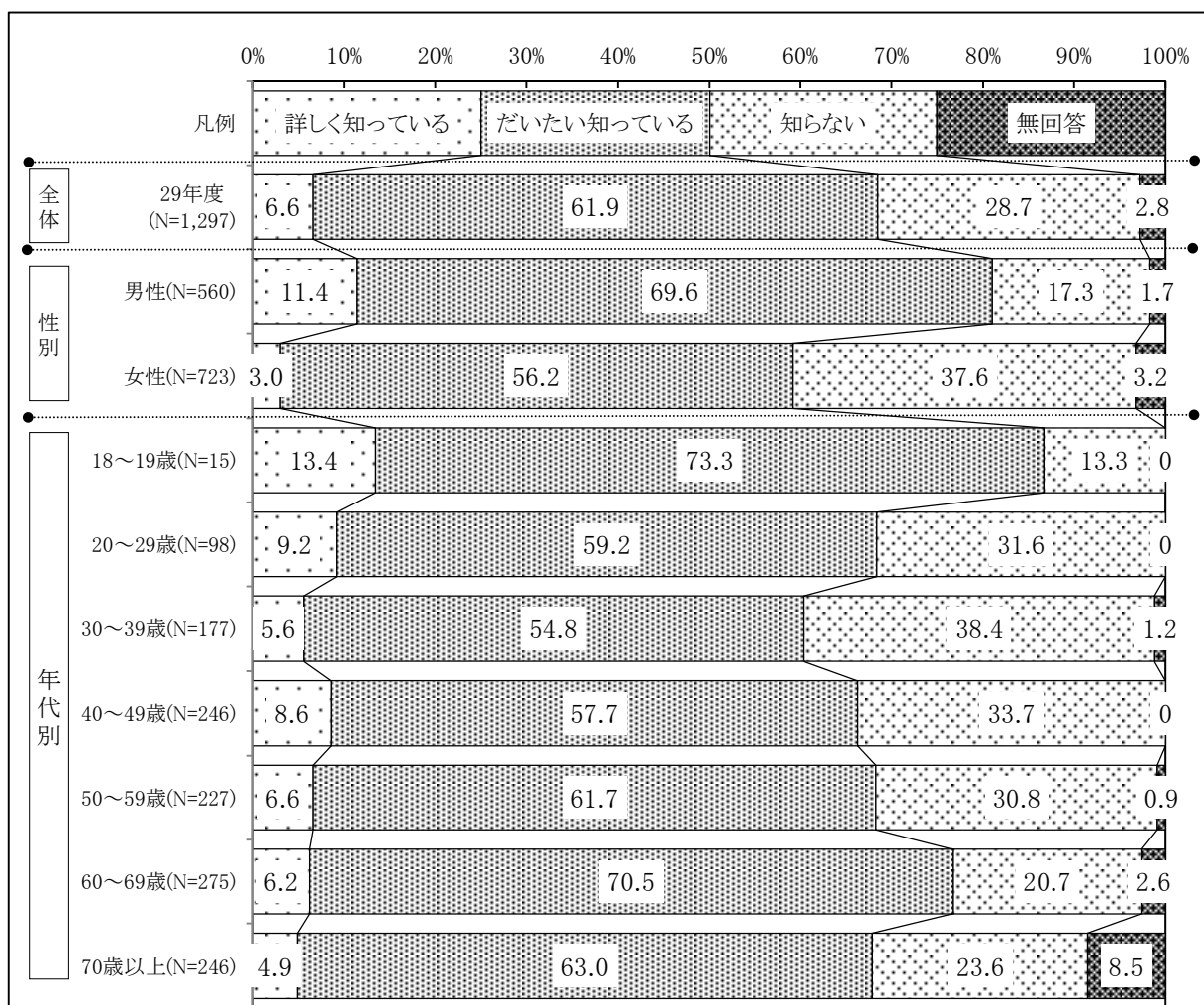
【問 14】 水素と酸素の化学反応によって発電した電気でモーターを回して走る自動車のことを燃料電池自動車（FCV）といいます。燃料となる水素は、再生可能エネルギーから製造可能であることから、燃料電池自動車（FCV）は燃料製造から利用まで温室効果ガス（二酸化炭素など）を発生しない「究極のエコカー」として期待されています。あなたは燃料電池自動車（FCV）を知っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 燃料電池自動車（FCV）を「知らない」人は 28.7%。

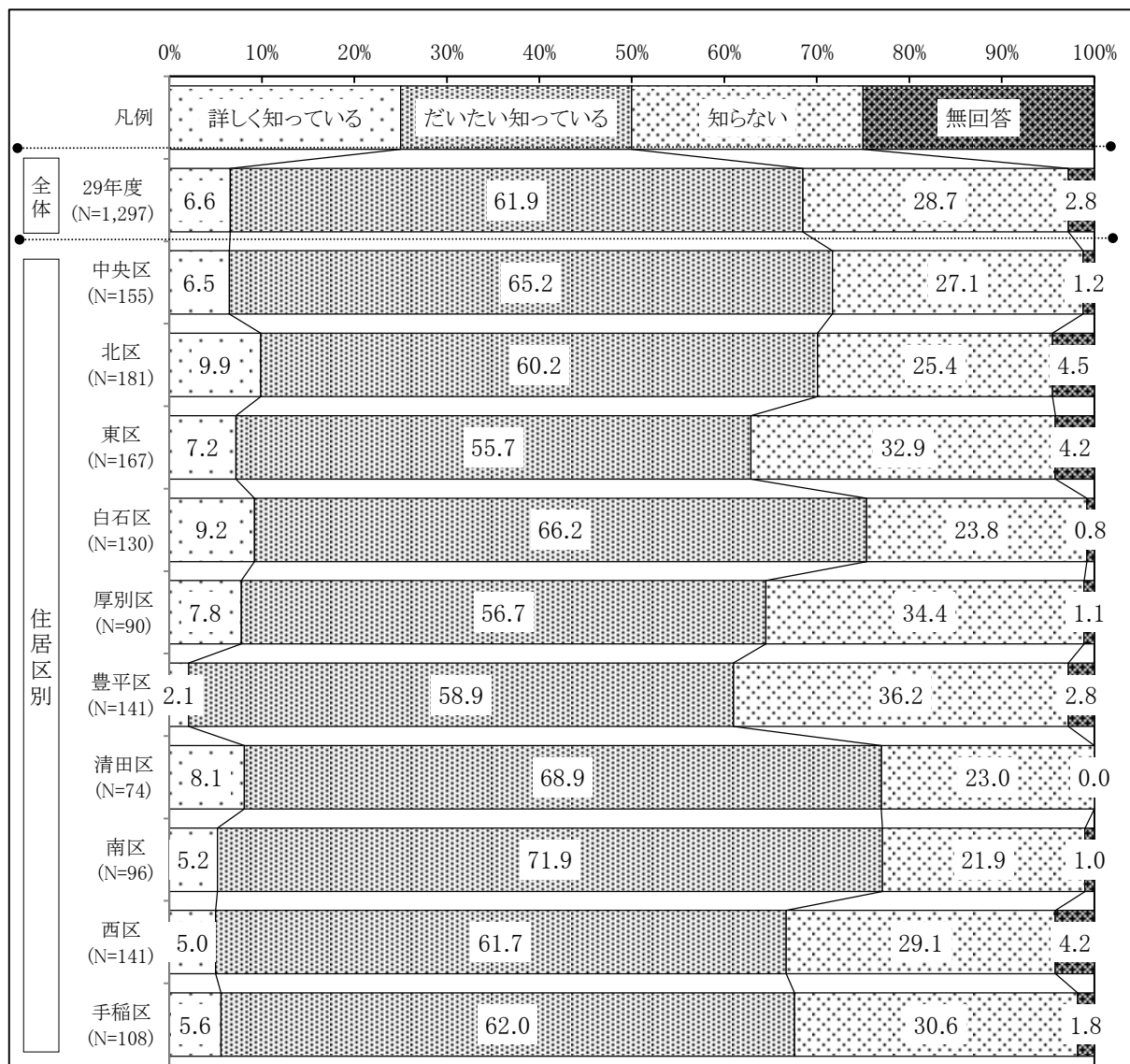


【性別】「知らない」は女性が37.6%であり、男性の17.3%より20.3%高くなっている。

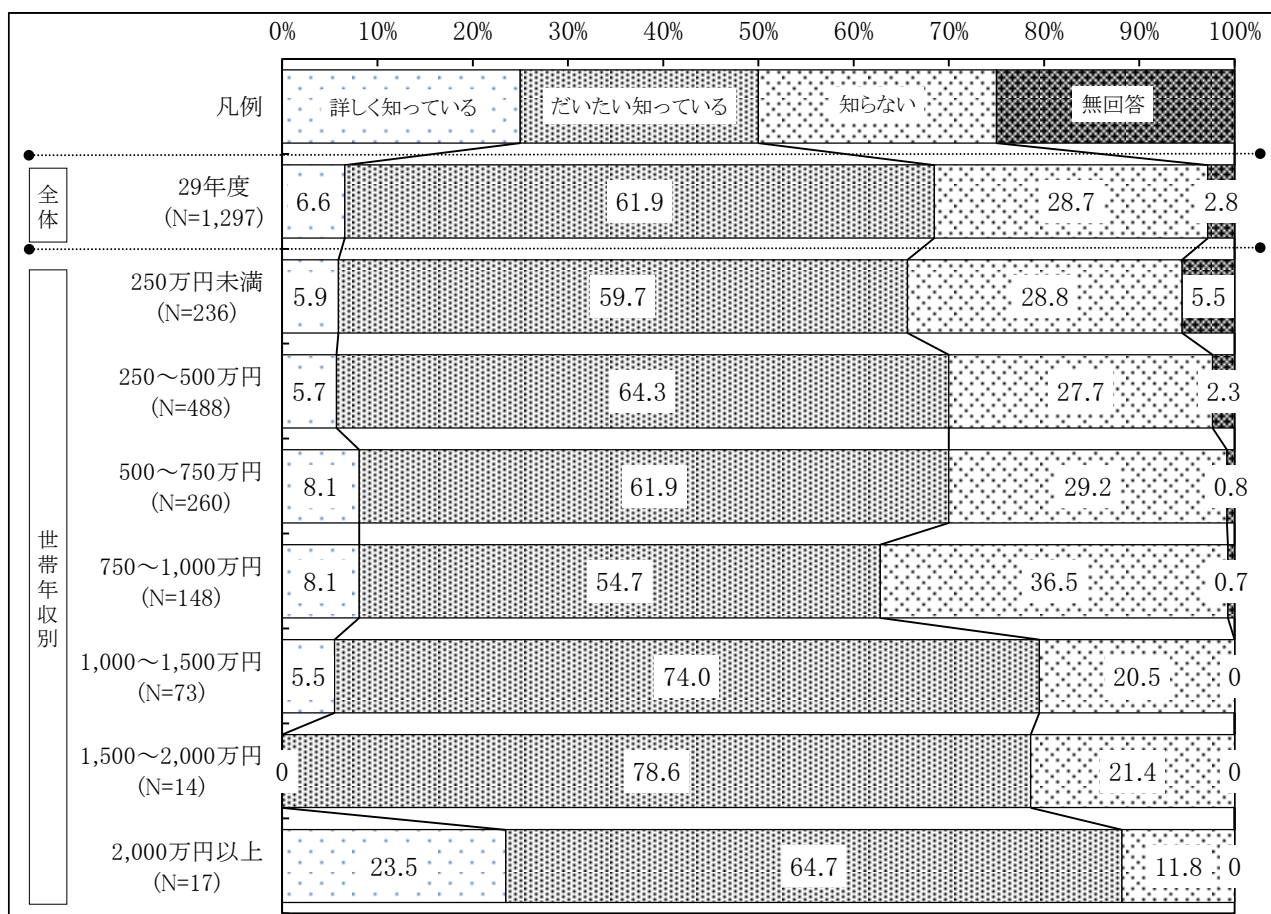
【年代別】「知らない」は30歳代(38.4%)が最も高く、次いで40歳代(33.7%)、20歳代(31.6%)の順となっている。



【住居区別】「知らない」は豊平区(36.2%)が最も高く、次いで厚別区(34.4%)、東区(32.9%)の順となっている。



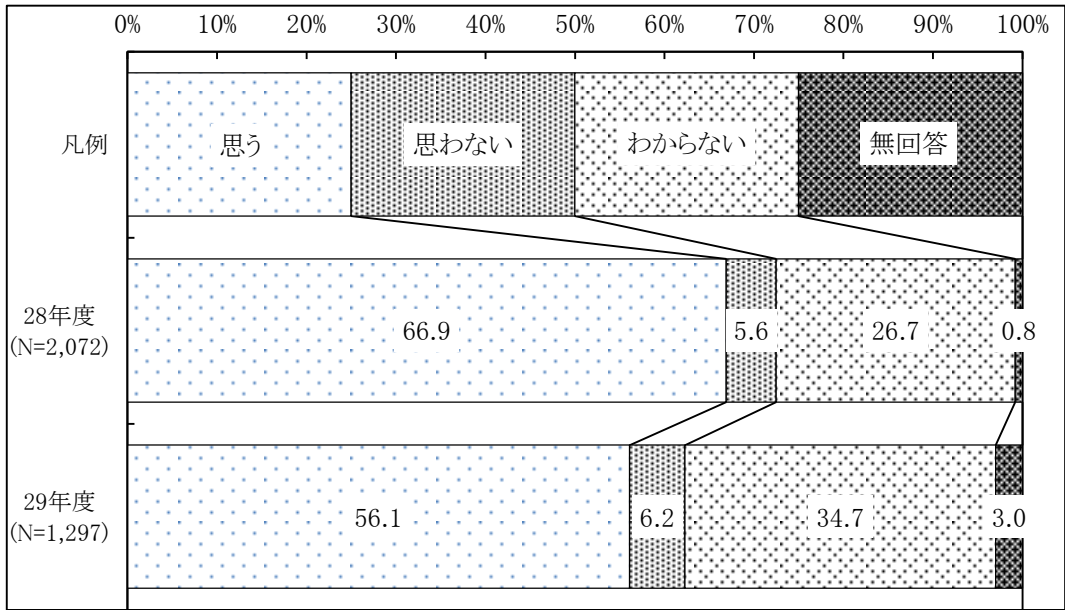
【世帯年収別】「知らない」は世帯年収が上がるにつれて低くなる傾向。



■燃料電池自動車（FCV）の普及に対する認識

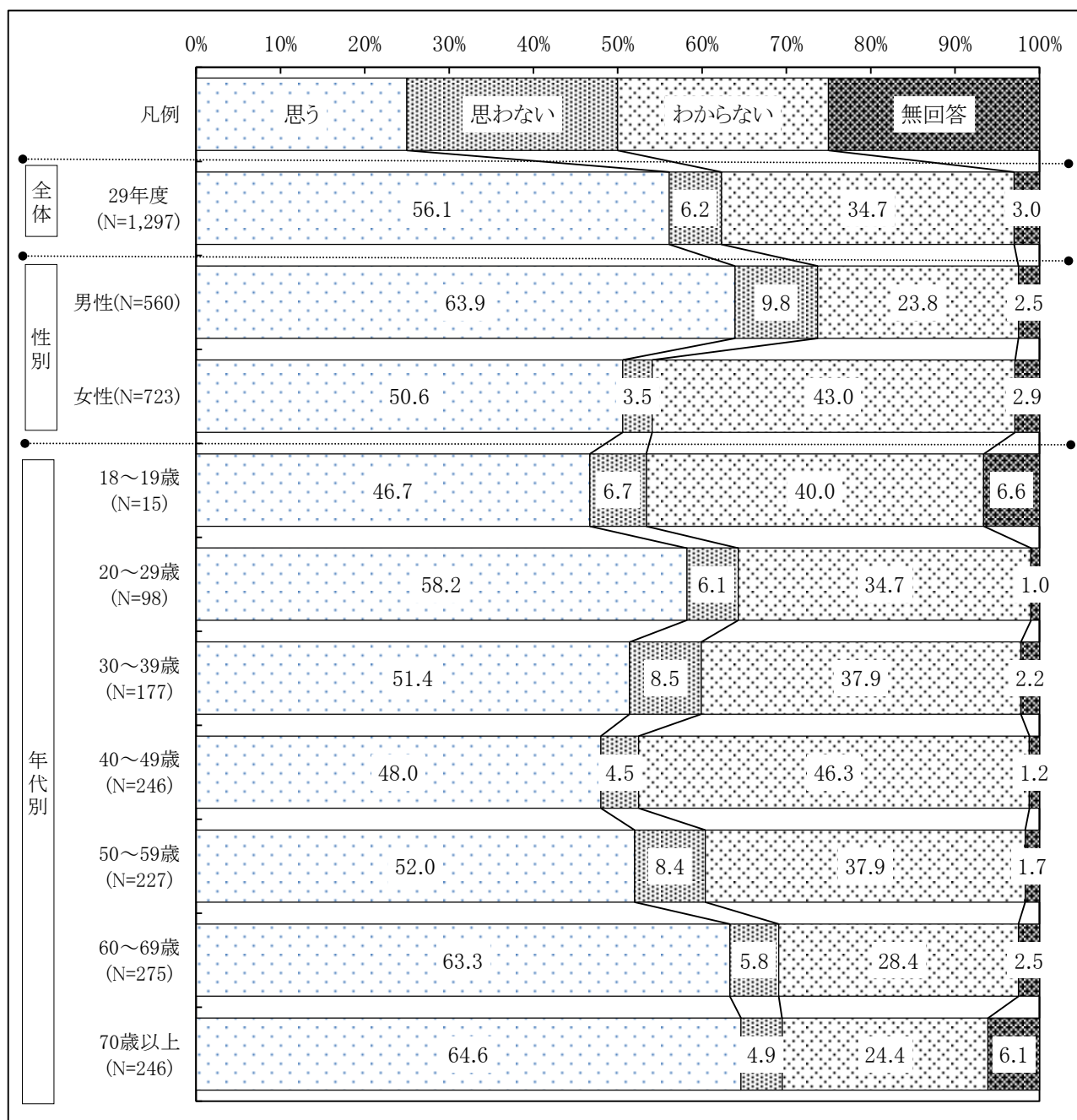
【問 15】 あなたは、燃料電池自動車（FCV）の普及を進めるべきだと思いますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】燃料電池自動車（FCV）の普及を進めるべきだと「思う」は、平成 29 年度が 56.1%であり、平成 28 年度の 66.9%より 10.8 ポイント低くなっている。一方、「わからない」は平成 29 年度が 34.7%であり、平成 28 年度の 26.7%より 8.0 ポイント高くなっている。

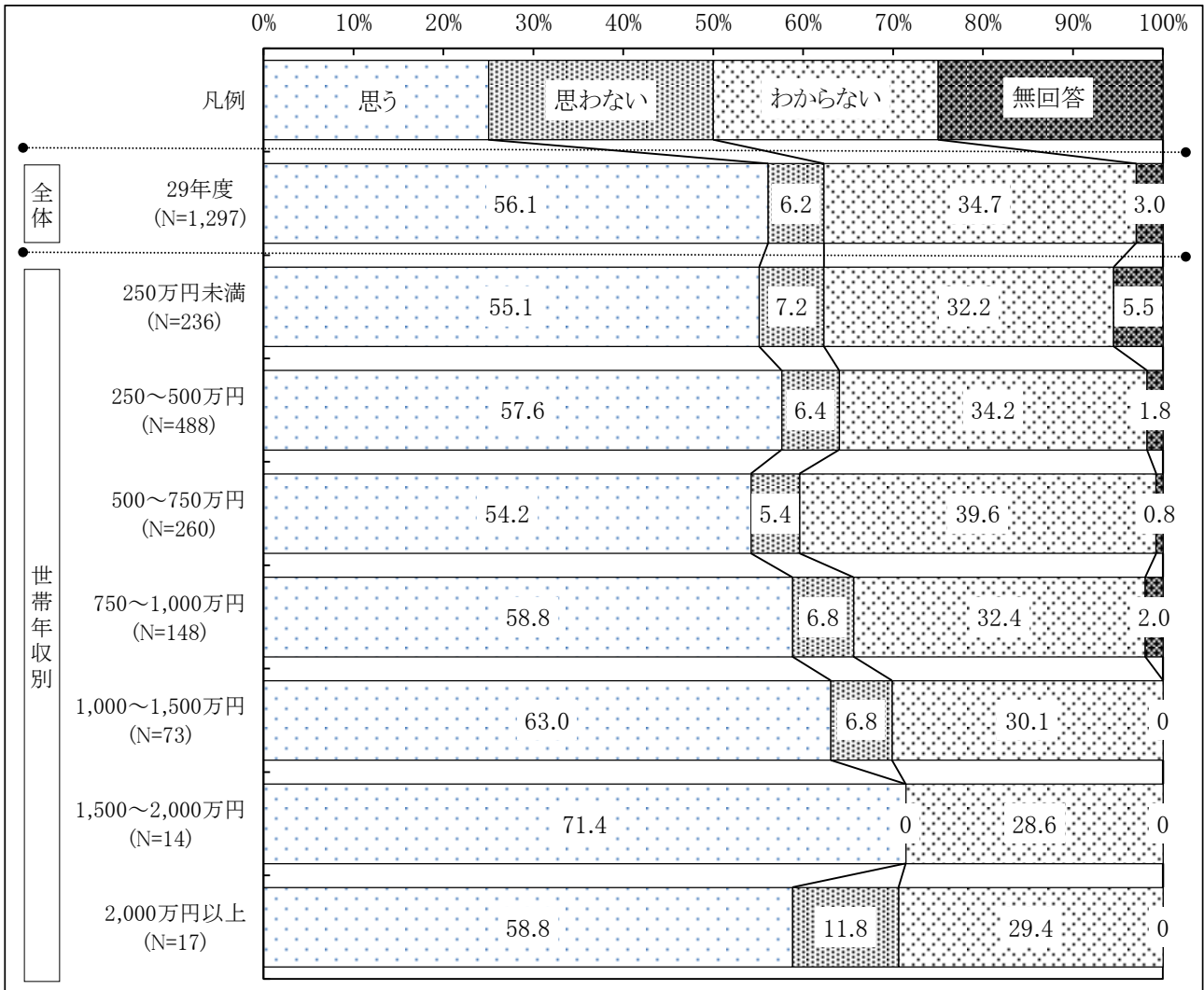


【性別】「思う」は男性が63.9%であり、女性の50.6%より13.3ポイント高くなっている。

【年代別】「思う」は70歳以上が64.6%と最も高く、次いで60歳代(63.3%)、20歳代(58.2%)の順となっている。



【世帯年収別】「思う」は1,500~2,000万円が71.4%と最も高くなっている。

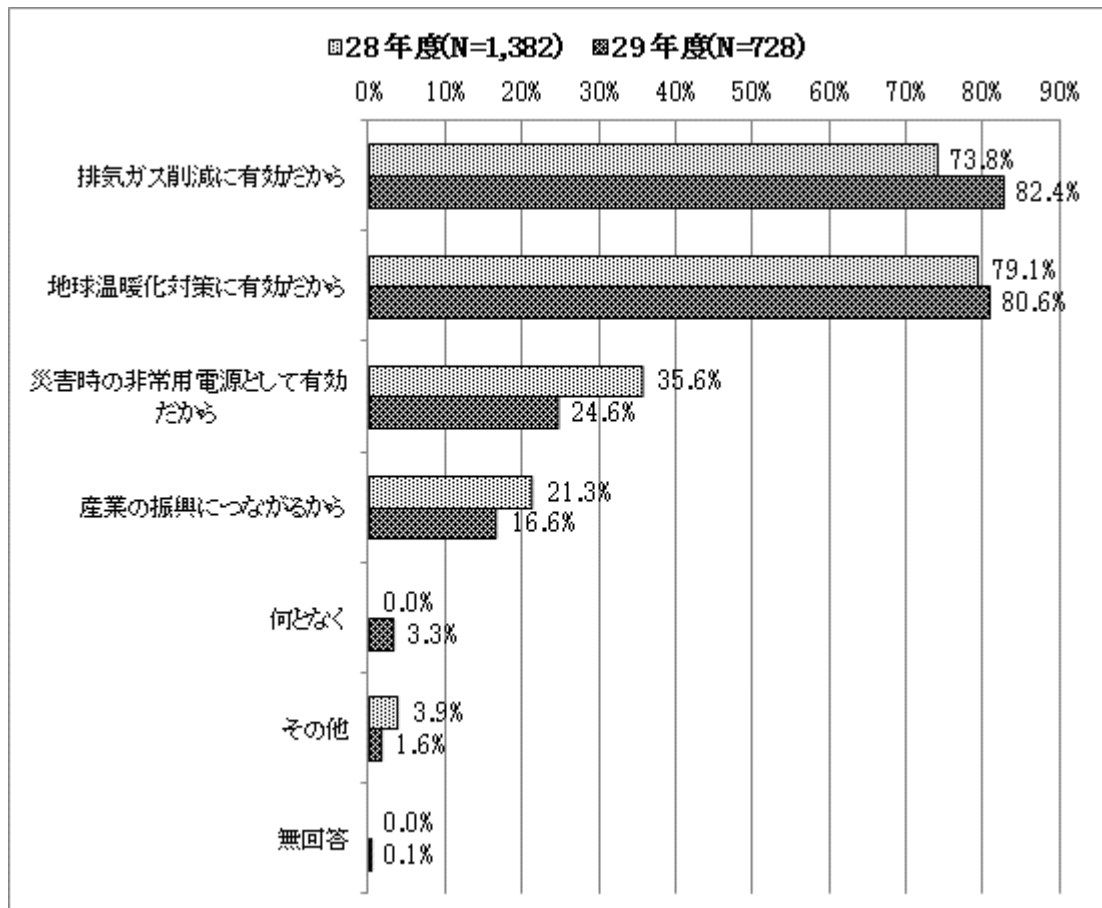


■燃料電池自動車（FCV）を普及すべきと思う理由

《【問 15】で「思う」に○をつけた方にお聞きします》

【問 15-1】 燃料電池自動車（FCV）の普及を進めるべきだと思う理由は何ですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】燃料電池自動車（FCV）の普及を進めるべきだと思う理由は、「排気ガス削減に有効だから」が 82.4%、「地球温暖化対策に有効だから」が 80.6%。



【性別】「産業の振興につながるから」は男性が21.8%であり、女性の11.7%より10.1%ポイント高くなっている。

【年代別】「地球温暖化対策に有効だから」は50歳代(88.1%)が最も高く、最も低い20歳代(63.2%)より24.9ポイント低くなっています。

【世帯年収別】「産業の振興につながるから」が1,000万円以上で平均よりも10%以上高くなっている。

	サンプル数	排気ガス削減に有効だから	地球温暖化対策に有効だから	災害時の非常用電源として有効だから	産業の振興につながるから	何となく	その他	無回答
29年度	728	82.4	80.6	24.6	16.6	3.3	1.6	0.1
《性別》								
男性	358	80.4	79.6	22.3	21.8	3.6	0.8	0
女性	366	83.9	81.7	26.8	11.7	3	2.5	0.3
《年代別》								
18～19歳	7	71.4	71.4	0	0	14.3	0	0
20～29歳	57	82.5	63.2	21.1	12.3	8.8	7	0
30～39歳	91	85.7	71.4	28.6	20.9	7.7	0	0
40～49歳	118	79.7	78.8	20.3	17.8	4.2	2.5	0
50～59歳	118	83.1	88.1	30.5	13.6	0.8	1.7	0
60～69歳	174	83.9	83.9	21.3	17.8	2.3	1.7	0
70歳以上	159	79.9	84.9	27	17	0.6	0	0.6
《世帯年収別》								
250万円未満	130	85.4	85.4	28.5	16.9	1.5	2.3	0
250～500万円	281	84.7	78.6	24.9	16.7	4.6	1.8	0.4
500～750万円	141	79.4	80.1	19.9	16.3	1.4	0.7	0
750～1,000万円	87	78.2	85.1	21.8	10.3	5.7	2.3	0
1,000～1,500万円	46	80.4	73.9	32.6	28.3	2.2	0	0
1,500～2,000万円	10	80.0	80.0	30.0	30.0	10.0	0	0
2,000万円以上	10	90.0	80.0	30.0	30.0	0	0	0

対象者全体と比較し10%以上高い

単位 % (サンプル数を除く)

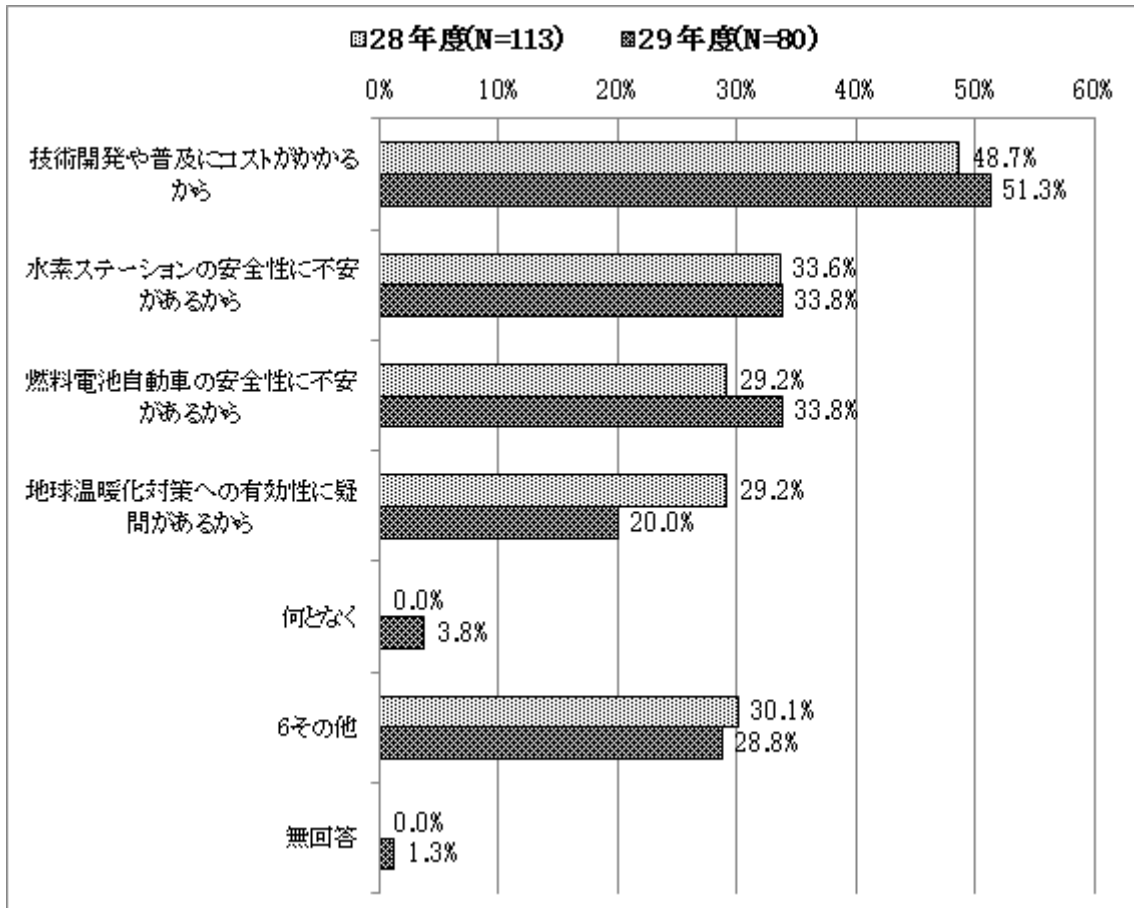
対象者全体と比較し10%以上低い

■燃料電池自動車（FCV）を普及すべきと思わない理由

《【問 15】で「思わない」に○をつけた方にお聞きします》

【問 15-2】 燃料電池自動車（FCV）の普及を進めるべきだと思わない理由は何ですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】燃料電池自動車（FCV）の普及を進めるべきだと思わない理由は「技術開発や普及にコストがかかるから」が 51.3%、「水素ステーションの安全性に不安があるから」と「燃料電池自動車の安全性に不安があるから」が 33.8%。



【性別】「燃料電池自動車の安全性に不安があるから」は女性が44.0%であり、男性の29.1%より14.9ポイント高くなっている。また、「温暖化対策への有効性に疑問があるから」は男性が23.6%であり、女性の12.0%より11.6ポイント高くなっている。

【年齢別】「技術開発や普及にコストがかかるから」は、70歳以上が75.0%、30歳代が66.7%。

【世帯年収別】「技術開発や普及にコストがかかるから」は500～750万円が85.7%、「水素ステーションの安全性に不安があるから」は1,000～1,500万円が48.4%と最も高くなっている。

	サンプル数	技術開発や普及にコストがかかるから	水素ステーションの安全性に不安があるから	燃料電池自動車の安全性に不安があるから	地球温暖化対策への有効性に疑問があるから	何となく	その他	無回答
29年度	80	51.3	33.8	33.8	20	3.8	28.8	1.3
《性別》								
男性	55	50.9	34.5	29.1	23.6	1.8	29.1	0
女性	25	52	32	44	12	8	28	4
《年代別》								
18～19歳	1	0	100	0	0	0	0	0
20～29歳	6	33.3	16.7	16.7	0	0	66.7	0
30～39歳	15	66.7	60	60	26.7	0	20	0
40～49歳	11	45.5	18.2	0	36.4	9.1	54.5	0
50～59歳	19	47.4	42.1	42.1	21.1	0	21.1	0
60～69歳	16	31.3	25	37.5	12.5	6.3	12.5	0
70歳以上	12	75	16.7	25	16.7	8.3	33.3	8.3
《世帯年収別》								
250万円未満	17	58.8	29.4	23.5	23.5	5.9	23.5	0
250～500万円	31	41.9	38.7	48.4	12.9	3.2	29	3.2
500～750万円	14	85.7	21.4	14.3	14.3	7.1	21.4	0
750～1,000万円	10	30	20	30	0	0	40	0
1,000～1,500万円	5	60	80	40	60	0	20	0
1,500～2,000万円	0	0	0	0	0	0	0	0
2,000万円以上	2	0	50	50	100	0	50	0

対象者全体と比較し10%以上高い

対象者全体と比較し10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

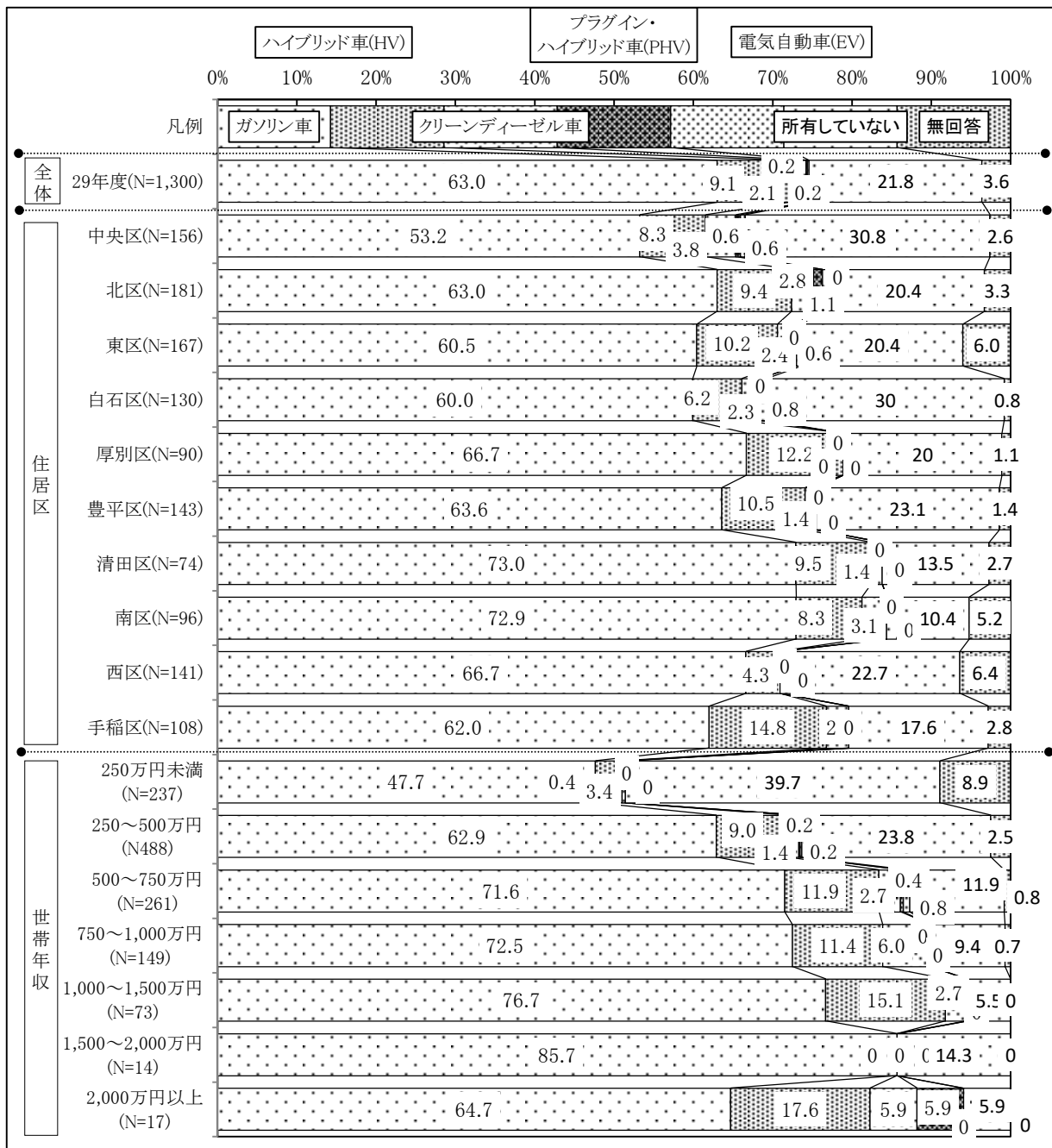
■現在使用している自家用車の種類

【問 16】 あなたは、現在、どのような種類の車を自家用車として使用していますか。主に使用しているものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 現在、主に使用している自家用車は「ガソリン車」が63%、「所有していない」が21.8%、「ハイブリッド車」が3.1%。

【住居区別】 「ガソリン車」は、清田区が73%と最も高く、次いで南区(72.9%)、厚別区・西区(66.7%)の順となっている。

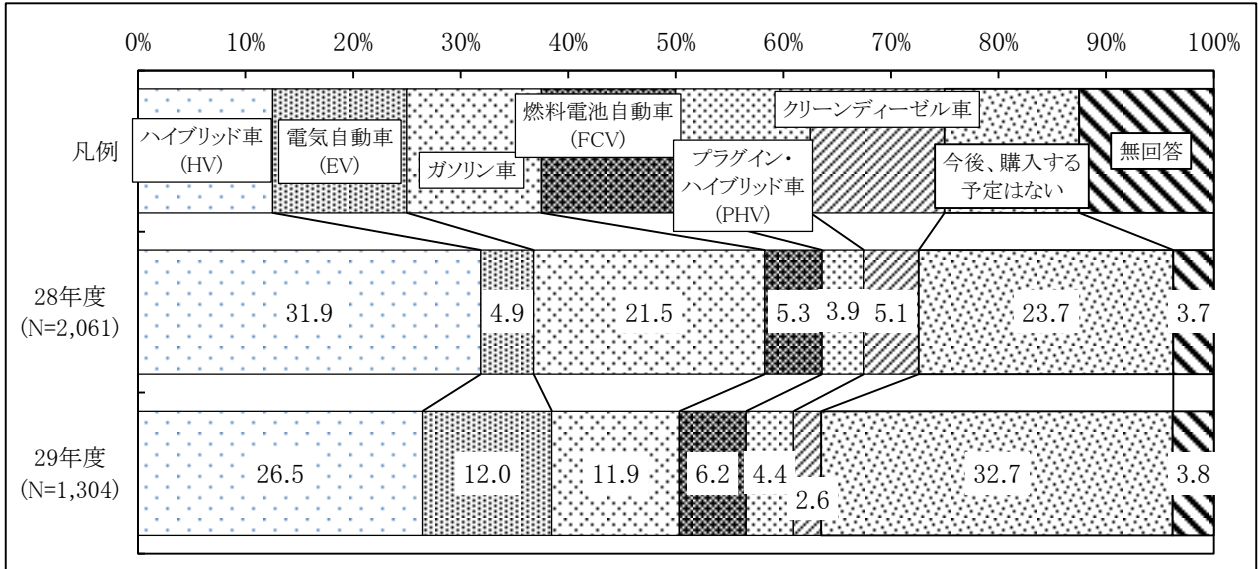
【世帯年収別】 「ガソリン車」は、1,500~2,000万円が85.7%と最も高く、次いで1,000~1,500万円(76.7%)、750~1,000円(72.5%)の順となっている。



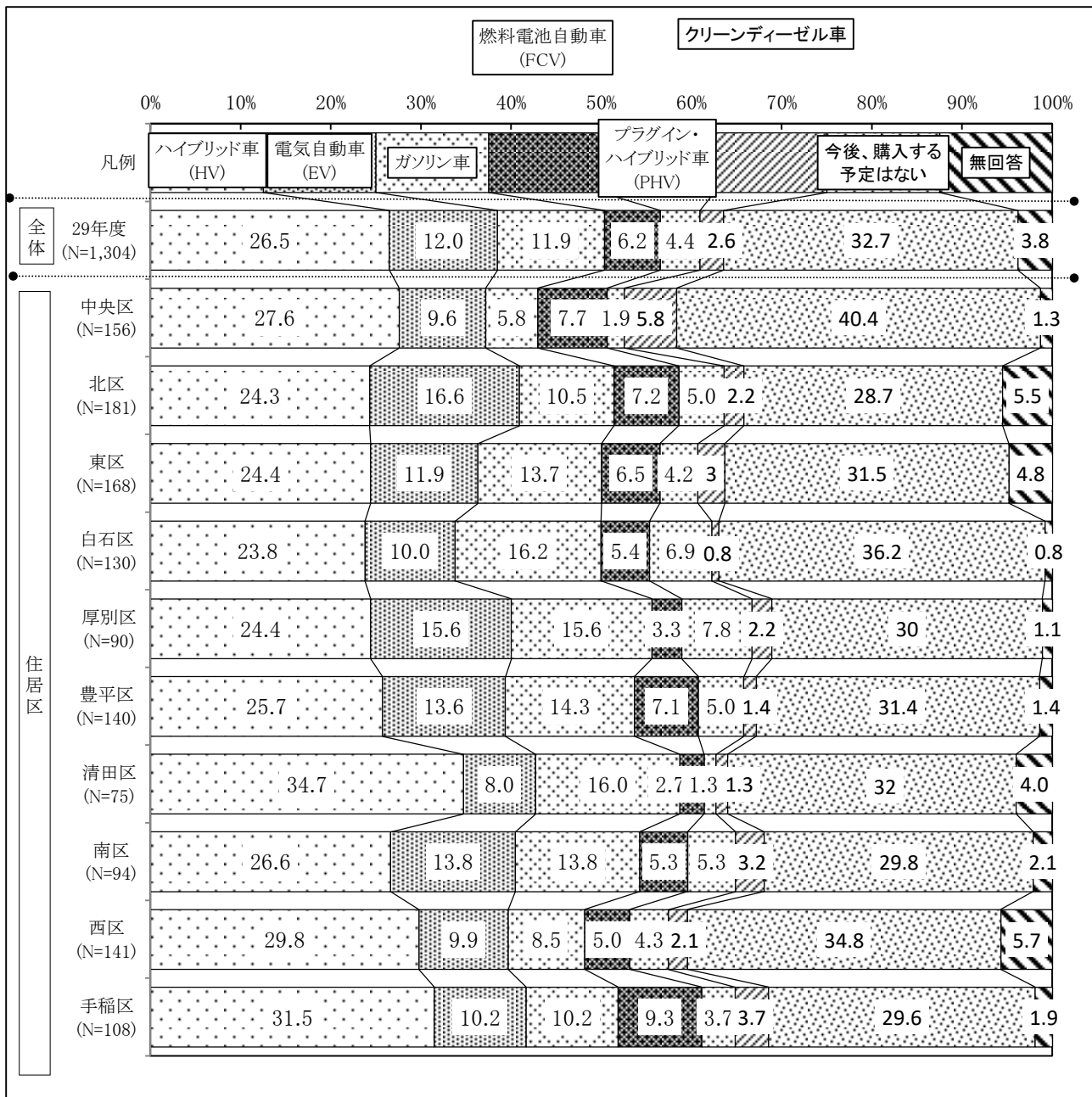
■今後使用したいと思う自家用車の種類

【問 17】 あなたは、今後、どのような種類の車を自家用車として使用したいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

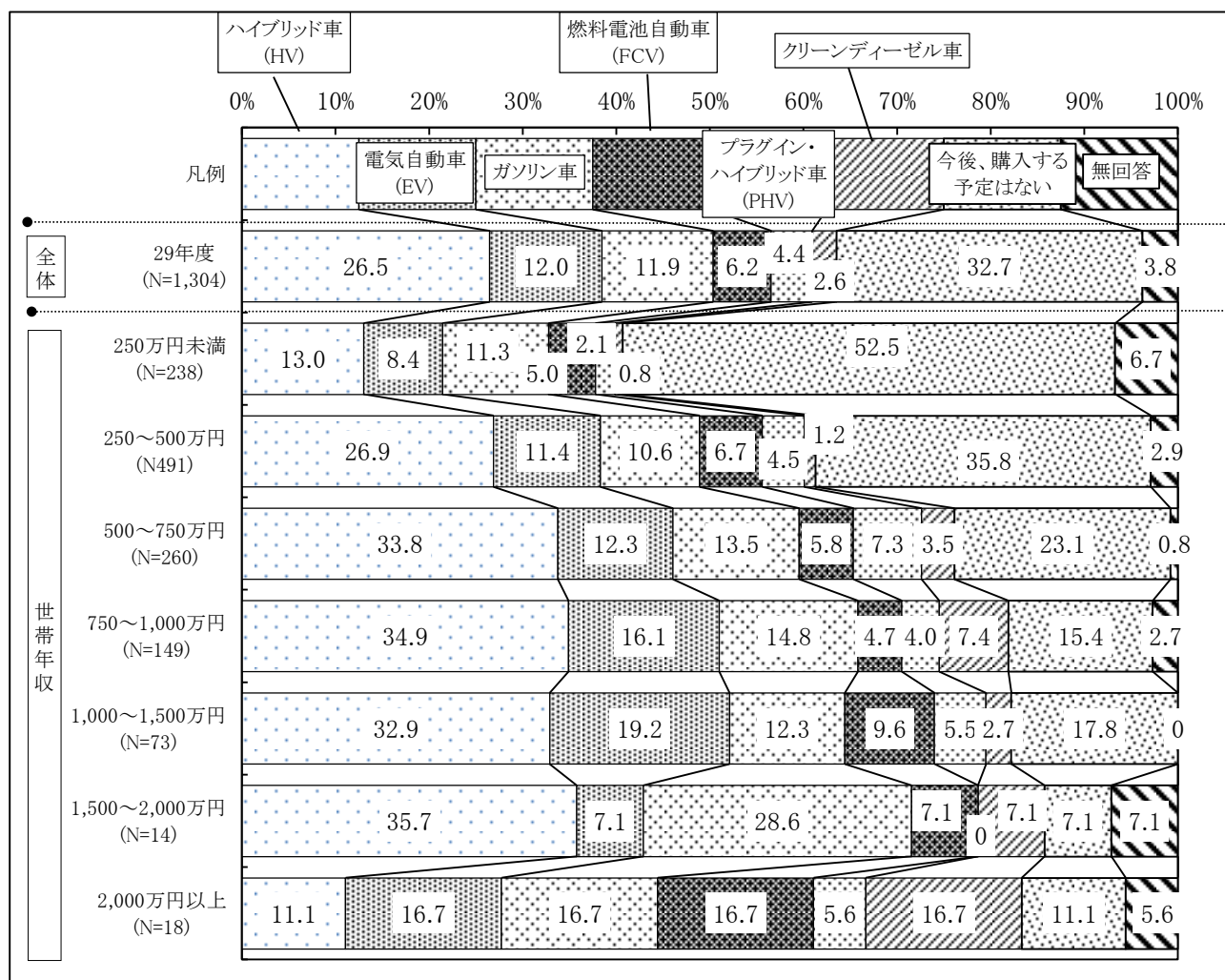
【全体】 今後、自家用車として使用したい車は「今後、購入する予定はない」が 32.7%、「ハイブリッド車 (HV)」が 26.5%、「電気自動車 (EV)」が 12.0%、「燃料電池自動車 (FCV)」が 6.2%。



【住居区】今後、自家用車として使用したい車は、住居区による大きな差は見られない。



【世帯年収別】今後、自家用車として使用したい車は、「燃料電池自動車(FCV)」の割合は2,000万円以上(16.7%)が最も高く、「電気自動車(EV)」の割合は1,000~2,000万円(19.2%)が最も高くなっている。



■「適応策」の認知度

【問 18】 地球温暖化による影響に対応し、被害を軽減することを、温暖化対策における「適応策」と言いますが、あなたはこの「適応策」という言葉を知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

補 足

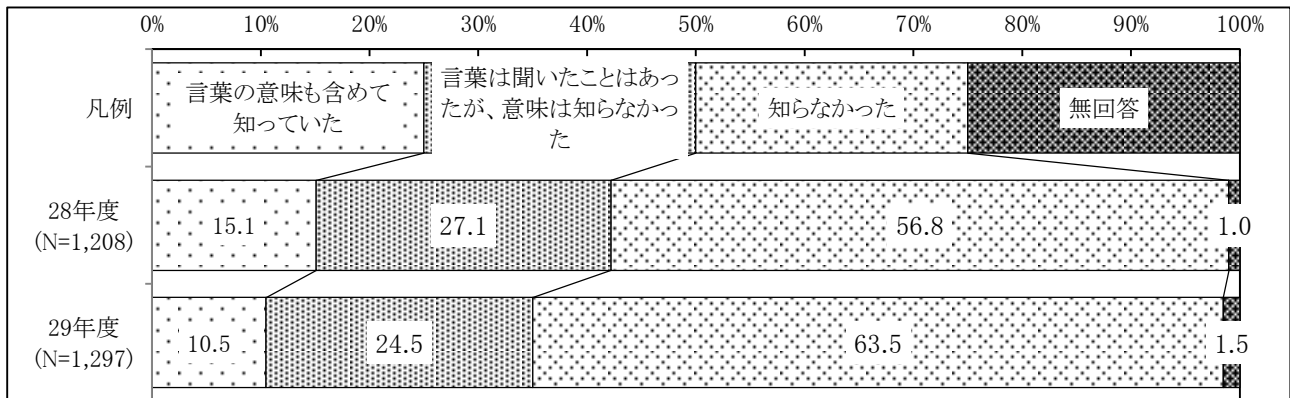
温暖化対策

- ・緩和策…温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制するための施策
- ・適応策…既に起こりつつある、あるいは起こりうる影響に対して、自然や人間社会のあり方を調整し、被害を防止・軽減するための施策

～適応策の具体例～

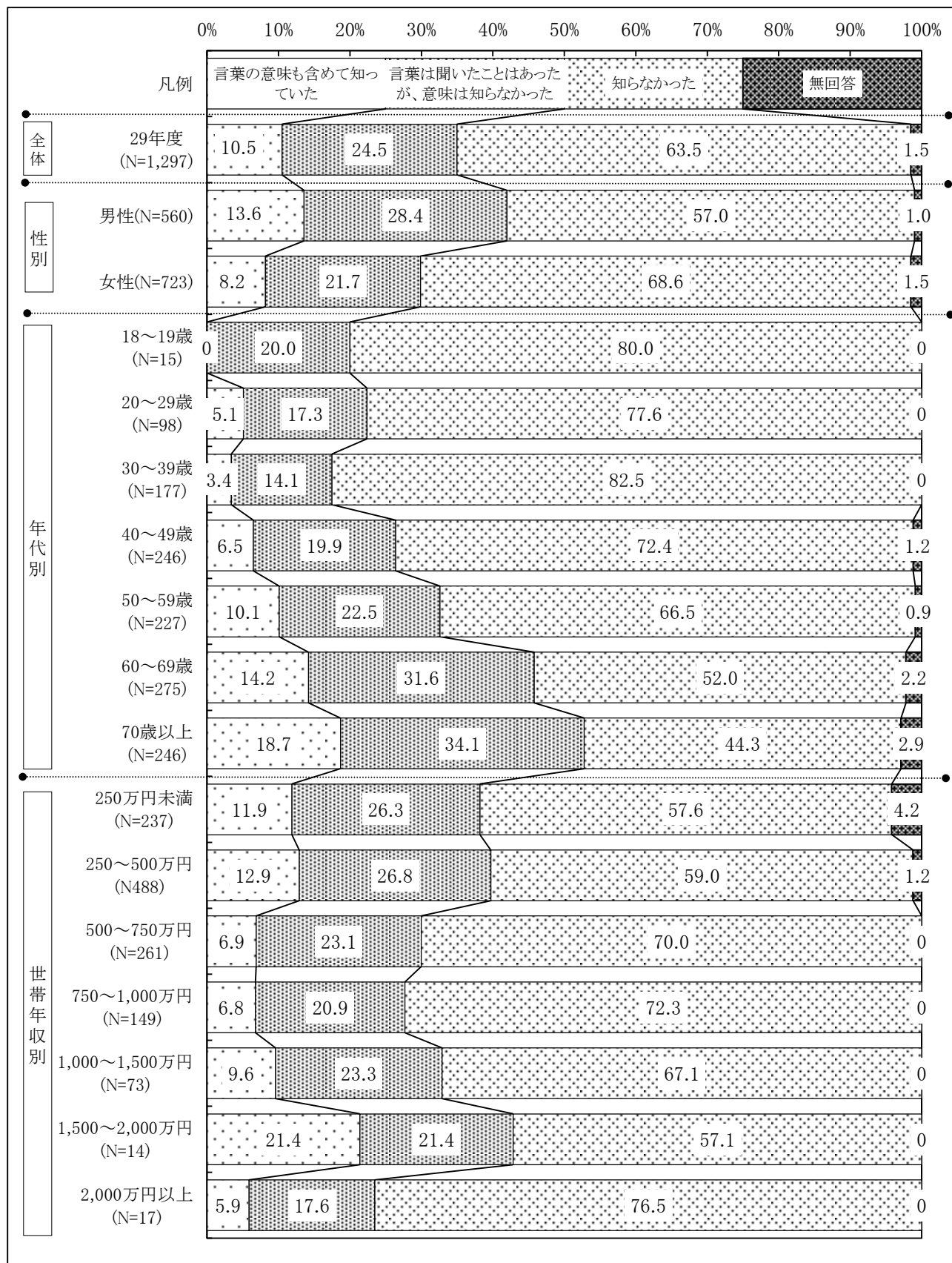
農作物の新種の開発、渇水対策、熱中症の早期警告、インフラ整備など

【全体】「適応策」という言葉を「知らなかった」が 63.5%。【性別】「知らなかった」は女性が 68.6% であり、男性の 57.0%より 11.6 ポイント高くなっている。



【年代別】「知らなかった」は、年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

【世帯年収別】世帯年収による大きな差は見られない。



■ 「SDG s」 の認知度

- 【問 19】 地球温暖化をはじめとした環境問題や様々な社会問題を解決するため、2015年9月、国連において「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が採用され、2030年までに世界全体で下の17のゴール(目標)の達成に向けて取り組むこととなりました。
 あなたはこの目標について知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

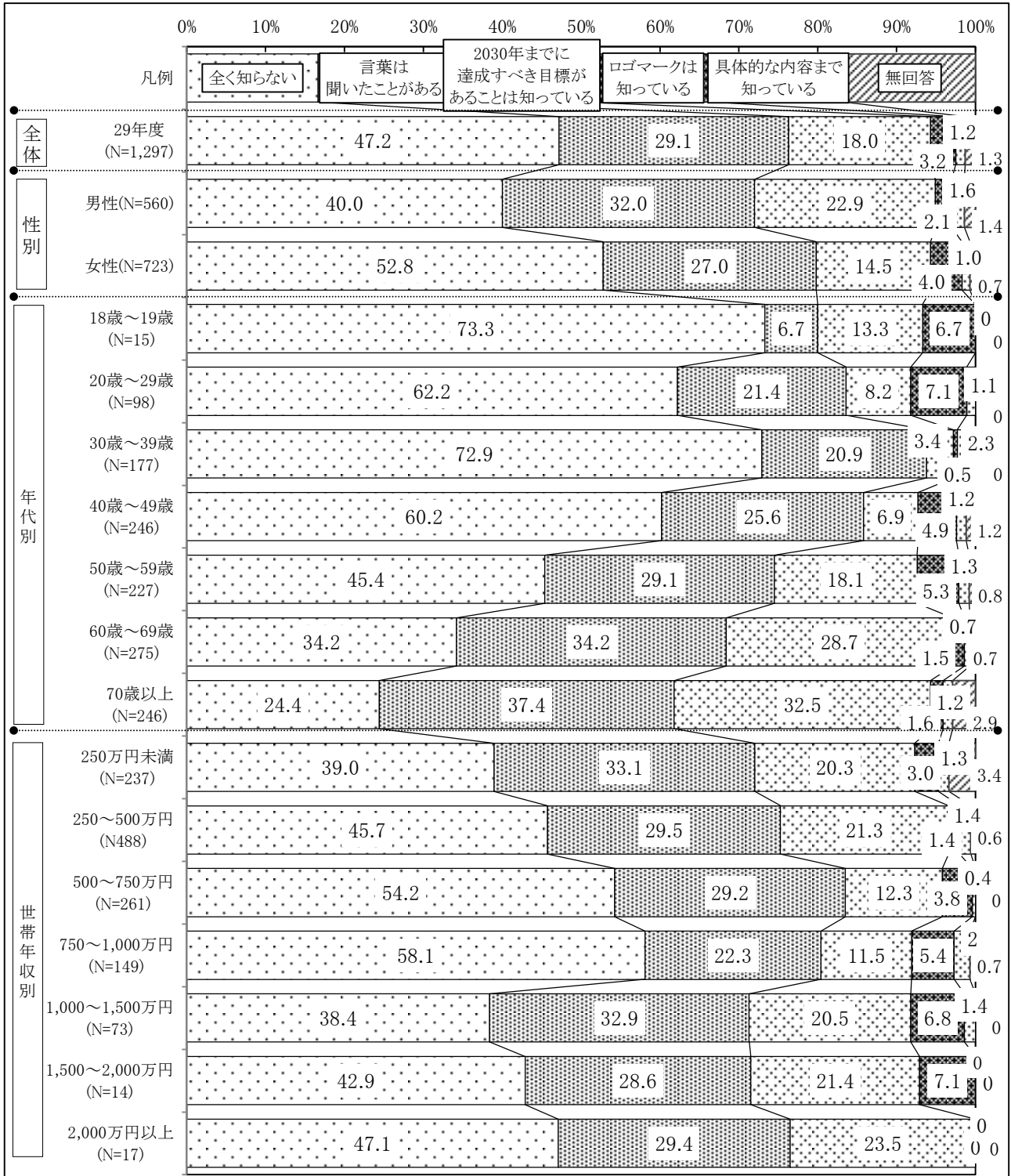


【全体】持続可能な開発目標(SDGs)について「全く知らない」が47.2%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」が29.1%、「2030年までに達成すべき目標があることは知っている」が18.0%の順となっている。

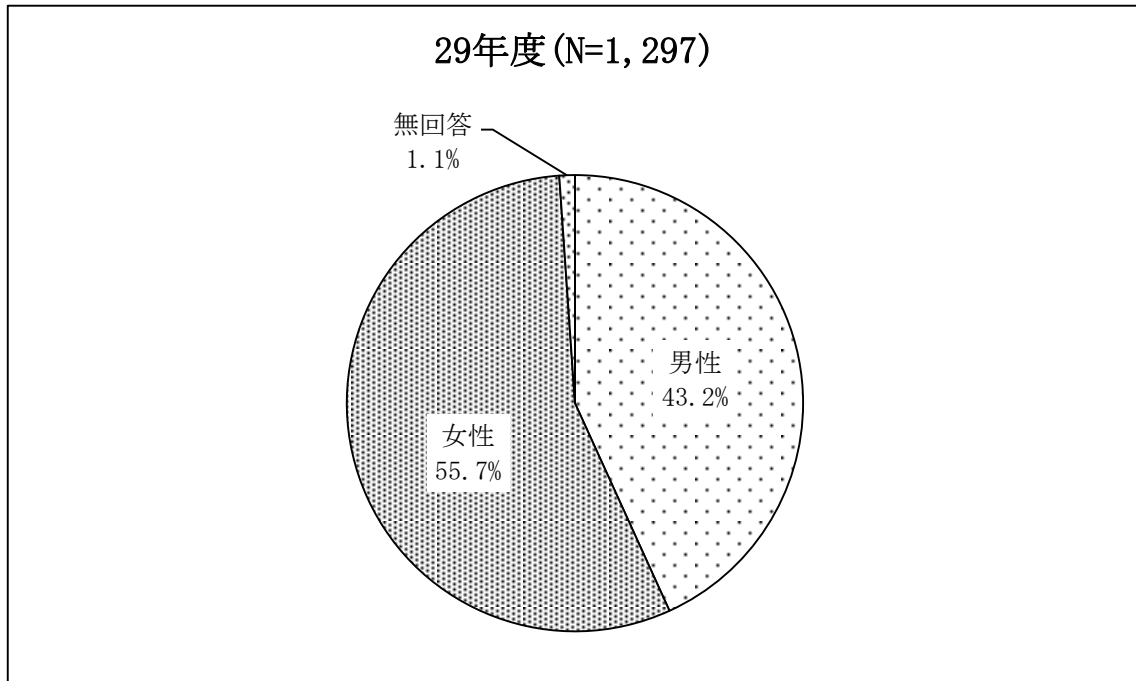
【性別】「全く知らない」は女性が52.8%であり、男性の47.2%より5.6ポイント高くなっている。

【年代別】「全く知らない」は年代が下がるにつれて割合が高くなる傾向。

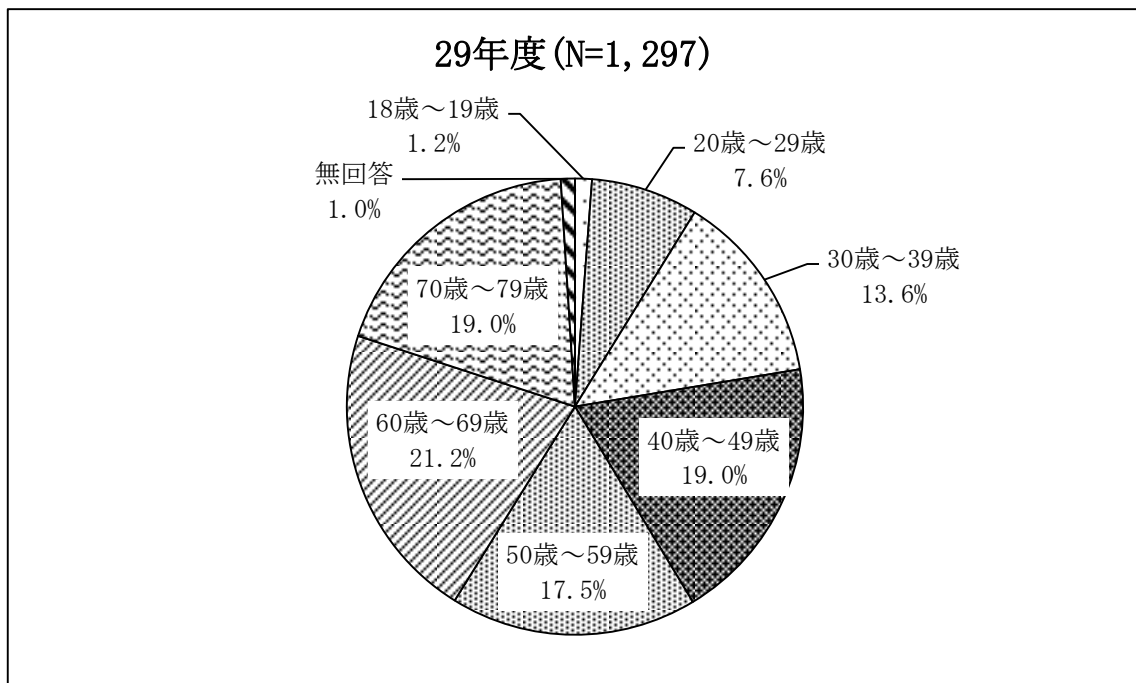
【世帯年収別】「全く知らない」は750~1,000万円が58.1%と最も高く、次いで500~750万円が54.2%、2,000万円以上が47.1%。



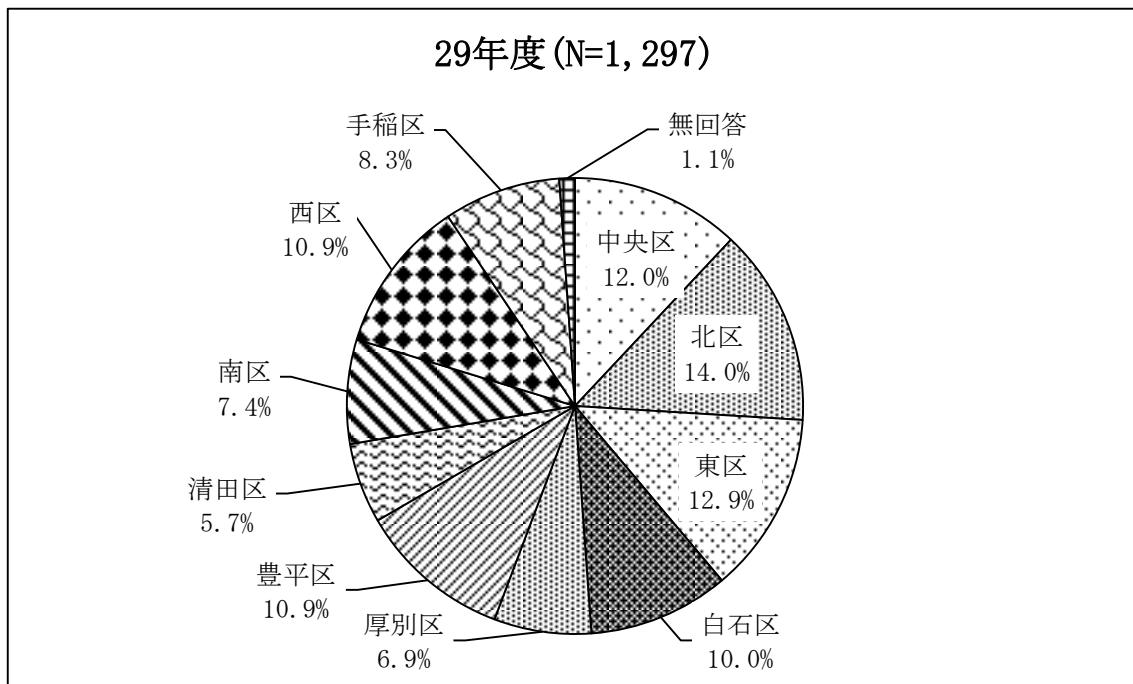
【F1】 あなたの性別は



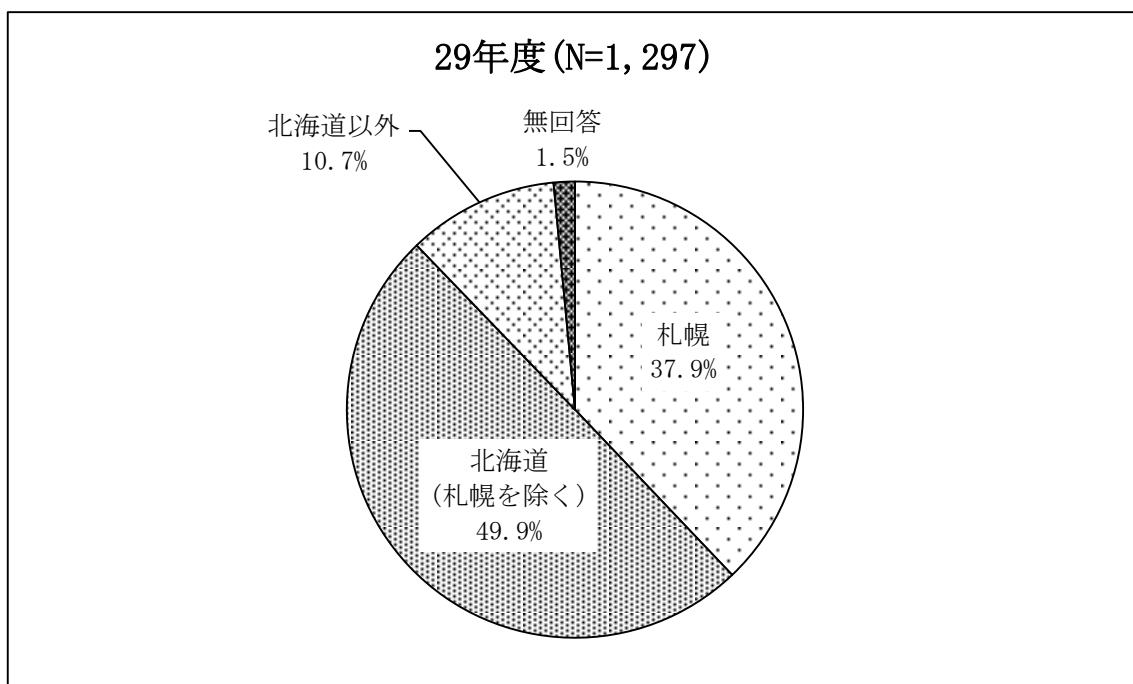
【F2】 あなたの年齢は (平成30年1月1日現在)



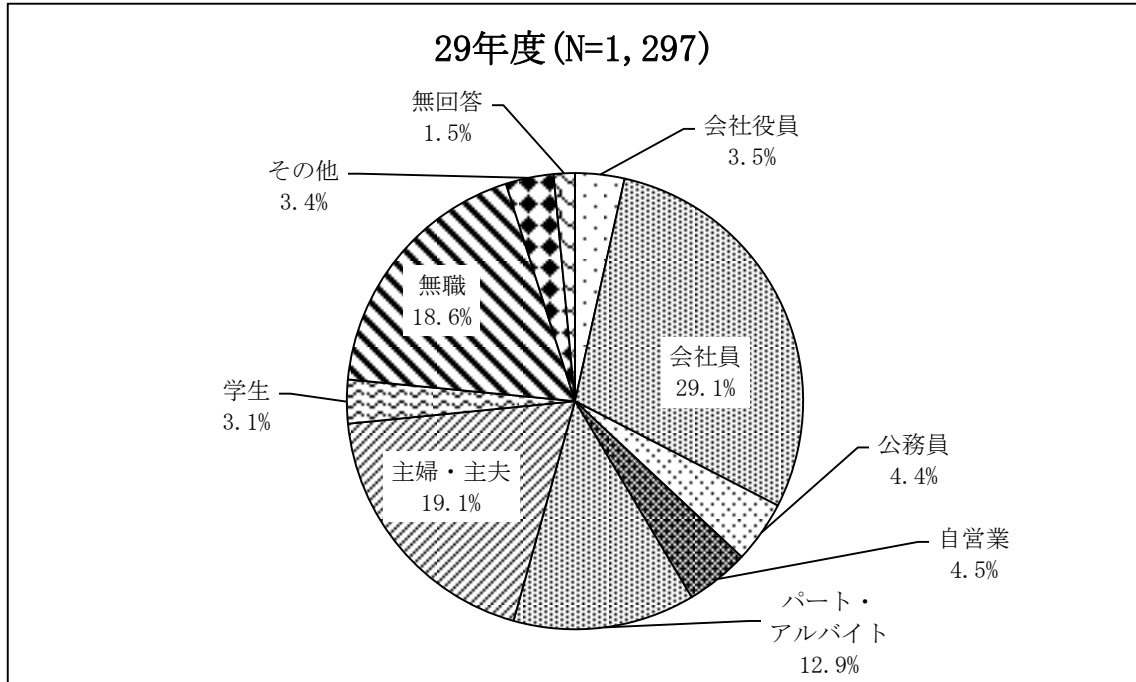
【F3】あなたは現在何区にお住まいですか



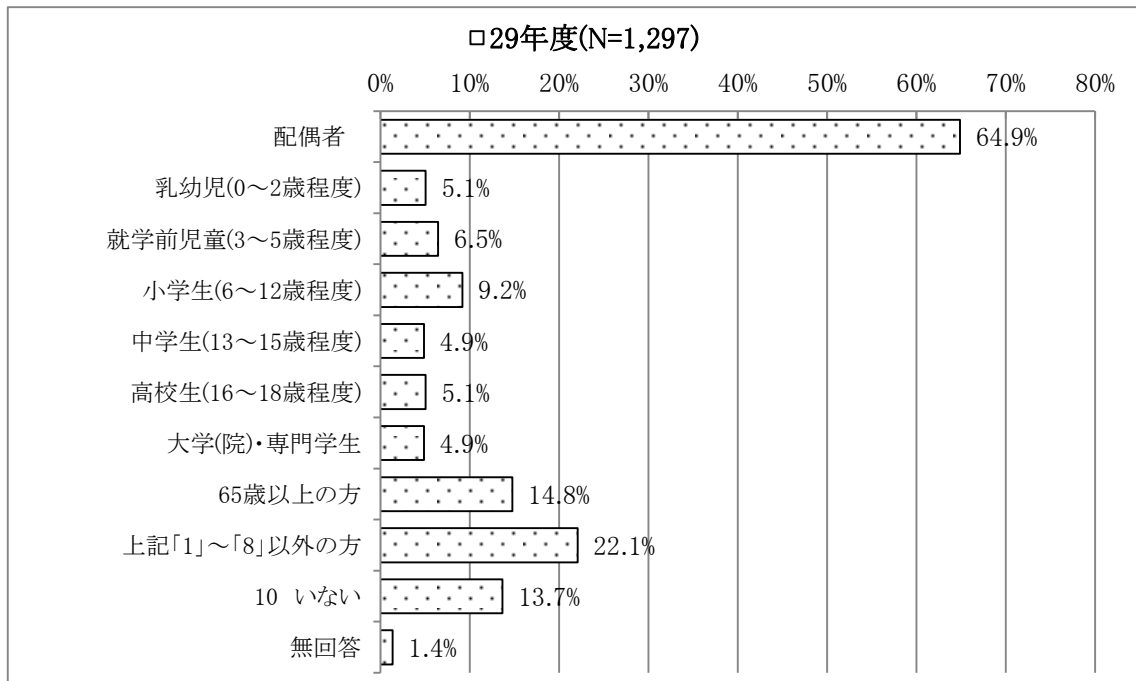
【F4】あなたの出身は（最も近いものに1つに○）



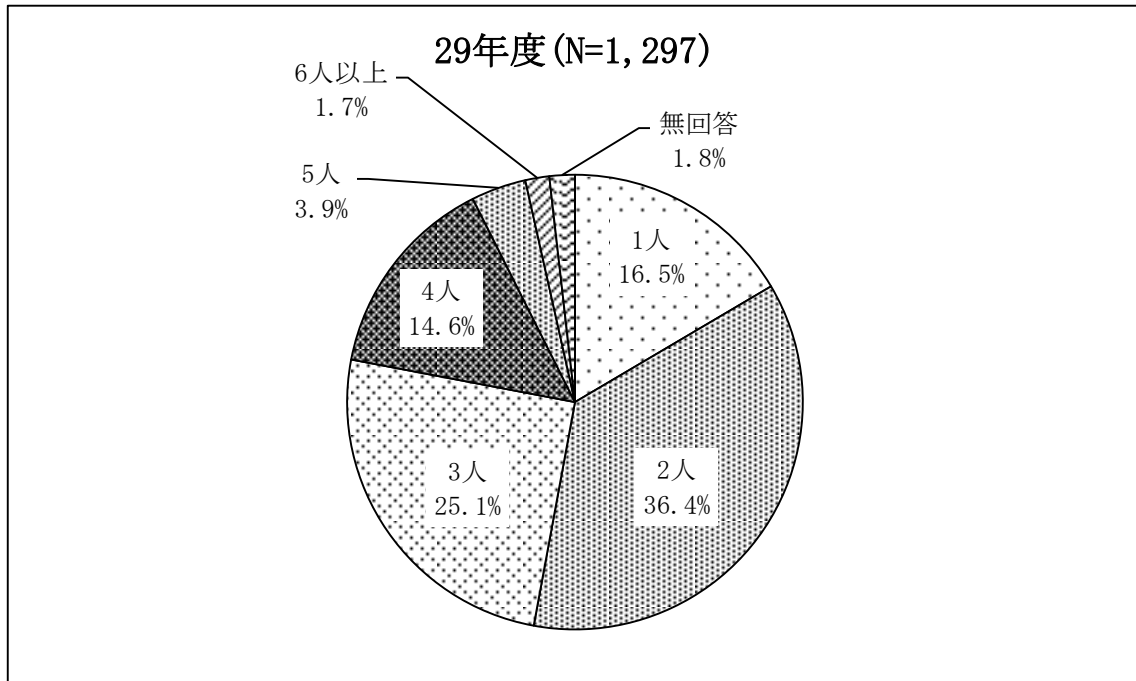
【F5】あなたのご職業は（最も近いものに1つに○）



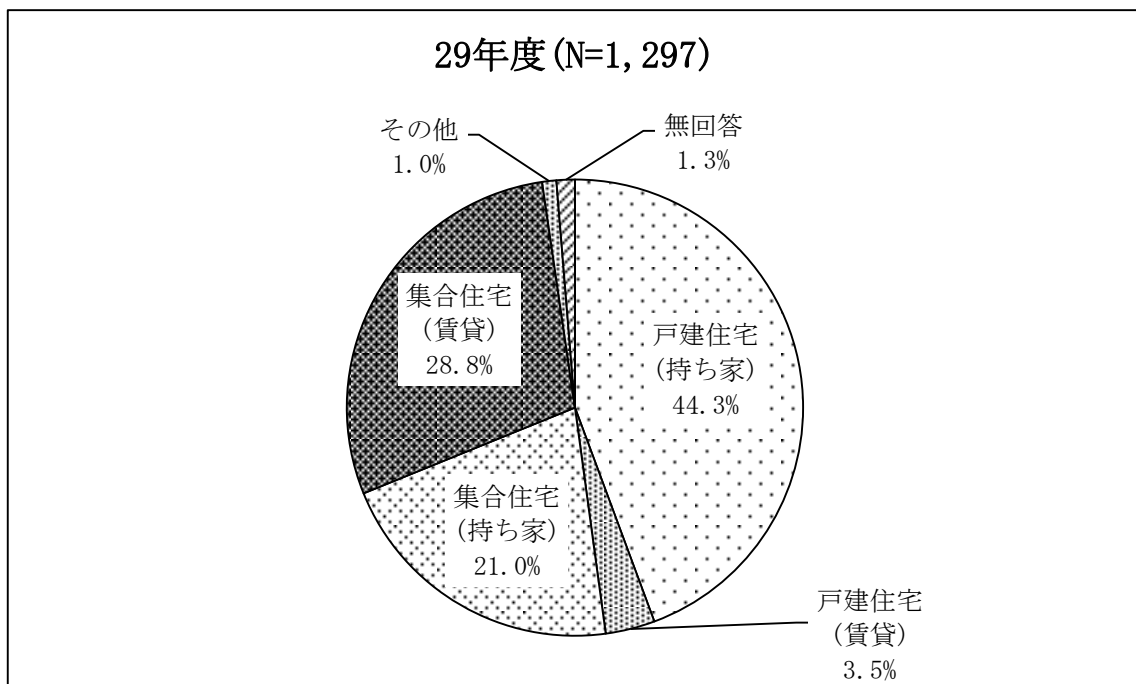
【F6】あなたが同居しているご家族は（あてはまるものにいくつでも○）



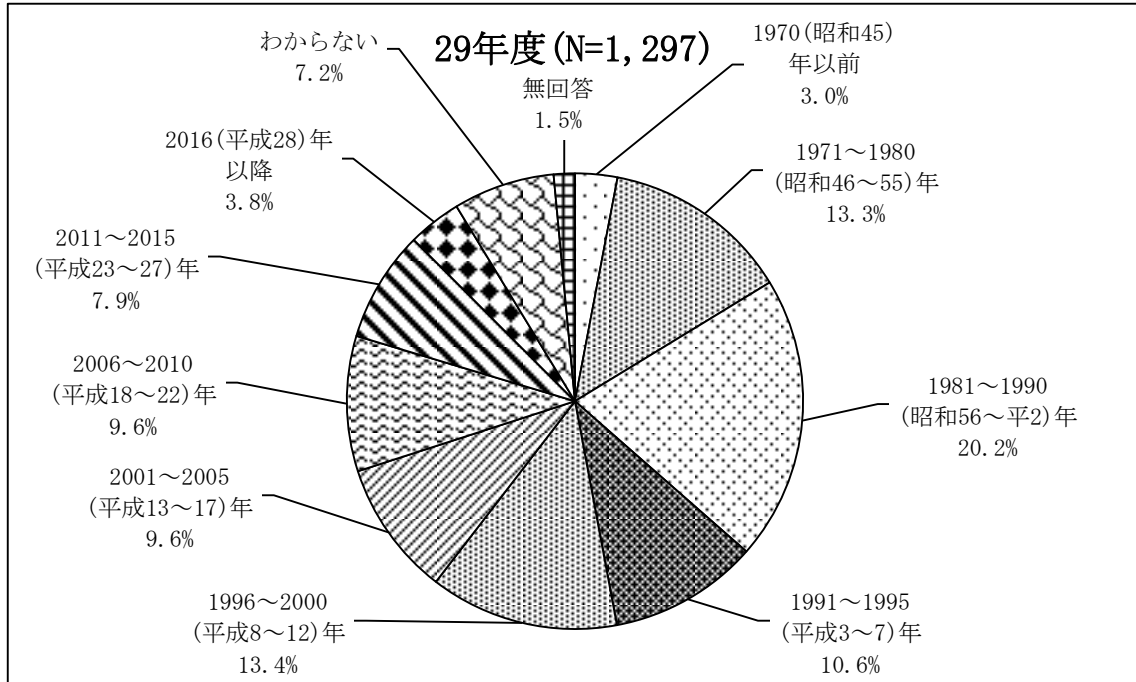
【F 7】 あなたが同居しているご家族の人数は（あなた自身を含めてお答えください）



【F 8】 あなたがお住まいになっている住居の形態は



【F9】 【あなたのお住まいの建築時期は



【F10】 あなたの世帯年収は (収入がある方全員の税込年収の合計をお答えください)

